

基準 7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点 7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程、専攻科課程ともに、最初の授業の中で授業担当者がシラバスに従って授業概要、評価法等を説明している(資料 7-1-①-1)。準学士課程 1～3 年生に対しては、特別活動実施の目安に則って計画的に学習ガイダンスを行っている(資料 7-1-①-2)。また、JABEE 教育プログラムの説明会を開催している(資料 7-1-①-3)。シラバスに沿った学習ガイダンス(資料 7-1-①-4)に対する学生の満足度については、授業改善アンケート結果からも良好と判断できる(資料 7-1-①-5)。

シラバスにオフィスアワー対応の時間帯を示し、学生の学習相談に応じている(資料 7-1-①-6～8)。

担任，教科担任による学習ガイダンス

平成 25 年度第 2 回教員会議議事要旨（案）

日 時 平成 25 年 5 月 15 日（水） 15：52～16：43

場 所 大会議室

出席者 佐藤（淳）、安齋、矢戸、内海、佐藤（司）、五十嵐、佐々木、今野、上松、田邊、加田、山田、 以外

議 題

1. 平成 25 年度鶴岡高専年度計画について

評価・改善委員会委員長から、本件について、資料 1 に基づき説明があり、年度計画の達成に向けご協力願いたい旨述べられた。

2. 第 50 回東北地区高等専門学校体育大会（B 大会）校内実行委員会について

学生主事から、本件について資料 2 に基づき説明があり、ご協力をよろしく願いたい旨述べられた。

3. 第 48 回全国高等専門学校体育大会（剣道競技）校内実行委員会について

学生主事から、本件について資料 3 に基づき説明があり、ご協力をよろしく願いたい旨述べられた。

4. 校内体育大会について

教務主事から、本件について、各顧問の先生方にはご協力願いたい旨述べられた。

次いで、南教務主事補から、資料 4 に基づき委細説明があり、各クラス担任におかれては、スポーツマンシップに則って試合に臨むよう学生へのご指導をよろしく願いたい旨述べられた。

5. 工場見学実施予定について

本件について、教務主事から資料 5 に基づき説明があり、よろしく願いたい旨、また、今年も海外での工場見学を行う予定としているが、希望者がまだ少ないので、周知をお願いしたい旨述べられた。

次いで、校長から、訪問予定の企業（タイ サイアムスタビライザー社）は、卒業生が副社長を務める会社であり、海外で活躍している卒業生をみる良い機会でもあるので、よろしく願いたい旨述べられた。

6. 平成 25 年度 TOEIC IP テストの実施について

本件について、教務主事から、今年度も英語科の教員の協力を得て、学内で 4 回実施する旨、資料 6 に基づき説明があり、試験へのご協力と学生へのご指導をよろしく願いたい旨述べられた。

7. コンプライアンスに関するセルフチェックの実施について

本件について、総務課長から資料 7 に基づき説明があった。

9. その他

1) 教務主事から、シラバスについては、最初の授業での説明時に使用するなど、各教員でそれぞれ活用いただいているところであるが、到達目標や評価方法などについて、学生への説明に際し、積極的に活用いただきたい旨述べられた。

（出典：平成 25 年度第 2 回教員会議議事録）

資料 7 - 1 - ① - 2

平成25年度 特別活動実施の目安				
平成25年4月1日作成				
回数	実施月日 (水曜日)	1年【7校時】	2年【7校時】	3年【7校時】
1	4月10日	生活ガイダンス(学生主事他)	新学年にあたり(担)シラバスの説明	新学年にあたり(担)シラバスの説明
2	4月17日	交通講話	交通講話	交通講話
3	4月24日	校内体育大会(5/22)選手選考(担)	校内体育大会(5/22)選手選考(担)	校内体育大会(5/22)選手選考(担)
4	5月1日	(担任)	(担任)	キャリア及びCOOPガイダンス(各学科室員)
5	5月8日	学生会総会	学生会総会	学生会総会
6	5月15日	キャリアガイダンス(各学科長)	キャリアガイダンス(各学科室員)	(担任)
7	5月22日	校内体育大会	校内体育大会	校内体育大会
8	5月29日	前期中間試験(6/14～)に向けて	前期中間試験(6/14～)に向けて	前期中間試験(6/14～)に向けて
9	6月5日	スキルアップ講座(教務主事補・各学科単位)	特別講演会(知財)(仙台高専・佐々木CD)	JABEEガイダンス(FD委員会)
10	6月12日	合同観劇	合同観劇	合同観劇
11	6月19日	前期中間試験	前期中間試験	前期中間試験
12	6月26日	前期中間試験成績指導	前期中間試験成績指導	前期中間試験成績指導
13	7月3日	選手社行式	選手社行式	選手社行式
14	7月10日	「高専生活の過ごし方」(各学科専攻科生)	「高専生活の過ごし方」(各学科専攻科生)	ビジネス講座(加藤学校長):全学科
15	7月17日	性に関する講演会	企業訪問研修ガイダンス(COOP教育推進室)	企業訪問研修ガイダンス(COOP教育推進室)
16	7月24日	生活指導講演会	生活指導講演会	生活指導講演会
17	7月26日	夏季休業前指導	夏季休業前指導	夏季休業前指導
18	9月4日	防災訓練	防災訓練	防災訓練
19	9月11日	前期末試験に向けて	前期末試験に向けて	前期末試験に向けて
20	9月25日	前期末試験	前期末試験	前期末試験
21	10月2日	後期授業にあたり	後期授業にあたり	後期授業にあたり
22	10月9日	前期末試験成績指導・高専祭準備	前期末試験成績指導・高専祭準備	前期末試験成績指導・高専祭準備
23	10月16日	(担任)	サイエンス講話	インターンシップ講演会
24	10月23日	未来予想図講座(本校OB企業技術者)	未来予想図講座(本校OB企業技術者)	COOP教育報告会(COOP教育推進室)
25	11月6日	(担任)	サイエンス講話	(担任)
26	11月13日	後期中間に向けて	後期中間に向けて	後期中間に向けて
27	11月20日	ビジネス講座(加藤学校長):ME学科	サイエンス講話	(担任)
28	11月27日	後期中間試験	後期中間試験	後期中間試験
29	12月4日	ビジネス講座(加藤学校長):IB学科	サイエンス講話	特別講演「企業が求める人材」(地元企業経営者)
30	12月11日	将来イメージ講座(本校OB)	ビジネス講座(加藤学校長):ME学科	(担任)
31	12月18日	冬季休業に向けて	冬季休業に向けて	海外工場見学報告会(教務)
32	1月8日	(担任)	ビジネス講座(加藤学校長):IB学科	(担任)
33	1月15日	人間力講座(未定)	キャリアガイダンス①(職業興味検査VRT:実施)	COOP教育ガイダンス(COOP教育推進室)
34	1月22日	(担任)	キャリアガイダンス②(職業興味検査VRT:結果)	(担任)
35	1月29日	「高専生のキャリアプラン」(高専機構・三好教授)	キャリアガイダンス③(職業興味検査VRT:分析)	人間力講座(未定)
36	2月5日	学年末試験(2/20-26)に向けて	学年末試験(2/20-26)に向けて	学年末試験(2/20-26)に向けて
37	2月12日	1学年を終わるにあたり	2学年を終わるにあたり	3学年を終わるにあたり
38	2月19日	(担任)	(担任)	(担任)
39	2月26日	学年末試験	学年末試験	学年末試験
学校行事・試験他		12回	14回	13回
キャリア教育回数		9回	10回	7回
担任指導回数		18回	15回	19回

(出典：学生課資料)

J A B E E ガイダンス資料（抜粋）

JABEE教育プログラム説明会

(H24.3.29 3年生特活 FD委員会 飯島政雄)

- ・ 卒業生への期待
- ・ JABEEとは？
- ・ 本校のJABEE認定と審査状況
- ・ JABEE教育プログラムの特徴
- ・ 本校のプログラム「生産システム工学」
- ・ プログラムの履修対象者
- ・ " 学習教育目標
- ・ " 修了要件
- ・ JABEE取得の目的と意義
- ・ まとめ

JABEEとは？

日本技術者教育認定機構

(J a p a n A c c r e d i t a t i o n B o a r d f o r E n g i n e e r i n g E d u c a t i o n)

技術系学協会と密接に連携し、大学、高専など高等教育機関で行われている技術者教育プログラムの内容、水準を審査し認定を行う非政府団体の組織(年 月設立)

設立目的

国際的に通用する技術者教育を普及させることにより、日本の技術者の国際的な活躍の場と地位向上を図ること

(年 国際的工学教育組織に正式加盟)

J A B E E ガイダンス資料（抜粋）

JABEE教育プログラムの特徴

- 1) 学習・教育目標(A～G)の設定と公開
 - * 目標の理解、周知
- 2) 学習・教育目標が学生によって確実に達成されたことの客観的証明（教育成果の保証）
 - * 成績評価の定量化、厳格化
 - * 試験問題と答案の保存
- 3) 専門技術に加えて、「技術者倫理」、「教養や世界的視野」「英語力とコミュニケーション能力」、「問題解決能力」（創造力、発想力、構想力＝エンジニアリングデザイン）を重視

JABEEプログラム 「生産システム工学」の履修対象者

- 1) 進級した4年生全員が、「生産システム工学」プログラムの前期履修対象者(本科4, 5年生)
- 2) 前期の履修要件*を満たして高専本科を卒業し、本校の専攻科に入学**を許可された全学生が、「生産システム工学」プログラムの後期履修対象者(専攻科1, 2年生)

- 本科で必修得の科目あり(語学、応数、応物など)
本科卒業≡プログラム前期修了
- * 推薦入試では基準あり(TOEIC 330点以上やクラス成績順位など)

(出典：学生課資料)

専攻科履修科目等ガイダンス

平成 25 年度入学予定者

第 1 回 ガイダンス 2013. 3. 18 (月) 卒業式予行演習終了後

<内容>①履修届、②修了要件等について、③シラバス、④他

第 2 回 ガイダンス 2013. 4. 6 (土) 入学式終了後

<内容>①時間割、②年間の予定、他

事前の準備

1. 学位申請時の専攻区分は工学、「専攻区分」について決めておくこと

(1) 機械工学……………本科 M 科、I 科卒

(2) 電気電子工学…本科 E 科、I 科卒

(3) 応用化学……………本科 B 科卒

本科の制御情報工学科の場合、(1)、(2)のどちらかを選択する必要がある。専攻科指導教員(予定)と相談して、決めておくこと。

専攻科新 2 年生

第 1 回 ガイダンス 2013. 3. 14 (木) 専攻科研究中間発表会終了後

<内容>①履修届、②修了要件等について、③シラバス、④年間の予定、他

第 2 回 ガイダンス 2013. 5. 17 (金)

<内容>①学位申請に向けて

事前の準備

1. 学位申請時の専攻分野は工学、「専攻区分」について確認の上、単位を確認しておくこと

(1) 機械工学

(2) 電気電子工学

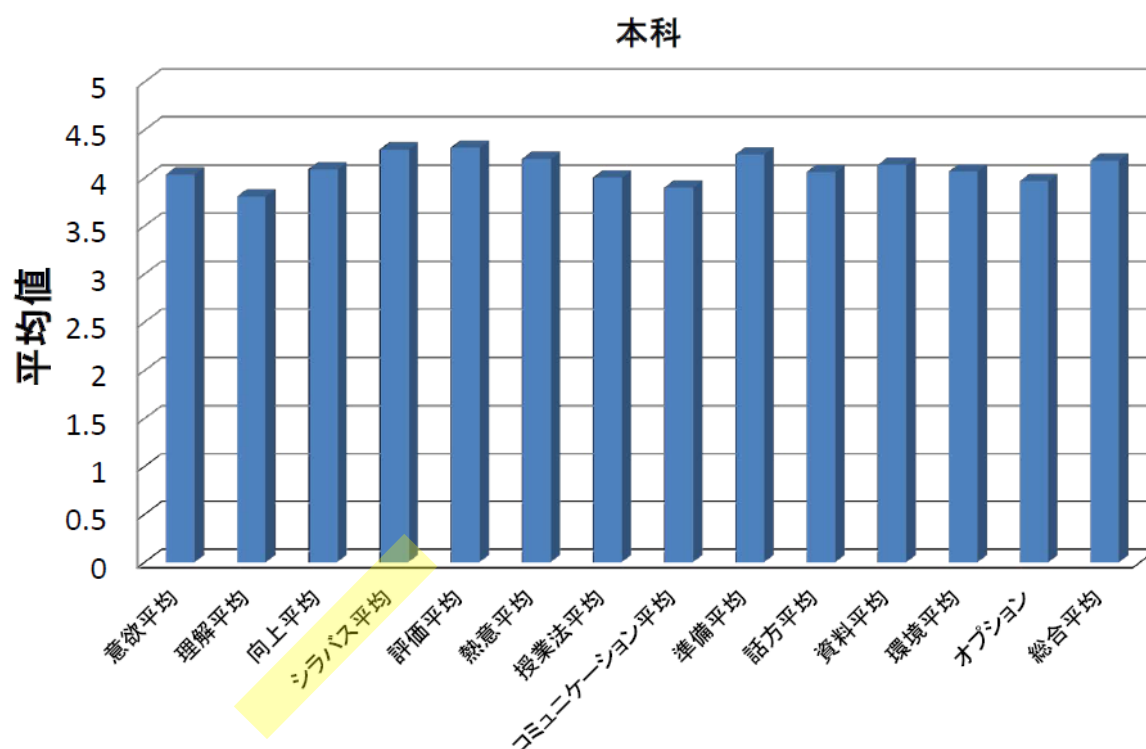
(3) 応用化学

併せて、専攻科修了要件に関しても再度確認しておくこと。

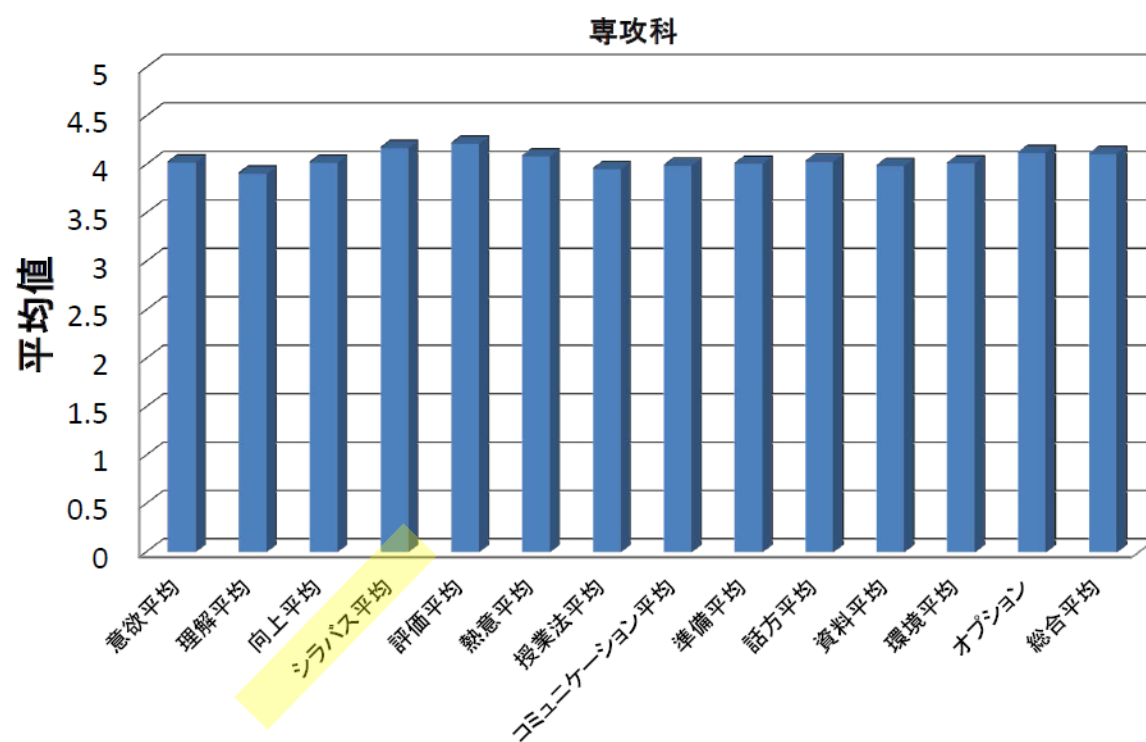
(出典：学生課資料)

資料 7-1-①-5

準学士課程 授業改善アンケート結果（シラバスの利用）



専攻科課程 授業改善アンケート結果（シラバスの利用）



（出典：FD委員会資料）

資料 7 - 1 - ① - 6

オフィスアワー一覧

オフィスアワー一覧表

総合科学科

教員名	日時等
大河内 邦子	授業実施日の放課後
佐藤 浩	授業実施日の16:00-17:00、授業の前後
澤 祥	授業実施日の12:30-13:00と16:30-17:00
窪田 眞治	木曜日16:00-17:00 その他随時
上松 和弘	授業実施日の16:00-17:00
田邊 英一郎	授業実施日の15:50-17:15
本間 浩二	授業実施日の12:30-13:00、または16:00-17:00
加田 謙一郎	授業実施日の16:00-17:00
山田 充昭	授業実施日の15:40-16:40
阿部 秀樹	授業実施日の放課後
野々村 和晃	授業実施日の16:00-17:00
茨木 貴徳	授業実施日の16:00-17:00
比留間 浩介	授業実施日の12:30-13:00、または16:00-17:00
木村 太郎	16:00-17:00
主演 祐二	授業実施日の放課後
田阪 文規	授業実施日の16:00-17:00
上條 利夫	授業実施日の16:00-17:00
徳永 慎太郎	授業実施日の放課後
大西 宏昌	授業実施日の16:00-17:00

機械工学科

教員名	日時等
本橋 元	授業実施日の16:00-17:00
末永 文厚	授業実施日の16:00-17:00
當摩 栄路	授業実施日の16:00-17:00
田中 浩	授業実施日の15:40-17:00
竹村 学	授業実施日の16:30-17:15
五十嵐 幸徳	授業実施日の16:00-17:15
増山 知也	授業実施日の15:40-17:00 ほか随時
佐々木 裕之	授業実施日の16:00-17:00
矢吹 益久	授業実施日の15:40-17:00
小野寺 良二	授業実施日の16:30-17:00
今野健一	授業実施日の16:00-17:00

電気電子工学科

教員名	日時等
佐藤 秀昭	授業実施日に限らず16:00-17:00
江口 宇三郎	授業実施日の16:00-17:00
吉木 宏之	授業実施日の16:30-17:00
内山 潔	随時
神田 和也	講義実施日の12:30-13:00、または16:00-17:00
佐藤 淳	授業実施日の16:00-17:00
保科 紳一郎	授業実施日の16:00-17:00
武市 義弘	授業実施日の16:00-17:00
宝賀 剛	授業実施日の16:00-17:00
加藤 健太郎	内地研究により不在
森谷 克彦	授業実施日の16:00-17:00

制御情報工学科

教員名	日時等
吉住 圭市	授業実施日の16:00-17:00
柳本 憲作	授業実施日の16:00-17:00
渡部 誠二	月-金曜日の12:15-13:00
安齋 弘樹	授業実施日の16:00-17:00
三村 泰成	授業実施日の16:00-17:00
矢戸 道明	授業実施日の16:00-17:00
西山 勝彦	授業実施日の16:00-17:00
安田 新	月-金曜日の12:15-13:00
内海 哲史	授業実施日の16:00-17:00
金 帝演	授業実施日の16:00-17:00
佐藤 義重	授業実施日の16:00-17:00
宮崎 孝雄	授業実施日の16:00-17:00

物質工学科

教員名	日時等
瀬川 透	授業実施日の16:00-17:00
飯島 政雄	授業実施日の16:00-17:00
佐藤 貴哉	授業実施日の16:00-17:00
戸嶋 茂郎	授業実施日の16:00-17:00
南 淳	授業実施日の16:00-17:00
佐藤 司	授業実施日の16:00-17:00
森永 隆志	出向中により不在
阿部 達雄	平日の16:00-17:00
平尾 彰子	授業実施日の16:00-17:00
伊藤 滋啓	授業実施日の16:00-18:00
清野 恵一	授業実施日の16:30-17:00
栗野 幸雄	授業実施日の16:00-18:00

H25シラバスより一部抜粋

(出典：学生課資料)

資料 7 - 1 - ① - 7

オフィスアワーにおける指導の例

OfficeHour 2012

物質工学科 教員名 戸嶋 茂郎

凡例 1:物理化学(3年)、2:工業英語(4年)、3:物質化学実験(4年)、4:材料工学実験(4年)、5:電気化学(4年)、6:応用電気化学(専)、7:()、8:その他

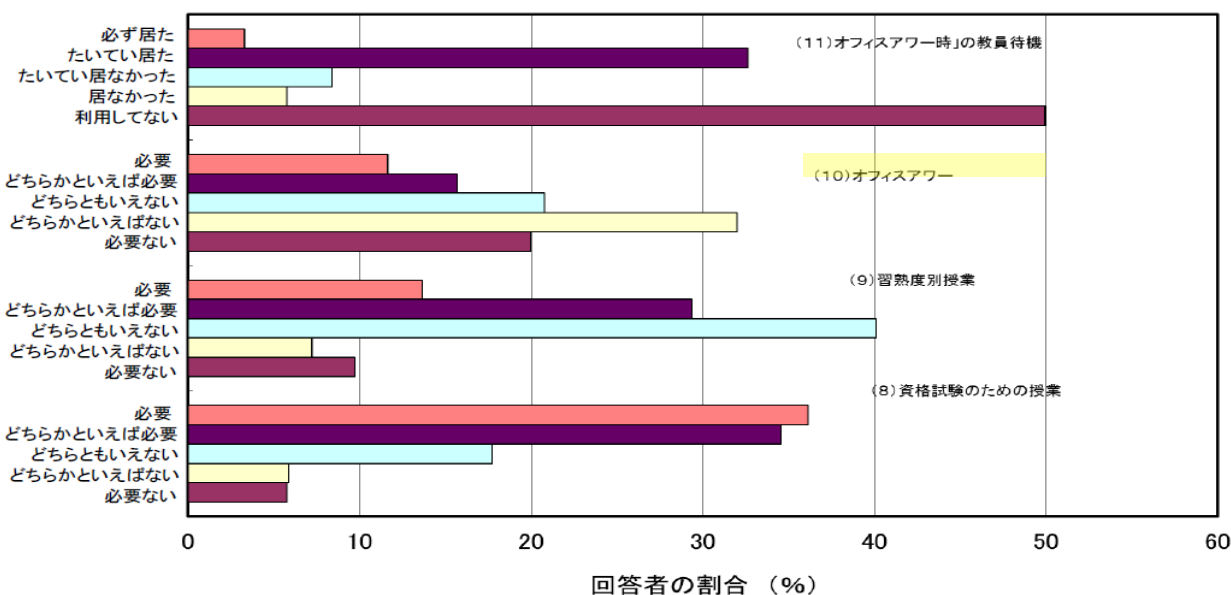
実施日	教 科	人数	時間 (min)	指 導 内 容
7月 2日(月)	3	2	30	実験レポートについてのディスカッション
7月 4日(水)	8	1	30	クラス学生に対する学習指導
7月 4日(水)	3	2	20	実験レポートについてのディスカッション
7月 5日(木)	3	10	60	実験レポートについてのディスカッション
7月 9日(月)	8	1	60	追認試験の実施
7月12日(木)	3	1	20	実験レポートについてのディスカッション
7月18日(水)	2	28	40	小テストの再試験実施
7月20日(金)	3	2	15	実験レポートについてのディスカッション
7月23日(月)	3	2	20	実験レポートについてのディスカッション
7月24日(火)	3	8	60	実験レポートについてのディスカッション
7月25日(水)	1	30	70	補習授業
	3	4	30	実験レポートについてのディスカッション
7月26日(木)	3 & 4	5	30	実験レポートについてのディスカッション
7月27日(金)	4	3	25	実験レポートについてのディスカッション
9月 3日(月)	8	1	30	クラス学生に対する学習指導
9月10日(月)	4	6	30	実験レポートについてのディスカッション
9月11日(火)	4	5	25	実験レポートについてのディスカッション
9月12日(水)	4	5	30	実験レポートについてのディスカッションおよび質問
9月18日(火)	3	1	20	実験レポートについての指導

(出典：学生課資料)

資料7-1-①-8

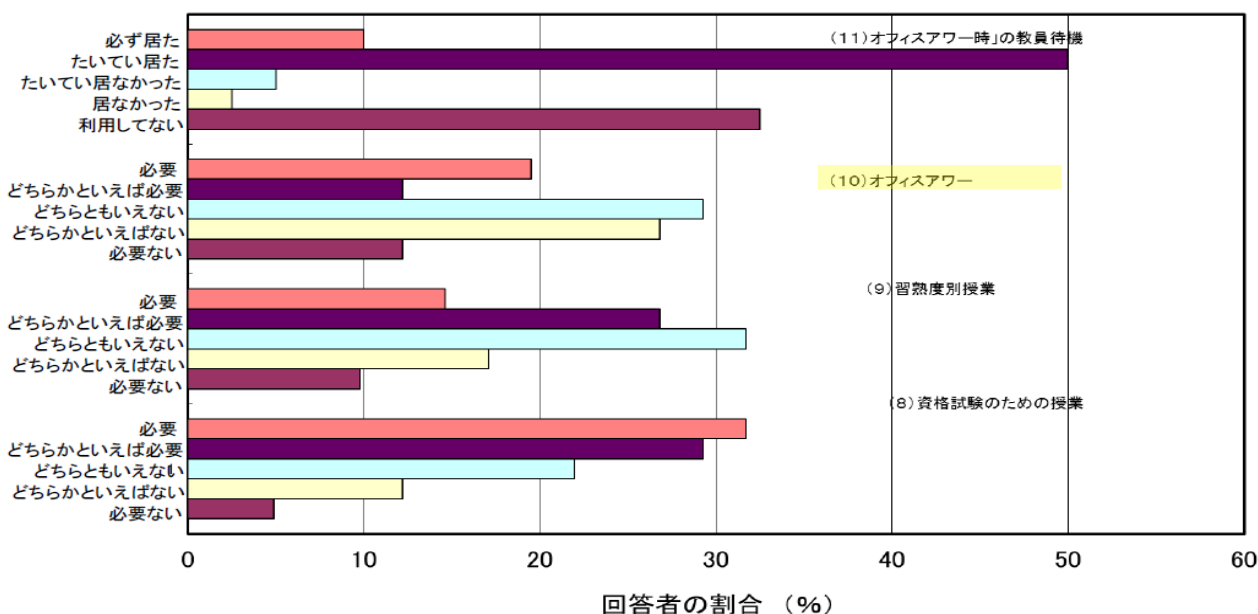
準学士課程 教育改善アンケート結果（オフィスアワーの利用）

【学習支援（本科生）】



専攻科課程 教育改善アンケート結果（オフィスアワーの利用）

【学習支援（専攻科生）】



(出典：FD委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程，専攻科課程とも，全ての学生を対象として，適切な形で学習ガイダンスを実施している。学習上の相談，助言を行うためにオフィスアワーが設けられており，学生のニーズに応じて指導を行っている。以上のことから，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能している。

観点7-1-②： 自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

図書メディアセンターは，蔵書の数，種類ともに豊富で，平日20：00までの夜間と土曜日も開館しており，平成24年度の利用者数は延べ20,490人であった（資料7-1-②-1～2）。総合情報センターは，授業時間外にも利用することができ，コンピューター関係の様々な設備が整っている（資料7-1-②-3～5）。製図室は，授業時間外も自主的学習の場として開放している（資料7-1-②-6～7）。また学寮には，全部で8つの自習室があり，消灯後の午前2：00まで使用でき，多くの寮生が利用している（資料7-1-②-8）。

1号館と2号館の各階にリフレッシュルームが設置されており，学生のコミュニケーションスペースとしての役割を果たしている（資料7-1-②-9）。また，留学生のために留学生スペースも配置され，有効に利用されている（資料7-1-②-10）。これら施設・設備に対する学生の満足度は，教育改善アンケートによって集約されており，リフレッシュルームの満足度が特に高い（資料7-1-②-11）。

資料7-1-②-1

図書メディアセンター図書利用細則（抜粋）

（開館日及び開館時間）

第4条 センターは、日曜日、国民の祝日に関する法律第3条に掲げる休日、12月29日から翌年の1月3日までを除き開館する。

2 センターの開館時間は、次のとおりとする。

一 月曜日から金曜日 8時30分から20時まで（長期休業期間中は17時まで）

二 土曜日 9時から17時まで（長期休業期間中は閉館）

3 その他センター長が必要と認めたときは、開館日及び開館時間を変更することができる。

（出典：平成25年度 学生便覧，p.113）

資料 7-1-②-2

図書メディアセンター利用状況

蔵書数

平成25年4月1日現在

	図書			雑誌		
	和 書	洋 書	合 計	和文	欧文	合計
総記	3,851	193	4,044	0	0	0
哲学	2,976	150	3,126	0	0	0
歴史	4,859	198	5,057	0	0	0
社会科学	5,684	200	5,884	2	0	2
自然科学	13,101	3,949	17,050	6	0	6
工学	17,649	2,522	20,171	15	0	15
産業	644	2	646	1	0	1
芸術	2,742	32	2,774	14	0	14
語学	3,067	652	3,719	1	0	1
文学	11,484	1,125	12,609	0	0	0
合計	66,057	9,023	75,080	39	0	39

利用状況

平成24年度

開館日数	267 日
学生貸出人数	2,470 人
学生貸出冊数	4,519 冊
学生1人平均	5 冊/人
入館者数	20,490 人
入館者数平均	77 人/日

(出典：学生課資料)

資料 7-1-②-3

総合情報センター及びネットワークの利用心得（抜粋）

鶴岡工業高等専門学校総合情報センター及びネットワークの利用心得

下記の心得を守って総合情報センターやネットワークを適切かつ有効に活用してください。

○演習室の使用について

開室は、平日 8 時 30 分から 17 時までです。

総合情報センター演習室は、授業等を優先して使用して頂いていますが、授業が行われていない時間は、自由に使用することが可能です。

総合情報センターは、全校の学生・教職員が共通に使用する施設です。使用ルール、マナーを守って皆が気持ちよく使用できるようにしてください。

○アカウント及びパスワードの管理について

情報系の授業の時間に総合情報センター演習室の教育用システムへのログオン ID と初期パスワード及び電子メールアカウントと初期パスワードが通知されます。これらは、「あなたがあなたであること」を証明するための大切な情報です。初期パスワードは、速やかにあなただけが知っている秘密のパスワードに変更し、他人に知られないようにしてください。また、パスワードは定期的に変更し、適切に管理してください。

(出典：規程集)

11. 総合情報センター

11. Computer Center

総合情報センターは本校の共通施設として運用されており、主に情報リテラシー教育やプログラミング等の授業（実習）で使用しますが、その他の授業科目でも利用されます。また、昼休みや放課後等の授業で使用していない時間は誰でも自由にインターネット接続や電子メールなどを使用することができます。

Computer Center is one of the common facilities to our college. This facility is used mainly for the classes such as Information Processing and Programming, but it can be used for other classes as well. Computer Center is open to everyone in our college during lunch time or after school when there are no classes.

PCクライアント PC Client

ハードウェア hardware

パソコン (DELL 社製 Optiplex)	50台
ポストスクリプト対応ネットワーク・モノクロレーザープリンタ (Xerox DocuPrint)	2台
B0版対応大型カラーインクジェットプリンタ (EPSON MAXART-PX)	1台
リアルXGA対応フルカラー液晶プロジェクター (EPSON Offrio)	1台



教室

ソフトウェア software

オペレーティングシステム	Windows Vista Enterprise
Office スイート	Microsoft Office 2007 Ent.Ed. Open Office
電子メール	Outlook Live @ edu
インターネットブラウザ	Internet Explorer
テキストエディタ	秀丸エディタ Meadow
タイピング	TypeQuick
動画ビューワ	Windows Media Player Adobe Flash Player RealPlayer SMPlayer
PDFビューワ	Adobe Acrobat Reader

プログラミング環境	Microsoft Visual Studio 2005 Express Edition 日本語版 Borland C++ Compiler 5 Cygwin
グラフ描画ツール	gnuplot
画像処理	Gimp
ダイアグラムエディタ	Dia
Java	J2SE SDK Eclipse
開発環境	AutoGL Visual Editor
Tex	pLatex2e GSView ghostscript dviout
ユーティリティ	Lhaea デラックス版

サーバ Server

認証サーバ	2台
起動用サーバ	2台
ファイルサーバ	1台
システム管理サーバ	1台

ウイルス・プロテクトサーバ	1台
コンテンツフィルタリングサーバ	1台
プロキシサーバ	1台

教育支援システム CAI System

教員～学生間双方向画像転送システム	LANDeomputerLNET
音響システム	YAMAHA

(出典：学校総覧2012, p. 32)

資料 7-1-②-5

総合情報センターの利用状況

平成 25 年 5 月 1 日
総合情報センター長
佐 藤 淳

平日は 18 時まで開館しており、概ね 16 時以降からの学生の利用が多い。時間外の利用は、低学年はプログラミングの課題、高学年はレポート作成等でセンターを利用している。センターの環境は、シンクライアントであり、ネットワーク対応プリンタの利用が可能であることから、個人の作業環境をサーバーに保存しておき時間があるときに作業を再開できる。このため、昼休みや講義の合間での学生の短時間利用も見られる。

総合情報センターの業務は、従来の一斉授業環境の提供に加えて、学内 LAN サービスの提供やマイクロソフト包括契約に基づくメディア配布を行っている。学生のメール環境がクラウドに移行した事情もあり、講義関連以外での相談業務等による学生のセンターの利用も増加している。

(出典：総合情報センター資料)

資料 7-1-②-6

授業時間以外に 製図室を使用したい学生へ

機械工学科

製図室の使用は
(通学・寮生、女子学生共に)
曜 日：原則 月～金曜日(平日)
(土・日曜日、祝・祭日を除く)
時 間：20:20まで とする。

4・5 年生に限り (女子学生を除く)
担当教員の許可を得た場合は
22:30まで 使用できる。

注 意

- ・ 製図は思った以上に時間を要するので 日頃より計画的に描くこと。
- ・ 時間厳守
- ・ 寮生は、点呼後も使用する場合は 必ず時間外外出届を提出してから来ること。
- ・ 飲食物は絶対に持ち込まないこと。

☆ 許可無く 20:20 以降 も使用した学生
22:30 以降 も使用した学生
時間外外出届 を出さないで使用した寮生
飲食物を持ち込んだ学生
製図機器等を破損させた学生
ゴミ等を片付けない学生
には 使用を制限 するので、留意しなさい。

(出典：機械工学科資料)

資料 7－1－②－7

機械工学科寮生 製図による自由時間外の外出届け

4M 製図	寮棟	部屋番号	5月12日	5月13日	5月14日	5月16日	5月19日	5月25日	5月26日	5月27日	5月28日
	1	212		○ok	○ok	○		○✓	○✓	○✓	✕
	7	413									
	7	423									
	7	302								○✓	
	7	405									
	7	421		○ok	○ok	○ok			○✓	○✓	
	3	103									
	3	108	○ok	○ok	○ok	○	○✓		○✓	○✓	
	1	309	○ok	○ok					○✓	○✓	
	7	428				○			○✓	○✓	✕
	7	323						○✓	○✓	○✓	✕
	7	321	○ok	○ok	○ok					○✓	✕
	1	305	○ok	○ok	○ok	○	○✓		○✓	○✓	✕
	7	320	○ok	○ok	○ok	○ok			○✓	○✓	✕
	7	326									
	7	327									
	2	306									
	7	401									
	2	204									
	7	409								○✓	
	1	212					○✓	○✓	○✓	○✓	✕
	1	202					○✓		○✓	○✓	
	7	310								○✓	

(出典：学生課資料)

資料 7-1-②-8

学寮の設備状況

学 寮 の 設 備 状 況

H25.3.14

		自習室		娯楽室		洗濯室		補食室
		部屋数	机数	部屋数	畳数	部屋数	洗濯機 乾燥機数	部屋数
1 寮	1 階					2	各室 4	2
	2 階	1	1 0					1
2 寮	1 階	1	1 0	1	8	1	3	1
	2 階					1	3	
	3 階					1	3	
	4 階					1	3	
3 寮	1 階			1	8	1	3	1
	2 階	1	1 0			1	3	
	3 階			1	8	1	3	
	4 階	1	1 0			1	3	
4 寮	1 階	1	1 0	1	1 0	1	3	1
	2 階	1	4			1	3	
	3 階					1	3	1
5 寮	1 階	1	7	1	1 0	1	2	1
	2 階					1	2	1
	3 階					1	2	1
6 寮	1 階					1	2	
7 寮	1 階					1	3	1
	2 階	1	8	1	8	1	3	
	3 階					1	3	
	4 階					1	3	
管理棟	2 階			1	2 8			
計		8	6 9	7	8 0	2 1	6 1	1 1

資料 7－1－②－8 続き

学寮の設備状況



(出典：学生課資料)

資料 7－1－②－9

リフレッシュルーム



(出典：学生課資料)

留学生スペース



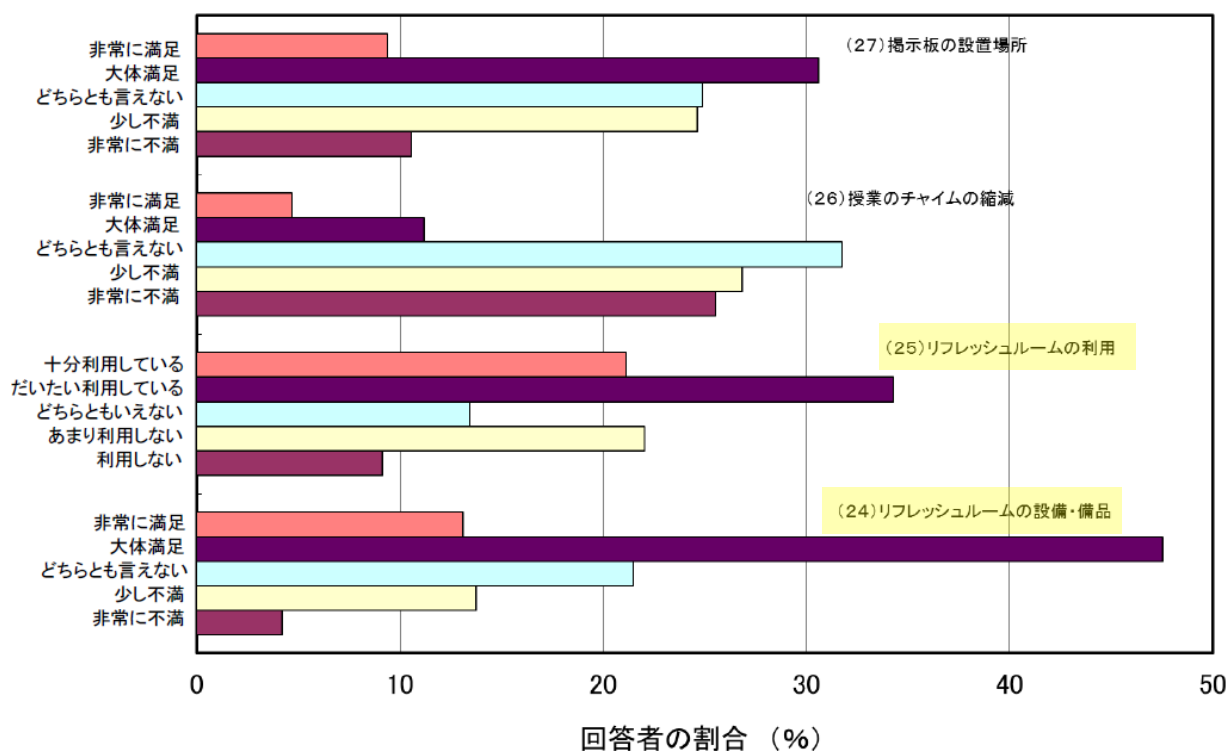
(出典：学生課資料)

資料 7-1-②-11

教育改善アンケート結果（抜粋）

施設・設備の満足度

【施設・設備について②（本科生）】



（出典：FD委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

図書メディアセンターは蔵書の数，種類ともに豊富であり，多くの学生が利用している。総合情報センター，製図室は授業時間外でも利用可能であり，学生の自主的学習への配慮がなされている。また，学寮自習室は多くの寮生が有効に活用している。リフレッシュルームは，学生のコミュニケーションスペースとしての役割を果たしている。留学生スペースは，留学生のコミュニケーションの場として利用されている。

以上により，キャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されている。

観点 7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また、資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

学生のニーズは，教育改善アンケート（資料 7-1-③-1），授業アンケート末尾に自由記述欄（資料 7-1-③-2），さらに，将来構想・戦略会議委員と学生会役員，寮生会役員との意見交換会（資料 7-1-③-3），そして本校ウェブページの意見箱からも学生のニーズを把握している（資料 7-1-③-4～5）。

資格取得については，TOEIC，工業英検に対応した授業を開講している（資料 7-1-③-6）。TOEICは，本校を会場にした試験も行っており，学生も積極的に受験している（資料 7-1-③-7～8）。専門科目でも，乙 4 類危険物取扱者資格試験，工業英検 3 級，電気主任技術者認定等，各種資格試験対策に繋がる授業を開講している（資料 7-1-③-9）。

国際交流支援室が設置されており，学生の外国留学に対する支援体制も整備されている（資料 7-1-③-10）。海外提携校との学生交流も積極的に奨励しており（資料 7-1-③-11），多くの学生が参加している（資料 7-1-③-12）。

教育改善アンケート回答用紙抜粋

★マークのしかた



教育改善に関する学生用アンケート

本校では数年前から教育の質の向上を目指して授業アンケート（ほとんど全科目について1回/年）や授業参観（特定期間での教員相互の自由参観）を実施してきました。これらが真に教育向上に役立っているのかを検証し、そして授業に対する要望を調査する目的でこのアンケートを行います。回答は現在のクラスの全授業についての平均的なものとして答えて下さい。数値%での回答ではこれら全体に対する割合として答えて下さい。

【授業アンケート】

- (1) 自分は授業アンケートに答える資格がある（授業を熱心に聞いて評価できる）と思いますか。
☐ ない ☐ どちらかといえばない ☐ どちらともいえない ☐ どちらかといえばある ☐ ある
- (2) アンケートは授業の改善に役立っていると思いますか。
☐ 思わない ☐ どちらかといえば思わない ☐ どちらともいえない ☐ どちらかといえば思う ☐ 思う
- (3) アンケートの科目数や回数は適正ですか。
☐ 多過ぎる ☐ 多い ☐ どちらとも言えない ☐ どちらかと言えば適正 ☐ 適正

【授業内容、方法】

- (4) 実験・実習の内容のレベルが自分の技量（技法の修得）に適切と思う実験テーマ全体の何%程度ですか。
☐ 0～20% ☐ 20～40% ☐ 40～60% ☐ 60～80% ☐ 80～100%
- (5) グループ学習や独自の副教材などで工夫されていると感じる授業は何%程度ですか。
☐ 0～20% ☐ 20～40% ☐ 40～60% ☐ 60～80% ☐ 80～100%
- (6) 正課の他に補習や補講（特別指導を除く）を行っている授業は何%程度ですか。
☐ 0～20% ☐ 20～40% ☐ 40～60% ☐ 60～80% ☐ 80～100%
- (7) 内容ややり方に満足できる授業は何%程度ですか。
☐ 0～20% ☐ 20～40% ☐ 40～60% ☐ 60～80% ☐ 80～100%

【学習支援】

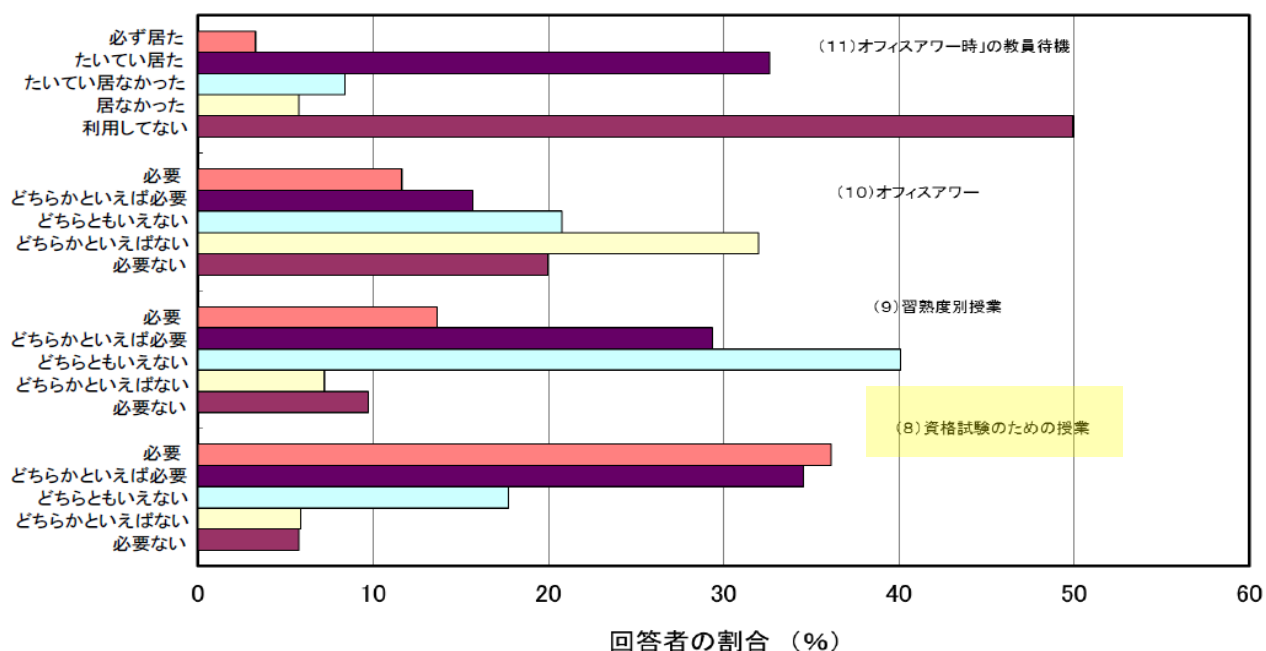
- (8) 資格試験の受験のための授業は必要ですか。
☐ 必要ない ☐ どちらかといえばない ☐ どちらともいえない ☐ どちらかといえば必要 ☐ 必要
- (9) 習熟度別授業は必要（効果的）ですか。
☐ 必要ない ☐ どちらかといえばない ☐ どちらともいえない ☐ どちらかといえば必要 ☐ 必要
- (10) オフィスアワーは利用していますか。
☐ 必要ない ☐ どちらかといえばない ☐ どちらともいえない ☐ どちらかといえば必要 ☐ 必要
- (11) オフィスアワー時に教員は居ましたか。
☐ 利用していない ☐ 居なかった ☐ たいてい居なかった ☐ たいてい居た ☐ 必ず居た

【評価】

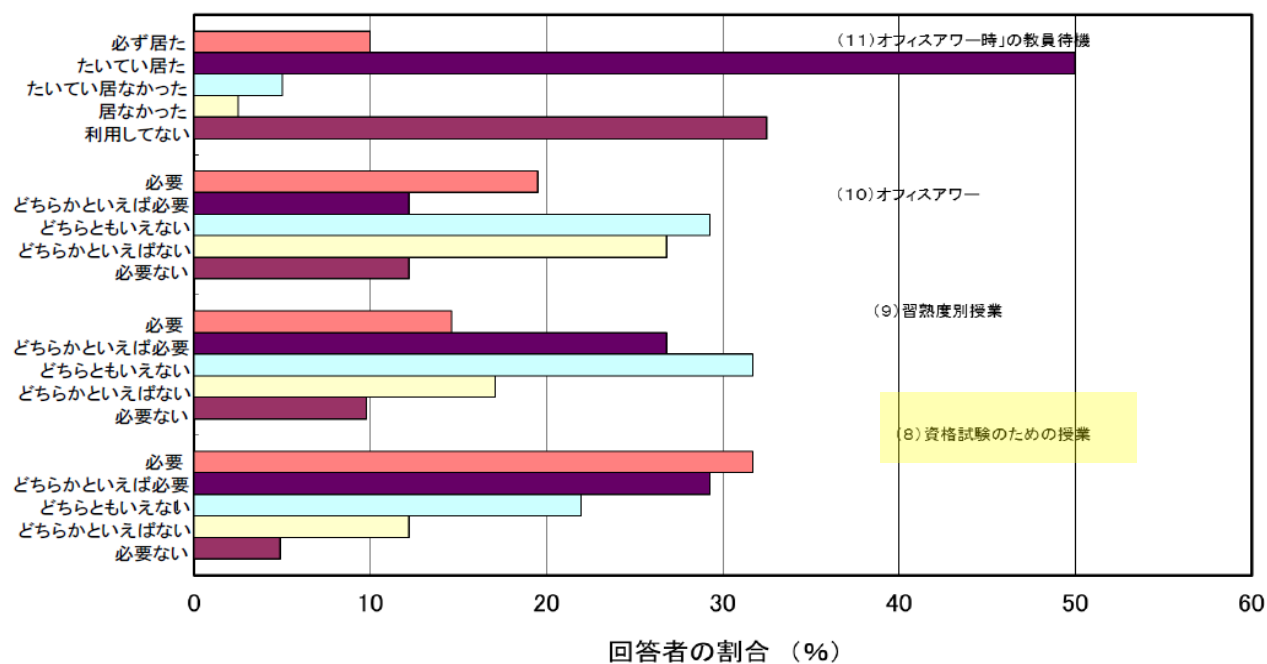
- (12) 学習した内容や成果（成績）に比べて評価はどうですか。
☐ 甘すぎる ☐ 甘い ☐ 妥当 ☐ 厳しい ☐ 厳しすぎる
- (13) 試験の答案やレポートは実施したものの何%が返却されてきますか。
☐ 0～20% ☐ 20～40% ☐ 40～60% ☐ 60～80% ☐ 80～100%
- (14) 4年生以上で利用している「学修の記録」は必要（効果的）ですか。（5年生と専攻科生）
☐ 必要ない ☐ どちらかといえばない ☐ どちらともいえない ☐ どちらかといえば必要 ☐ 必要
- (15) 授業や評価に対する不平、不満、要望などがあるとき誰に相談しますか。
☐ 相談しない ☐ その他 ☐ 担任・他の教員 ☐ 友人・先輩 ☐ 授業担当者

資料 7 - 1 - ③ - 1 続き

【学習支援（本科生）】



【学習支援（専攻科生）】



(出典：FD委員会資料)

授業アンケート回答用紙抜粋

◎以下は自由記述欄です。思ったことを書いてください。

質問17 この授業で良かったと思う点を書いてください。

質問18 この授業で良くなかったと思う点、改善すべきと思う点を書いてください。

質問19 オプション（授業担当教員から指示があります）

御協力ありがとうございました。

学習支援に関わるニーズの例

- 例 1 和訳をきちんと書いて欲しい。
- 例 2 やる必要がない所をとばすのはありがたいが、とばす所を言ってくれないと予習がやりづらい。
- 例 3 専門知識ではなく、研究者としてどうあるべきか、などを話して欲しかった。
- 例 4 もっとテスト対策して下さい。
- 例 5 文字を小さくして書くのをやめてほしい。

(出典：FD委員会資料)

資料 7-1-③-3

将来構想・戦略委員と学生の意見交換会議事録（抜粋）

将来構想・戦略委員と学生会との懇談会議事録

日時： 平成24年12月19日（水）16:00～17:00

参加： 校長、教務主事、学生主事、寮務主事、専攻科長、事務部長、総務課長、
学生課長

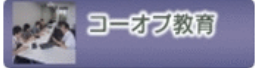
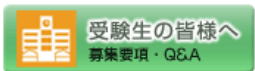
学生会 11名（金子福明、古野豪人、小野寺百茄、富樫大河、高橋直生、富樫翔太、
鈴木貴斗、斎藤多絵、志藤泰紀、佐藤怜介、古野颯人）

懇談事項

- ・ チャイムについて
毎回鳴らなくても、自分で時間が管理できるので良い。
2時間連続授業は鳴らない方が集中できる。
- ・ 学生会からの行事企画について
学生会自ら行事を企画する場合の問題点について
- ・ 部活・部室について
学生会で部活の見回り調査を行っているが、結果をまだ公表していない
部室の希望、老朽化への対応
土・日の部活動の1日休みについて
顧問教員の振替について
- ・ H P サーバーの学生会利用について
学校のサーバーの利用について
- ・ スクールバスについて
便利ではあるが、下校時間がまちまちなので増便してほしい
- ・ 授業時間について
50分授業の90分授業への切り替えについて
低学年の適応について
- ・ 安否確認システムについて
アドレスの管理
安否確認以外への適用について
Gメールの利用
- ・ 女子寮について
4学年以降も寮を利用したい
予算要求
- ・ 女性教員について
女性教員を増やしてほしい
教員公募で応募を歓迎

（出典：学生課資料）

本校ウェブページ 意見箱



- » [English Top](#)
- » [公開講座のご案内](#)
- » [JABEEへの取組み](#)
- » [戦略GP\(K-Skill\)](#)
- » [教員公募案内](#)
- » [職員採用情報](#)
- » [中学生一日体験入学](#)
- » [メカライフの世界展](#)
- » [刊行物案内](#)
- » [リンク集](#)
- » [教育情報の公表](#)
- » [情報公開](#)
- » [調達情報](#)
- » [環境方針](#)
- » [施設の利用案内](#)
- » [意見箱](#)
- » [インフルエンザ情報](#)
- » [動物実験に関する情報](#)



皆様へ

鶴岡工業高等専門学校における課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として『鶴岡高专意見箱』を開設しました。

皆様からの率直なご意見、ご要望、ご指摘をお待ちしております。

▼ 鶴岡高专意見箱 送信フォーム ▼

氏名(任意/匿名可)

連絡先Tel(任意)

連絡先アドレス(任意)

所属(選択必須)

事項名(必須)

内容(必須)

送信

※入力された個人情報は、本件についてのみ利用させていただき、その他の目的に使用することはありません。

(出典：本校ウェブページ)

意見箱 学生からのニーズ例

意見箱に寄せられた意見一覧表

No.	投稿日	所属	意見概要	対応	H25.2.22現在	
					運営会議報告日	
45	H25.1.25	学生	題名:制御情報工学科の授業について もっとプレゼンテーションを行う機会を増やしたほうがいいと思います。	【当事者への対応】 制御情報工学科において、検討することとした。 【投稿者本人への回答】 匿名で連絡先の記入もなかったことから、回答は行わなかった。	学生課長→教務主事 →制御情報工学科長	H25.2.28

(出典：総務課資料)

資料 7-1-③-6

TOEIC・工業英検対策科目のシラバス (抜粋)

教科目名: **英語 II** (**English II**)

担当教員: 阿部秀樹・主演祐二

学年・学科/専攻名: 3 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 (前期 2) (後期 2) 時間 (合計 60 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (F) () ()

授業の概要

これまで学習した基本的な英語の単語や文法を復習することで、TOEIC 対策のための基礎固めをします。1 年間 TOEIC への橋渡しとして TOEIC Bridge 対策のテキストを使用しながら、①TOEIC 特有の出題形式に慣れること、② 400 点程度のスコアを取るために最低限必要な語彙力、文法知識、及びできるだけ要領よく正解を選ぶコツを身につけることを目指します。併せて、ヒアリング・スピーキング対策としての発音指導も行います。

関連科目: 英語 I、語学演習

	授業内容	(W)	達成目標
前	TOEIC Bridge Unit 1, 音トレ Unit 1, 2, 3	(2)	1) TOEIC Bridge の問題形式に慣れる。
	TOEIC Bridge Unit 2, 音トレ Unit 4	(2)	2) 品詞を理解し、英文の構造を知る。
	TOEIC Bridge Unit 3, 音トレ Unit 5	(2)	3) トピックを聴き取り、話し手を特定する。
	TOEIC Bridge Unit 4, 音トレ Unit 6	(1)	4) wh で始まる疑問文を理解する。

教科目名: **英語 I** (**English I**)

担当教員: 徳 永 慎太郎

学年・学科/専攻名: 4 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 (前期 2) (後期 2) 時間 (合計 60 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (F) () ()

授業の概要

この授業では、1 月下旬に 4 年生全員が受験する TOEIC IP テストの試験対策を行います。TOEIC300 点台後半から 400 点以上獲得のために必要なリスニング・リーディングスキルの習得を目指します。前期中間試験 (6 月)、前期末試験 (9 月)、後期中間試験 (11 月) を実施し、1 月の TOEIC テストに向けて、段階的に英語力を高めていきます。また、スピーキングの練習も行い、実用的英語コミュニケーションの向上にも配慮します。

関連科目: 英語 I・II (3 年次)、語学演習

	授業内容	(W)	達成目標
前	< TOEIC への基礎固め >		・ TOEIC 重要語句 (約 120 項目) が理解できる。
	Unit 1 Part1&Part2 基礎固め	(2)	・ 話し手が次に何と言うか推測しながら、対話の内容を聞き
	Unit 2 Part3&Part4 基礎固め	(2)	取ることができる。
	Unit 3 Part5&Part6 基礎固め	(1)	・ 英語で書かれた掲示や文章を読み、その目的や主旨を理解

教科目名: **語学演習 (徳永)** (**Language Seminar**)

担当教員: 徳 永 慎太郎

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 (前期 1) (後期 1) 時間 (合計 30 時間)

単位種別: 学修単位 (演習) 鶴岡高専学習・教育目標: (F) () ()

授業の概要

英会話の授業です。流暢な英語の発音、ためになる語彙や表現を身につけるために、リスニングと発話練習を繰り返し行います。Class activity では様々な場面における英語でのやり取りの実践を通して、英語コミュニケーション能力を高めます。また、授業で異文化に触れることでグローバルな知識と視野を育みます。

関連科目: 工業英語、英語表現法

	授業内容	(W)	達成目標
前	1. The Family Business	(2)	Students will be able to talk about:
	2. Beginnings	(2)	
	3. Things Fall Apart	(3)	Asking for things on a flight
			Answering questions at immigration

資料 7-1-③-6 続き

教科目名: 語学演習 (田邊) (Language Seminar)

担当教員: 田 邊 英一郎

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 (前期 1) (後期 1) 時間 (合計 30 時間)

単位種別: 学修単位 (演習) 鶴岡高専学習・教育目標: (F) () ()

授業の概要

TOEIC 対策と英作文演習が中心です。TOEIC 対策はテキストの問題を解くことで、300 点レベルを 400 点レベルに上げることを目指します。英作文演習では、比較的簡単な単語や連語を使って、基本的な英文を書く力を身につけることを目指します。TOEIC 対策、英作文演習のどちらにおいても、これまで学習した単語、連語、文法、構文などの復習も併せて行います。

関連科目: 工業英語

授業内容		(W)	達成目標
前	Unit 1 Eating Out	(1)	・ 外食、旅行、娯楽、会議に関する基本的な単語の意味が分かる。 ・ 品詞を正しくかつ即座に区別することができる。 ・ 基本的な単語を使って、単純な構造の英文が書ける。
	Unit 2 Travel	(1)	
	Unit 3 Amusement	(1)	
	Unit 4 Meetings	(2)	

教科目名: 語学演習 (阿部) (Language Seminar)

担当教員: 阿 部 秀 樹

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 (前期 1) (後期 1) 時間 (合計 30 時間)

単位種別: 学修単位 (演習) 鶴岡高専学習・教育目標: (F) () ()

授業の概要

今年度は「英作文」をテーマにして (1) 逐語訳から脱皮し、適切かつ自然な英語の文章をかくようになること、(2) 作文する時に自分の考えを論理的にまとめ、読みやすい文章をかくようになること、の 2 点を目標に学習していきます。Grammar Review で基礎英文法のおさらいをして、Expressions、Writing Exercise によって段階的に英作文演習をすることになります。

関連科目: 英語 I,II、工業英語

授業内容		(W)	達成目標
前	Chapter 1 Meeting New People at College	(3)	・ 各章のトピックに関する関連語句を理解し、運用できる。 ・ Expressions で取り上げられている表現すべて、適切な文脈で使うことができる。 ・ Paragraph Writing ができる。
	Chapter 2 Attending Classes	(3)	
	Chapter 3 Pastimes	(2)	

教科目名: 語学演習 (主演) (Language Seminar)

担当教員: 主 演 祐 二

学年・学科/専攻名: 5 年 全学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 (前期 1) (後期 1) 時間 (合計 30 時間)

単位種別: 学修単位 (演習) 鶴岡高専学習・教育目標: (F) () ()

授業の概要

使える英語を身につけて卒業してもらうため、4 技能を総合的に伸ばします。50 分の授業を大体 4 等分し、英検 2 級程度の単語と文法練習、映画を活用したリスニング、各自のレベルに合わせた多読、プレゼンテーションの練習を行います。授業は、基本的に英語で行います。This class will be taught mainly in English and aims to improve your total skills of English using movies, short books, powerpoint presentations etc.

関連科目: 英語 I (4 年次)、英語表現法

授業内容		(W)	達成目標
前	シラバスとログイン方法の確認	(1)	・ 英検 2 級程度の語彙と文法の知識を身につける。 ・ 映画で自然な速さで話される英語を聞き取り、その概要や表現を概ね理解できる。 ・ 自発的に英語読書を進め、読み取った内容を英語で簡潔に
	総合英語演習	(7)	
	・ 英検 2 級程度の単語と文法		
	・ 映画を用いたリスニング		

(出典: 平成 25 年度 シラバス, p. G-35, p. G-42, pp. G-47~G-50)

平成24年度第1回 TOEIC IP テスト実施案内

- (出典：学生課資料)

TOEIC IP 受験者（延べ人数）

(出典：学生課資料)

資料 7 - 1 - ③ - 9

資格試験に関連した専門科目のシラバス (抜粋)

教科目名: 電気電子材料 (Electrical and Electronic Materials)

担当教員: 森 谷 克 彦

学年・学科/専攻名: 4 年 電気電子工学科

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 (前期 2) (後期 2) 時間 (合計 60 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (D) () ()

授業の概要

本講義では固体物質に共通する基本的事項を学習した後、現在理論的にも実用的にも重要と思われる半導体の基礎物性とpn 接合、誘電材料、磁性材料の基礎物性を中心に学習する。なお、本科目は電気主任技術者認定科目の◎印科目である。

関連科目: 化学 (2 年)、電子工学 (3 年)

授業内容 (W)		達成目標
前	1. 電気電子材料の物性	1.
	(1). ボーアの量子化条件	(1) 原子の構造と電子の振る舞い、その相互関係を理解できる。
	(2). 原子の結合と結晶構造	(2)
	(3). 電子の集合と統計力学	(2) 原子の結合とその種類、特性、結晶構造と空間格子、格子

教科目名: 高電圧工学 (High Voltage Engineering)

担当教員: 森 谷 克 彦

学年・学科/専攻名: 4 年 電気電子工学科

単位数・授業時間: 必修選択 2 単位 前期 週 (前期 2) (後期) 時間 (合計 30 時間)

単位種別: 学修単位 (講義) 鶴岡高専学習・教育目標: (E) (D) ()

授業の概要

電気・電子回路の正常動作の妨げとなる、気体、液体、固体絶縁物での放電が発生する様子及び各種電力機器、生産設備の安全使用と高効率活用の基礎を学び、その対応策を理解させる。また、高電界と言う観点で、電力系だけでなく、デバイス系の解析にも必要な内容であり、電気主任技術者認定単位の中、○印科目である。

関連科目: 電気磁気学 (2,3 年)、電気機器 I (3 年)、電気機器 II (4 年)、電気電子計測 (3 年)

授業内容 (W)		達成目標
前	1. 気体の絶縁破壊	(2)
	2. 液体の絶縁破壊	(1)
	3. 固体の絶縁破壊	(2)
	4. 複合誘電体の絶縁破壊	(2)

教科目名: 工業化学特論 II (Introduction to Industrial Chemistry II)

担当教員: 飯 島 政 雄

学年・学科/専攻名: 2 年 物質工学科

単位数・授業時間: 必修 1 単位 前期 週 (前期 2) (後期) 時間 (合計 30 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (C) () ()

授業の概要

乙 4 類危険物取扱者の資格試験取得を目指し、その試験範囲から特に基礎的な化学を中心に危険物の性質や取扱法について理解を深める。授業では例題や演習問題を多く取り入れ、知識を確実なものにしていく。

関連科目: 化学、物質工学演習

授業内容 (W)		達成目標
前	1. 危険物取扱者の種類と資格試験	(1)
	2. 物理学と化学の基礎知識	
	2. 1 基礎物理および基礎化学	(3)
	2. 2 燃焼の基礎知識	(2)

資料 7 - 1 - ③ - 9 続き

教科目名: **工業英語** (**Technical English**)
 担当教員: 南 淳
 学年・学科/専攻名: 4 年 物質工学科
 単位数・授業時間: 必修 1 単位 通年 週 (前期 1) (後期 1) 時間 (合計 30 時間)
 単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (F) () ()

授業の概要		
Technical English はエンジニアにとって必須のスキルである。1 月工業英検 3 級を受験するが、これに合格することを目指す。工業英検 3 級問題集を用いて問題演習を行い、文法事項や工業英語の特色について学ぶ。並行して、オリジナル教材を用いた学習により語彙力を強化する。後期はテクニカルライティングの演習を中心にする。		
関連科目: 英語、工業英語 (5 年次)、外国語雑誌会		
授業内容		達成目標
前	問題演習	(4) 過去分詞、現在分詞、関係詞、動名詞、不定詞を用いた構文
	工業英語に必要な文法事項	(4) について読解することができる。 科学技術の各分野の最重要単語・表現をおおよそ知っている。

(出典：平成25年度シラバス， p. E-23, p. E-34, p. B-7, p. B-29)

国際交流支援室規程（抜粋）

鶴岡工業高等専門学校国際交流支援室規程

制 定 平成 21 年 12 月 2 日

最終改正 平成 24 年 2 月 29 日

（趣旨）

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 7 条第 2 項及び第 8 条第 4 項の規定に基づき、鶴岡工業高等専門学校国際交流支援室（以下「支援室」という。）の業務及び組織等について必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第 2 条 支援室は、学生及び教職員の国際交流の推進に関する具体的な業務を行うことを目的とする。

（支援室の業務）

第 3 条 支援室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 学生及び教職員の国際交流の推進に関すること。
- 二 海外の大学等の国際交流協定に関すること。
- 三 学生及び教職員の海外の協定校への派遣に関すること。
- 四 学生及び教職員の海外の協定校からの受入れに関すること。
- 五 外国人留学生（以下「留学生」という。）の教育指導に関すること。
- 六 留学生の生活指導等に関すること。
- 七 外国人研究員の受け入れに関すること。
- 八 その他国際交流の推進に関すること。

（組織）

第 4 条 支援室に次に掲げる室員を置く。

- 一 室長
 - 二 室長補佐
 - 三 教員系支援室員（海外の協定校担当）2 名
 - 四 教員系支援室員（学科及び専攻科担当）6 名
 - 五 事務系支援室員
 - 六 必要により校長が指名する者 若干名
- 2 支援室の管理運営は、校長の命を受け、室長が行う。
 - 3 室長補佐は、学生課課長補佐をもって充て、室長の職務を補佐するとともに、室長に事故あるときは、その職務を代行するものとする。
 - 4 第 1 項第三号の室員は、総合科学科の英語を担当する教員の中から学科推薦に基づき、校長が指名する。
 - 5 第 1 項第四号の室員は、専門学科から推薦された教員各 1 名と、教務主事補及び寮務主事補の中から選出された教員各 1 名について、校長が指名する。
 - 6 第 1 項第五号の室員は、事務部職員の中から校長が指名する。
 - 7 第 1 項第三号から第六号までに掲げる職員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第 5 条 支援室に、第 3 条に掲げる業務に関し、必要な事項を審議するため、国際交流支

国 際 交 流 支 援 室

設 置：平成 21 年 9 月 15 日

主な業務： 1. 学生・教職員の国際交流推進
2. 海外大学等の国際交流協定
3. 協定校との派遣・受入

国際交流： リールA技術短期大学（フランス共和国）
レッドロックスコミュニティカレッジ（アメリカ合衆国）
キングモンクット工科大学ラカバン校（タイ）
ポリテクニク 5 校（シンガポール）
トゥルク応用科学大学・ヘルシンキメトロポリア応用科学大学

海外提携校との学生交流実施内容

21 年度（3 月）

- I リールA技術短期大学（フランス共和国）
 - 1 派遣学生数 専攻科生 2 名， 約 1 か月 派遣率 3%
 - 2 受入学生数 1 名， 3 か月
- II レッドロックスコミュニティカレッジ（アメリカ合衆国）
 - 1 派遣学生数 本科生 10 名， 約 2 週間 派遣率 17%

22 年度（3 月）

- I カレー・ブローニュ技術短期大学（フランス共和国）
 - 1 派遣学生数 専攻科生 2 名， 約 1 か月 派遣率 3%
- II レッドロックスコミュニティカレッジ（アメリカ合衆国）
 - ◎ 派遣 8 名を予定していたが、東北地方太平洋沖地震で延期
(8 月と 24 年 3 月に延期)

23 年度

- 8 月に 4 名レッドロックス留学
- 3 月に 12 名レッドロックス留学 派遣率 16%
- 1 名リール留学
- 1 名トゥルク留学

（出典：国際交流支援室資料）

資料 7 - 1 - ③ - 12

国際交流 派遣実績

鶴岡高専 国際交流、派遣・受け入れ実績

2011(平成23)年度

	国名	学校	クラス	名前	期間
派遣	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4I		2011/.8/2～8/15
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4I		2011/.8/2～8/15
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4B		2011/.8/2～8/15
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4B		2011/.8/2～8/15
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3M		2012/3/9～3/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3E		2012/3/9～3/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3E		2012/3/9～3/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I		2012/3/9～3/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I		2012/3/9～3/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3B		2012/3/9～3/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4M		2012/3/9～3/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4M		2012/3/9～3/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4M		2012/3/9～3/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4E		2012/3/9～3/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4B		2012/3/9～3/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	5M		2012/3/9～3/24
	フランス	リールA技術短大	5B		2012/3/1～3/31

17名

受け入れ なし

2012(平成24)年度

	国名	学校	クラス	名前	期間
派遣	フィンランド	トゥルク応用科学大学	2ME		2012/2/16～5/13
	タイ	ISTS2012参加	2CB		2012/11/21～11/24
	タイ	ISTS2012参加	2ME		2012/11/21～11/24
	タイ	ISTS2012参加	2CB		2012/11/21～11/24
	タイ	ISTS2012参加	1CB		2012/11/21～11/24
	タイ	ISTS2012参加	5I		2012/11/21～11/24
	タイ	ISTS2012参加	5I		2012/11/21～11/24
	タイ	ISTS2012参加	5E		2012/11/21～11/24
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4I		2013/3/7～3/22
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4I		2013/3/7～3/22
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	4I		2013/3/7～3/22
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I		2013/3/7～3/22
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I		2013/3/7～3/22
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I		2013/3/7～3/22
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3I		2013/3/7～3/22
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3B		2013/3/7～3/22
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3B		2013/3/7～3/22
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3B		2013/3/7～3/22
	アメリカ	レッドロックスコミュニティカレッジ	3E		2013/3/7～3/22
	シンガポール	リバブリック・ポリテクニク	4B		2013/3/9～3/17
	シンガポール	リバブリック・ポリテクニク	4B		2013/3/9～3/17
	シンガポール	リバブリック・ポリテクニク	4B		2013/3/9～3/17
	シンガポール	リバブリック・ポリテクニク	3B		2013/3/9～3/17
	シンガポール	リバブリック・ポリテクニク	3B		2013/3/9～3/17
	シンガポール	リバブリック・ポリテクニク	3B		2013/3/9～3/17
	シンガポール	リバブリック・ポリテクニク	3I		2013/3/9～3/17
	シンガポール	リバブリック・ポリテクニク	3I		2013/3/9～3/17

27名

(出典：国際交流支援室資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生からのニーズは、教育改善アンケート結果、授業アンケートの自由記述欄、将来構想・戦略会議委員と学生の意見交換会、本校ウェブページの意見箱で確認できる。

授業の中でTOEIC対策への支援を十分に行っている。その他の資格試験についても、授業の中で対策を行っている。国際交流支援室が中心となり学生の国際交流を奨励している。

以上のことから、学生のニーズを適切に把握し、それを支援する体制が整備され、機能している。

観点 7-1-④： 特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

留学生への支援については、国際交流支援室が中心になり、留学生への学習・生活支援を行っている(資料 7-1-③-10 参照, 資料 7-1-④-1)。3 年次編入当初の留学生対象の授業開講(資料 7-1-④-2)、留学生各人へのチューター配置(資料 7-1-④-3)、また、休日を利用した特別補講(資料 7-1-④-4)等、留学生のニーズに合わせた支援も行っている。

4 年次編入学生には、編入学試験合格から入学までに勉強しておくべきことを、書面にて指導している(資料 7-1-④-5)。入学後は、必要に応じて特別指導を行っている(資料 7-1-④-6)。

障がいがあり、学習に支障がある学生に対しては、学生支援センターが支援している(資料 7-1-④-7)。相談室員が各学科のクラス担任、学年主任、学科長と恒常的に連絡を取り合い、対応している(資料 7-1-④-8～9)。

外国人留学生支援業務の役割分担

外国人留学生支援体制および役割分担について

国際交流支援室

1. 支援体制

本校外国人留学生の「学習」および「生活」における支援については

(1) 担任教員および指導教員

(2) 国際交流支援室(下記4名)

支援室長, 留学生担当教務主事補(以下, 教務主事補), 留学生担当寮務主事補(以下, 寮務主事補), コーデネーター

(3) チューター学生

が中心となっておこない, 必要に応じて留学生所属学科教職員, 教務係および学寮関係者(寮監・寮務係)が補佐するものとする。

2. 役割分担

2-1. 新規留学生来校時(3月下旬～4月上旬)

項 目	担 当	備 考
外国人登録・銀行口座開設等 各種手続きの引率・付き添い	担任教員。 必要に応じて教務主事補および留学生担当教務係員が支援する。	公共交通機関を利用できない場合は公用車を使用
学校案内, 学科紹介および カリキュラム説明等	担任教員。 必要に応じて所属学科の学科長または教職員が支援する。	
日常生活の準備	担任教員。 必要に応じて教務主事補, 寮務主事補および学寮関係者が支援する。	入寮しない場合は学寮関係者に代わり教務係が支援する。

2-2. 日常支援および関連業務

項 目	担 当	備 考
学習支援・日常生活サポート	担任教員, 指導教員およびチューター 必要に応じて教務主事補, 寮務主事補, 所属学科教職員および学寮関係者が支援する。	入寮しない場合は学寮関係者に代わり教務係が支援する。
各種手続きの引率・付き添い (必要な場合)	担任教員, 指導教員およびチューター 必要に応じて教務主事補, 寮務主事補および留学生担当教務係員が支援する。	公共交通機関を利用できない場合は公用車を使用
留学生交流会・留学生校外研修	教務主事補 必要に応じて寮務主事補および留学生担当教務係員が支援する。	
東北地区高専留学生交流会引率	教務主事補または寮務主事補 必要に応じて支援室長または留学生担当教務係員が代行する。	開催時期未定 複数回/年の場合あり
次年度編入学国費留学生との面会 (於:東京日本語教育センター)	教務主事補または寮務主事補 必要に応じて担任予定者または支援室長が代行する。	1月末～2月上旬
留学生担当教職員等を対象とした 研修会および交流会等	時期・内容によって支援室長が参加の有無および参加者を決定する。	
チューターのオリエンテーション	教務主事補および寮務主事補 必要に応じて留学生担当教務係員が支援する。	チューター任命式後 実施
上記各項目の連絡・調整・窓口	留学生担当教務係員 必要に応じて他の教務係員が代行する。	

(出典: 学生課資料)

資料 7 - 1 - ④ - 2

日本語、日本事情のシラバス（抜粋）

教科目名: **日本語 I** (Japanese I)

担当教員: 長谷川 佐知子

学年・学科/専攻名: 3 年 留学生

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 (前期 2) (後期 2) 時間 (合計 60 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (F) () ()

授業の概要

国語関係留学生振替授業である。国籍や日本語能力が異なる少人数の授業なので、各人の状況に応じて、実生活で使え、日本人とコミュニケーションできる日本語を習得する。
--

関連科目:

教科目名: **日本語 II** (Japanese II)

担当教員: 富 樫 恵

学年・学科/専攻名: 3 年 留学生

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 (前期 2) (後期 2) 時間 (合計 60 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (F) () ()

授業の概要

国語関係留学生振替授業 II である。国籍や日本語能力の異なる 3～4 人の授業なので、「日本語 I」をふまえ、自分の意見や感想を「話し言葉の日本語」で表現する能力を身につけさせる。
--

関連科目:

教科目名: **日本事情** (Japanese Affairs)

担当教員: 澤 祥・山田充昭

学年・学科/専攻名: 3 年 留学生

単位数・授業時間: 必修 2 単位 通年 週 (前期 2) (後期 2) 時間 (合計 60 時間)

単位種別: 履修単位 鶴岡高専学習・教育目標: (F) () ()

授業の概要

日本での留学生生活を円滑に進めさせるために、日本の社会や歴史を概観しながら日本特有の思考や習慣を紹介する。日常生活に活用できるような身近な話題を取り上げ、日本語会話上達のために、留学生の発言と作文を活発に行わせる。
--

関連科目: 日本語 I、日本語 II

(出典：平成25年度シラバス，pp. G-37～G-39)

チューターの配置

平成 25 年度 外 国 人 留 学 生 名 簿

平成25年4月1日現在

学年	所属学科・担任等	留 学 生 氏 名	呼び名	性別	生年月日	国 籍	チューター氏名		
5年	機械工学科 担任教員 矢 吹 益 久			男	1990.4.25	マレーシア			
				男	1991.8.31	マレーシア			
				男	1991.5.7	マレーシア			
	電気電子工学科 担任教員 森 谷 克 彦 制御情報工学科 担任教員 安 齋 弘 樹 物質工学科 担任教員 瀬 川 透			男	1991.2.25	マレーシア			
				男	1990.4.28	モンゴル			
				男	1992.7.28	インドネシア			
4年	機械工学科 担任教員 五十嵐 幸 徳			男	1992.1.3	マレーシア			
				男	1992.3.30	モンゴル			
	電気電子工学科 担任教員 内 山 潔								
3年	機械工学科 担任教員 田 中 浩			男	1993.12.29	マレーシア			
				男	1993.10.13	マレーシア			
	物質工学科 担任教員 佐 藤 司			女	1992.5.6	ラオス			

* 国 費 留 学 生 : 4名 (男子3名、女子1名)

* 留 学 生 住 所 :

【 モンゴル(2)、インドネシア(1)、ラオス(1) 】

〒997-8511 山形県鶴岡市井岡字沢田104 鶴鳴寮

* マレーシア政府派遣留学生 : 7名 (男子7名)

* 在 留 資 格 : 留 学

※一番上に記された留学生は5年生なので、チューターは配置しない。

(出典：学生課資料)

資料 7 - 1 - ④ - 4

外国人留学生特別補講 (例)

平成 24 年 4 月 24 日

外国人留学生特別補講 実施報告書

国際交流支援室長 内 山 潔 殿

外国人留学生特別補講講師 齋 藤 み ゑ



外国人留学生特別補講については、下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

実 施 日	実 施 内 容	出 席 者
平成24年4月21日	日本語学習 自己紹介の作文指導	出席 (体調不良で欠)

上記の内容について、確認しました。

平成 年 月 日

(実施責任者)

国際交流支援室長 内 山 潔



(出典：学生課資料)

編入学前の指導例

25 年度編入生の皆さんへ

平成 25 年 1 月 9 日

鶴岡高専英語科

編入までの勉強の案内(英語)

この度は、鶴岡高専への編入学試験合格おめでとうございます。

本校は、専門科目や数学などの理数系の一般科目に加えて、「英語」も最重要科目の一つに位置づけられています。そこで、編入学の事前学習としてやっておいた方がよいことを、以下にお知らせします。

まず、これまでならった単語をもう一度覚え直す必要があります。習ったものをすべて覚え直すのは無理かもしれませんが、高校 3 年間に勉強した単語の 6 割(それが無理なら少なくとも 5 割)くらいはしっかりと覚え直し、知識として定着させる必要があると思います。単語を地道に覚えるのは、面倒に思えるかもしれませんが、英語の勉強では基本中の基本です。

次に、これまでならった文法をもう一度しっかりと復習しておく必要があります。特に大切だと思われる文法項目は、次の通りです。

- ① 品詞(名詞、動詞、形容詞、副詞、前置詞)の区別
- ② 主語、述語動詞、補語、目的語、修飾語の区別
- ③ 現在形、現在進行形、過去形、過去進行形、未来形、現在完了形、過去完了形の基本形式と意味
- ④ 受動態の基本形式と意味
- ⑤ 不定詞の基本形式と意味
- ⑥ 動名詞の基本形式と意味
- ⑦ 現在分詞、過去分詞の基本的な意味と用法
- ⑧ 関係代名詞、who, whose, whom, which, that の用い方
- ⑨ 関係副詞 when, where, how の用い方

これら以外にも、高校で習う文法項目は多くあることは確かですが、あえて言えばこ九つが特に大切だと思います。すでに持っている文法参考書を読み、自分で分かるところだけでも理解するよう努力してみてください。なお、本校では、『総合英語 Forest (桐原書店)』という文法参考書を(1 年次にはありますが)学生全員に買わせています。もし、手持ちも文法参考書が分かりづらいようでしたら、これを買って読んでみてください。

本校 4 年生は全員に TOEIC の受験が義務づけられていることもあり、授業は TOEIC 対策中心となります。TOEIC とは Test of English for International Communication の略で、国際的規模で実施されているテストです。これが具体的にどのようなテストか、(この紙面には書き切れませんので)入学前にあらかじめ知っておいた方がよいと思います。書店に行けば、今や TOEIC 対策の本はあふれるほど種類が豊富です。薄く安価なもので構わないので、1 冊購入し、少しでも目を通しておくことを是非おすすめします。

資料 7 - 1 - ④ - 6

編入学後の指導例

平成 2 5 年 4 月

平成 2 5 年度編入学生に対する特別指導について

物質工学科長 瀬川 透

平成 2 5 年度の編入学生に対して下記の通り特別指導を行う。

実施科目	実施教員名	実施時間帯	備 考
応用数学	上松 和宏	放課後	毎週1回の補習
応用物理	吉木 宏之	放課後	オフィスアワー対応
無機化学	栗野 幸雄	放課後	毎週1回の補習
化学工学	清野 恵一	放課後	毎週1回の補習
物理化学	各 担 任	適 宜	適 宜

指導例 1

平成 2 5 年 4 月

平成 2 5 年度編入学生に対する特別指導について

電気・電子工学科長 佐藤 秀昭

平成 2 5 年度の編入学生に対して下記の通り特別指導を行う。

実施科目	実施教員名	実施時間帯	備 考
電気磁気学	保科紳一郎	放課後	4回程度の補習
電気回路	佐藤 秀昭	放課後	3年次履修内容の確認

指導例 2

(出典：学生課資料)

学生支援センター規程（抜粋）

鶴岡工業高等専門学校学生支援センター規程

制 定 平成 2 4 年 2 月 2 9 日

（趣旨）

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 7 条第 2 項及び第 8 条第 4 項に基づき、鶴岡工業高等専門学校学生支援センター（以下「センター」という。）の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

（目的）

第 2 条 センターは、学生に対する修学、生活、進路選択等の支援業務を総合的に行い、併せて教職員の健康管理についての支援を行うことで、本校の日常的な教育研究活動の円滑な実施に資することを目的とする。

（業務）

第 3 条 センターは、次の各号に掲げる事項の支援業務を行う。

- 一 学生の修学に関すること。（特別教育支援を含む）
- 二 学生生活に関すること。
- 三 学生のキャリア教育に関すること。
- 四 学生及び教職員の心身の健康に関すること。
- 五 その他第 2 条に掲げる目的を達成するために必要な業務。

（組織）

第 4 条 センターに、業務遂行のための組織として次の室を置く。

- 一 相談室
- 二 キャリア支援室
- 三 保健室

2 それぞれの室に関し、必要な事項は別に定める。

（センター職員）

第 5 条 センターに次に掲げる職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 前条第 1 項各号に掲げる各室の長
- 四 学校医（内科医）及び産業医
- 五 その他校長が指名した者

（管理運営）

第 6 条 センターの管理運営は、校長の命を受け、センター長が行う。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐するとともに、センター長に事故あるときにはその職務を代行する。

（任期）

第 7 条 第 5 条第 1 項第 5 号に掲げる職員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第 8 条 センターに、第 3 条に掲げる業務に関し、必要な事項を審議するため、学生支援センター会議（以下「会議」という。）を置く。

学生支援センター組織図

2013年度学生支援センター組織図

学生支援センター

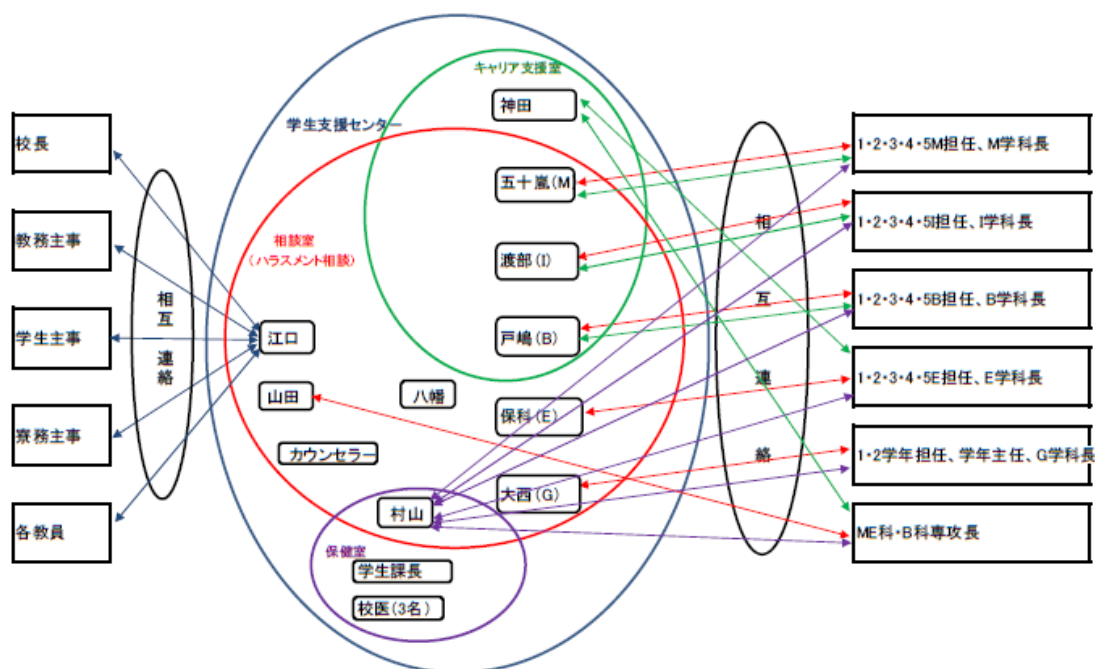
:江口(センター長)・山田(副)・神田(キャリア)・学生課長(保健室)・大西(G)・五十嵐(M)・保科(E)・渡部(I)・戸嶋(B)

:八幡(寮監)・村山(看護師)・学校医・学校歯科医・産業医・カウンセラー 15名

相談室(ハラスメント相談業務):江口(室長)・山田(副)・大西(G)・五十嵐(M)・保科(E)・渡部(I)・戸嶋(B)・八幡(寮監)・村山(看護師)・カウンセラー 10名

キャリア支援室:神田(室長)・センター員3名(五十嵐・渡部・戸嶋) 4名

保健室:学生課長(室長)・村山(看護師)・学校医・学校歯科医・産業医 5名



※ 活動概要

- 相談室員は各学科のクラス担任、学年主任、学科長と恒常的に連絡を取り、学生の学業・学校生活・寮生活等の様子を把握し、相談室会議で報告する。
- センター長は、恒常的に校長・主事等と連絡を取り、学生の学業・学校生活・寮生活全般の様子を把握し、相談室会議で報告する。
- 相談室会議は月一度開催(臨時会議開催もあり)。要支援の学生・教員が存在するか否か、存在する場合は支援のあり方を検討する。
- 特別支援グループ結成の必要がある場合、センター長はクラス担任等の意向聴取しながら、構成メンバーを決定し、当該教員に支援担当を要請する。
- 学生への支援等が円滑に遂行されるよう、センター長は校長・主事等と協議を行う。
- キャリア支援室長・室員は、キャリア教育を計画・実施する。
- キャリア支援室長・室員は、各学科の就職活動や編入学受験状況を把握し、支援を要する学生が存在する場合はこれに対応する。

※ 当面の課題

- 発達障がいや精神疾患について専門知識を持つ教職員の補充(急務！本校には素人しかいない！)
- 独立財源の確保 → 講師招聘、アンケート調査等の実施・分析、必要物品調達、講習・研修会等への出張
- 外部機関との連携
 - 各種医療機関、庄内児童相談所、山形県発達障がい者支援センター、山形県教育センター、庄内障害者就業・生活支援センター、他
- カウンセリング体制強化 → カウンセラーの増員や対応時間の増加。精神科あるいは心療科の学校医を準備
- 本校学生支援体制のガイドラインを学内外に明示 → 冊子や学校HPで…(できることと、できないことを明確化)、学校紹介等でも活用できる方針を策定
- 悩みを持つ学生を早期に把握 → 各種アンケート等の実施、相談室利用の有効性をアピール、全教職員との連携
- 教職員の啓発(講演等の実施) → カウンセリングマインドを涵養、学生支援に対する理解を定着、ハラスメント防止意識を向上、教職員自身の相談室利用促進
- キャリア支援室とCO-OP教育推進室の連携、相互関連の明確化
- 就職意識調査、就職先満足度調査、短期での自主退職者数把握 → キャリア教育のあり方へ反映
- 進路変更者の実態調査 → 進路変更を希望する者、またそれを余儀なくされる者への指導へ反映

相談室ってどんなところ？

H25年4月発行 学生支援センター 相談室

一人ひとりが充実した学生生活を送るためにサポートするところです。

- ◎ どんな話でも聞いてくれます。
- ◎ 専門のカウンセラーと相談員がいます。
- ◎ 一人で悩んでいないで、いつでも相談に来てください。
- ◎ もちろん、話の内容については秘密を守ります。

たとえばこんな事・・・話してみませんか？

- ◎ 学習のこと（授業・成績など）
- ◎ 進路のこと（就職・進学など将来のこと）
- ◎ 学校生活のこと（友人関係・部活動のこと）
- ◎ 精神衛生上のこと（やる気がわかないなど）
- ◎ セクシャルハラスメント・アカデミーハラスメント
- ◎ その他、個人的な問題 などなど・・・

いつ、どこに行けばいいの？

-----相談室は保健室の隣です-----

- ◎ 相談員との相談は、随時それぞれの教員室・事務室へ
- ◎ 看護師との相談は、随時保健室へ
- ◎ スクールカウンセラーとの相談は、学生相談室へ（予約が必要です）
- ◎ 誰に相談すればいいか迷ったときは、保健室で確認してください。

相談の申込、予約は保健室まで。電話、メールでもOKです。

電話 (0235) 25-9030 (保健室) 平日 8:30~17:00

メール soudan@tsuruoka-nct.ac.jp

私たちが相談室員です！



(出典：学生課資料)

学生支援センター対応事例

平成 24 年度 第 3 回相談室会議議事録

日時 平成 24 年 5 月 21 日 (月) 16:00～

場所 小会議室

出席 山田充昭 五十嵐幸徳、武市、渡部、村山、神田、鈴木補佐、XXXXXXXXXX (XXXXXX 担任)、白野、

欠席 長谷川、戸嶋、比留間

議題 学生の支援について

1. XXXXXXXXXX 君の支援について

状況が担任の XXXXXX 先生より説明があり、また支援に関する要望も出される。

状況：2012 年 1 月、体育の時間に網膜剥離の怪我を負い、その後二度の手術を伴う入院で長期欠席する。5 月 7 日よりようやく学校に復帰。学習と生活上の不安あり。長期に学校を離れていたため、学校生活における疲労の蓄積あり。過度の疲労を感じたら、保健室か寮で休むように指示している。

支援要望：長期欠席による遅れを取り戻すため、①特に次の教科について、補習や課題提供等の学習支援対象科目として要請したい。数学・物理・電気磁気学・電気回路・電気実験実習（数学・物理は担任から授業担当教員にお願いし、対応していただいている。よって専門の 3 科目をお願いしたい）②今後の検査通院や疲労等で欠席が増えると出席時間数の不足も考えられるので、これへの配慮もいただきたい。上記支援は本人・保護者とも望んでいる。

討議：専門 3 科目の担当教員に対して、相談室長から教務主事と連名で授業支援を願う。前期中間で成績が合格ラインをクリアできればよい。出来ないときは前期末をメドに支援し、夏休みには課題等与えて指導して前期末の結果で判断する。

XXXXXX 科の学科長にも同席してもらって話をした方がよい。

欠席が 1/3 をオーバーする可能性があるかも知れないが、保健室登校を出席扱いにする、補講を受けたらその部分の時間数を出席にするなどの配慮は必要で教務委員会で討議してもらう。

補講等実施したら、担当教員より個々に報告書を提出してもらう。

2. 学生支援の基準・方針

今回の XXXXXX の学生が支援の最初になるが、支援基準・方針・手続きを決めたい。

支援目標：低学年（前向きに進級させる方向で行う。3 年生で高卒の資格取得と、進路変更も考慮して進路指導。）高学年（自立へ向けて支援。卒業生への質の保障は崩せない。支援しても留年は有りうることを支援学生・保護者にも周知させる）

支援対象者：医療機関発行の証明書を有する者。カウンセラーからアドバイスのある者。保護者や本人が特別な理由で支援を希望する者）

支援対象学生を教員会議で全教員（あるいは授業担当の教員全員）に周知する。守秘義務を守る。教員向け講習会を開く。

（出典：学生課資料）

(分析結果とその根拠理由)

国際交流支援室が中心となって留学生への学習支援を行っている。また、留学生のための授業を開講し、チューターを配置して、日常生活や学習等に対するサポート体制をとっている。編入学生に対しては、入学前、入学後に学習支援を行っている。障がいのある学生に対しては学生支援センターが支援を行っている。

以上により、特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されている。

観点 7-1-⑤： 学生の部活動、サークル活動、自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され、適切な責任体制の下に機能しているか。

(観点に係る状況)

部活動の支援は、学生主事を中心に共通の目標、取り決めのもとで行っている（資料 7-1-⑤-1～2）。顧問会議開催、複数顧問の配置、学外コーチの配置、非常勤教員招聘制度等の体制を整備している（資料 7-1-⑤-3～6）。

大会運営に関わる支援も行われている（資料 7-1-⑤-7）。また、公式戦への参加については公欠として扱い（資料 7-1-⑤-8）、参加にかかる費用は、後援会費からも一部支援している。さらに、大会等において優秀な成績を残した学生に対する表彰も行っている（資料 7-1-⑤-9）。

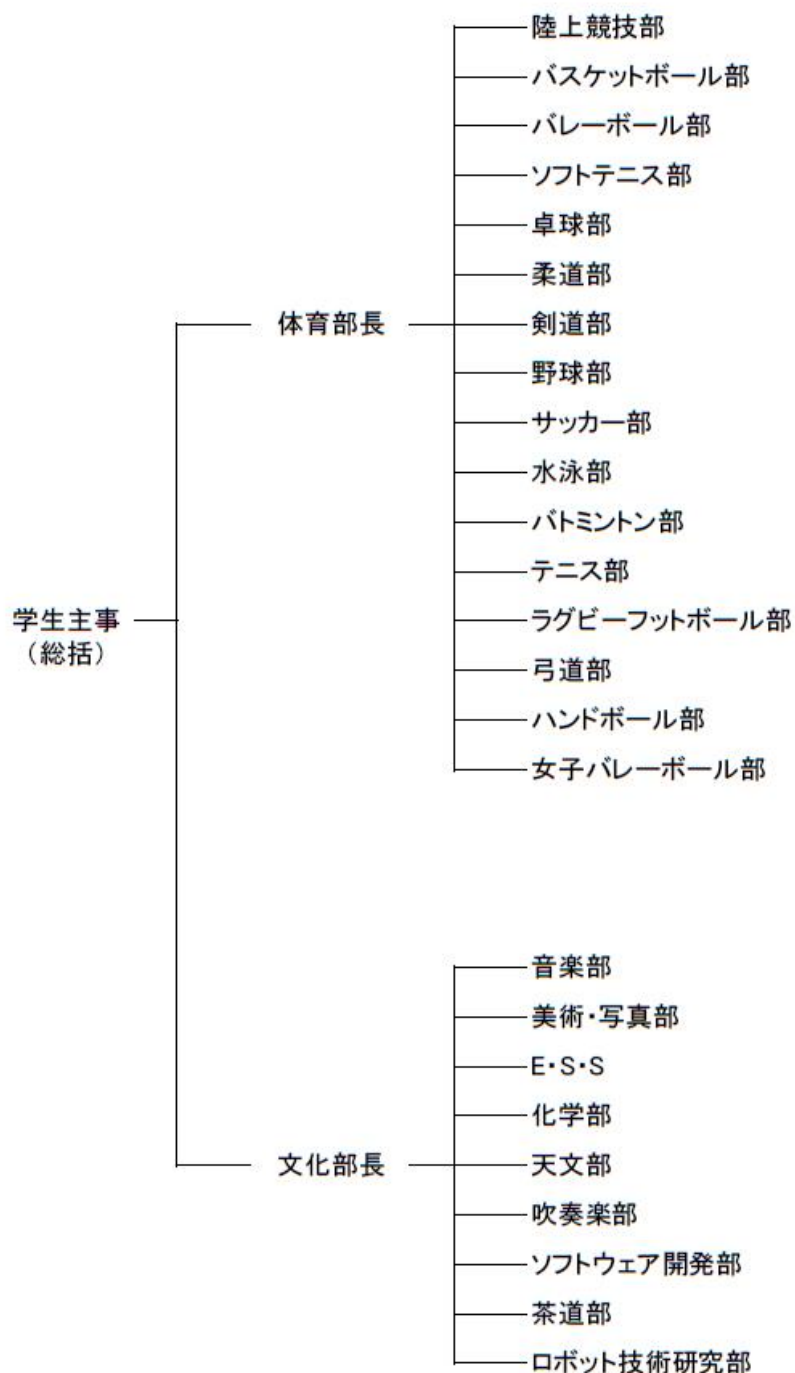
課外活動の活動場所としては、構内に十分な広さと設備がある（資料 7-1-⑤-10～11）。部活動指導における安全管理のために、外部講師を招いて、教職員と運動部員を対象とする講習会も行っている（資料 7-1-⑤-12～13）。

学生会本部用に課外活動室（学生控え室）を確保している（資料 7-1-⑤-14）。学生会担当の学生主事補は、定期的に学生会役員との打合会を開催し、学生会への指導、助言を行っている（資料 7-1-⑤-15）。

資料 7 - 1 - ⑤ - 1

クラブ組織図

平成25年度学生会・部関係指導組織図



(出典：学生課資料)

クラブ活動を行う上での注意

クラブ活動を行うに当たって

1. 活動の目標

- 一 心身両面の健全な発達をめざそう。
- 二 大会やコンテスト等の目標に向かって、たゆまない努力をしよう。
- 三 規律ある活動を通して、連帯感や協調の精神を高めよう。
- 四 集団の中の一個人である自覚を持ち、他を思いやる心、暖かい友情、豊かな感性を育てよう。
- 五 学業とクラブの両立、調和をはかり、仮にも学業不振に陥ることのないように心がけよう。

2. 安全の確保

- 一 安全なクラブ活動をするために、クラブ活動の目標をよく理解し、軽率な行動による事故は絶対に起こさぬよう心がける。
- 二 クラブごとに練習計画を立て、無理のない活動をする。
- 三 自分自身の身体状況、健康状況に注意し、自分の体力に適した活動をする。
- 四 定期的に健康診断を受けたり、身体測定をしたりして、疲労、病気など身体上の異常を早期に発見するように努める。
- 五 競技や練習の前には、準備運動・整理運動を十分に行う。
- 六 練習場等の施設や使用する器具・用具は、常に安全性を確かめ、よく整備しておく。
- 七 部長、キャプテン、マネージャー、上級生クラブ員は、技術面、精神面において下級生クラブ員の模範となるよう努力する。
- 八 まだ体力のついていないクラブ員には、それに適した活動をさせ、決して厳しさだけが先行することのないよう十分配慮する。
- 九 クラブ活動中、万一事故が起きたときは、顧問教員にすぐ連絡する。顧問教員不在のときは、学寮の宿直教員その他の教職員に連絡し、その指示に従う。

3. クラブ活動終了時間等

- 一 すべてのクラブとも、原則として18時30分までに終了する。
- 二 土曜・日曜・休日の活動時間は、クラブ員の健康状況、学習状況を考え顧問教員の許可を得て決める。

4. 合 宿

- 一 合宿期間は6泊7日を限度とし、年2回以内とする。
- 二 合宿は、休業中に行う。
- 三 合宿中は、本校学生としての品位を保ち、良識ある行動をとる。また、日課表に従って、規律正しい生活をする。

専攻科学生は該当しません。

(出典：平成25年度 学生便覧，pp.108～109)

平成 24 年度 顧問会議議事録

日 時 平成 25 年 3 月 6 日 (水) 14:10～14:25
 場 所 大会議室
 出席者 学生主事、佐藤 (浩)、矢吹、竹村、保科、武市、阿部 (秀)、宝賀、三村、
 阿部 (達)、野々村、吉木、瀬川、五十嵐、渡部、清野、南、小野寺、田阪、
 本橋、窪田、佐藤 (淳)、西山、本間、茨木、上松、戸嶋、加田、森谷、
 木村、今野
 記 録 学生係長

配付資料 1) 東北地区高専体育大会分散開催 (案)
 2) 高専体育大会／地区担当校

議 事

1. 平成 32 年度以降おける東北地区高専体育大会の開催方式について

学生主事より、東北高専体育連盟理事校から東北地区高専体育大会の開催方式について、各高専から希望する開催方式の調査依頼があり、本校としての意見を取り纏める必要があるので各顧問の意見を伺いたい旨依頼があった。

次いで、体育主任よりこれまでの東北地区高専体育連盟競技・運営専門委員会における審議の経緯等の補足説明あった。また、東北地区高専体育大会分散開催 (案) については、鶴岡市の体育施設・宿泊ホテルの受入数等を考慮し、体育主任と学生係で検討したものである旨説明があった。

なお、この ABC 案を検討するうえで考慮した点は、以下のとおりである。

- ・使用する体育施設が重ならないよう競技を分けた。
- ・屋内競技と屋外競技のバランスを考慮した。
- ・ロボコン東北地区担当校と東北地区高専体育大会主管校が重ならないようにした。
- ・仙台高専名取、広瀬が同年で主管校とならないようにした。

審議の結果、東北地区高専体育大会分散開催 (案) について特に異論は無く、この案を本校の意見とすることが了承された。

(出典：学生課資料)

資料 7 - 1 - ⑤ - 4

平成 25 年度 学生会顧問一覧

学 生 会 顧 問 教 員							
部	顧問教員	部	顧問教員	部	顧問教員	部	顧問教員
体 育 部 長	本 間					文 化 部 長	佐藤(秀)
陸 上 競 技	竹 村	剣 道	渡 部	ラ グ ビ ー	本 間	吹 奏 楽	澤
〃	保 科	〃	清 野	〃	山 田	音 楽	佐藤(秀)
〃	矢 吹	〃	平 尾	〃	茨 木	天 文	神 田
バスケットボール	佐藤(司)	野 球	南	弓 道	戸 嶋	化 学	神 田
〃	武 市	〃	小 野 寺	〃	徳 永	美 術 ・ 写 真	大 河 内
〃	阿部(秀)	〃	田 阪	ハンドボール	田 邊	E. S. S.	内 山
バレーボール	宝 賀	〃	金	〃	加 田	茶 道	内 山
〃	森 谷	〃	江 口	女子バレーボール	瀬 川	ロボット技術研究	佐藤(義)
〃	三 村	サ ッ カ ー	主 濱	〃	西 山	〃	佐々木
ソフトテニス	阿部(達)	〃	比 留 間			〃	安 齋
〃	野々村	〃	伊 藤			〃	上 松
〃	當 摩	水 泳	本 橋			〃	末 永
卓 球	五 十 嵐	〃	吉 木			〃	増 山
〃	安 田	〃	今 野			ソフトウェア開発	内 海
柔 道	田 中	バドミントン男女	窪 田				
〃	木 村	〃	吉 住				
		テ ニ ス	佐藤(淳)				
		〃	大 西				

(出典：学生課資料)

資料 7－1－⑤－5

平成 2 5 年度 学外コーチ名簿

クラブコーチ名簿（体育部）

氏 名	所 属	住 所	生年月日	指導クラブ
				バスケットボール部
				バレーボール部
				バレーボール部
				ソフトテニス部
				剣 道 部
				サ ッ カ ー 部
				水 泳 部
				弓 道 部
				女子バレーボール部

クラブコーチ名簿（文化部）

氏 名	所 属	住 所	生年月日	指導クラブ
				吹 奏 楽 部

（出典：学生課資料）

非常勤教職員就業規則（抜粋）
課外活動指導員について

（定義）

第2条 この規則における非常勤教職員とは、1週間の労働時間が30時間を超えない範囲内で定められている教職員（独立行政法人国立高等専門学校機構非常勤教職員の労働時間、休暇等に関する規則（機構規則第14号。以下「非常勤教職員労働時間等規則」という。）第13条の3により労働時間を定められた教職員を含む。）をいう。

2 非常勤教職員の職名及び対象職員は、次の各号に掲げるところによるものとする。ただし、これによりがたい特殊な事情のあるものについては、その都度理事長が定める。

- 一 事務補佐員 事務を補佐する職員
- 二 技術補佐員 技術に関する職務を補佐する職員
- 三 技能補佐員 技能に関する職務を補佐する職員
- 四 臨時用務員 労務作業に従事する職員
- 五 特命教授、特命准教授及び特命助教 次に掲げる職員
 - イ 学校における教育研究の充実及び活性化を図るために必要と認められる特定の業務に従事する職員
 - ロ 課外活動指導における学生の教育、特定の課外活動の技術的な指導及び各種大会

の校外引率業務に従事する職員

ハ 学生寮における学生の教育、生活指導及び相談業務に従事する職員

平成25年度 課外活動指導員一覧

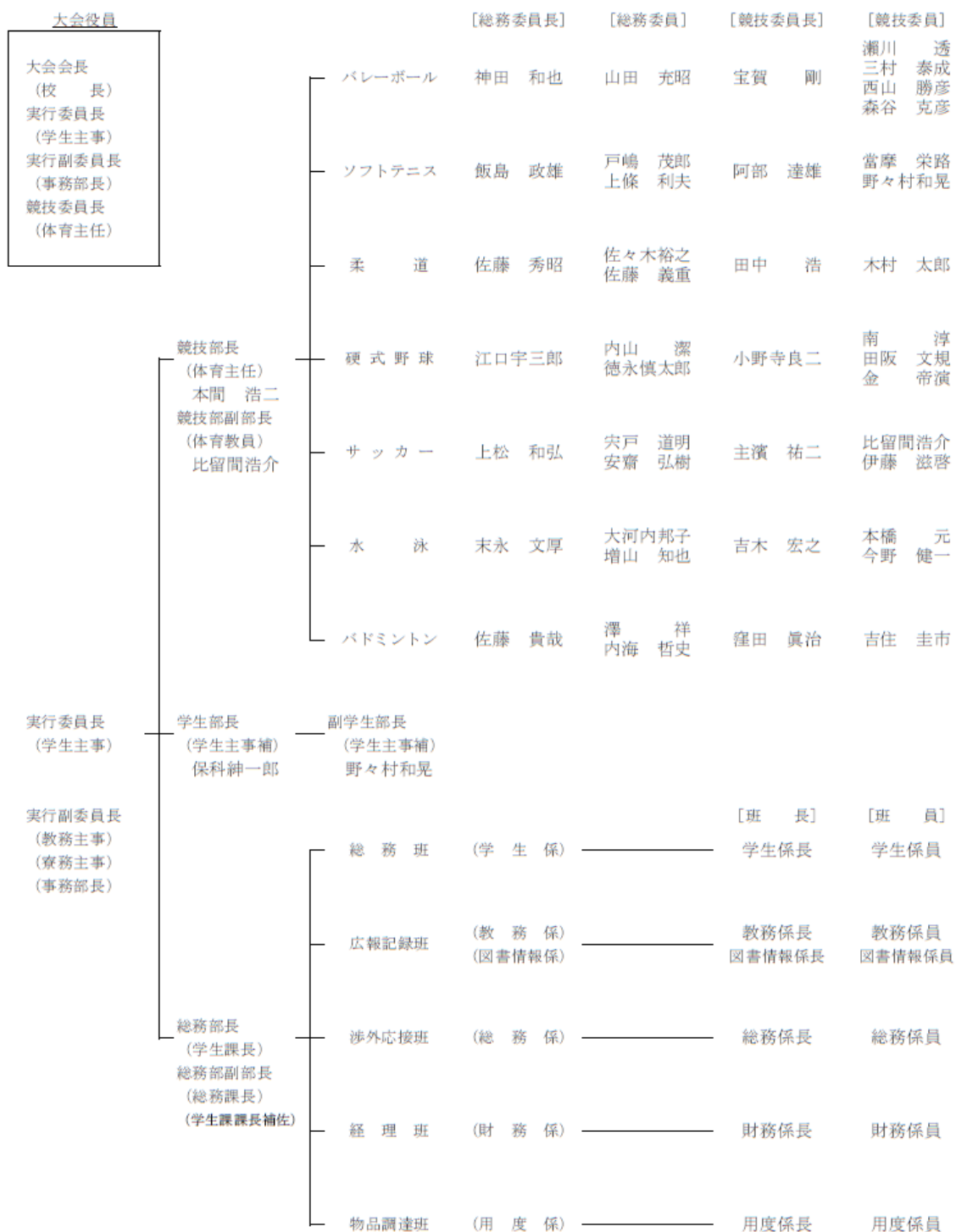
平成25年度 課外活動指導に係る非常勤職員採用一覧

氏名	職名	担当クラブ名	雇用期間	職務内容	勤務日
	特命教授	柔道部	平成25年4月～平成26年3月	柔道部における技術的な指導業務・校外引率業務	平日夕方の練習時間・土日の大会開催日をベースにした勤務カレンダーに基づく勤務日
	課外活動指導員	ラグビー部	平成25年4月～平成26年3月	ラグビー部における技術的な指導業務・校外引率業務	平日夕方の練習時間・土日の大会開催日をベースにした勤務カレンダーに基づく勤務日

（出典：総務課資料）

資料 7 - 1 - ⑤ - 7

第 50 回東北地区高等専門学校体育大会 校内実行委員会組織図



(出典：学生課資料)

大会参加に関わる公欠アナウンス例

Subject: 県高校総体参加による公欠(剣道部)**From:** 清野恵一 <seino@tsuruoka-nct.ac.jp>**Date:** 2013/06/05 12:20**To:** 全教員 <kyouin@tsuruoka-nct.ac.jp>

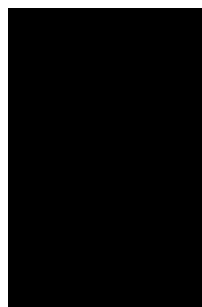
授業担当ならびに担任の先生各位

剣道部顧問の清野です。
 県高校総体に出場するため下記の日時、学生 7 名が
 公欠となります。よろしくお願いします。

記

日時 6月7日(金)終日

公欠学生 3 M
 3 I
 3 B
 2 M
 2 I
 2 I
 1 B



以上

--

鶴岡工業高等専門学校 物質工学科

清野恵一

〒997-8511 山形県鶴岡市井岡字沢田104

Tel/Fax:0235-25-9120

Email:seino@tsuruoka-nct.ac.jp

(出典：学生課資料)

資料 7 - 1 - ⑤ - 9

学生の表彰に関する内規

鶴岡工業高等専門学校学生の表彰に関する内規

施 行 昭和 5 7 年 2 月 1 日
最終改正 平成 1 6 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 鶴岡工業高等専門学校（以下「本校」という。）の学生の表彰については、別に定めるものの他この内規の定めるところによる。

(表彰の種類)

第 2 条 表彰の種類は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 優秀賞
- 二 皆勤賞
- 三 精勤賞
- 四 課外体育活動功労賞
- 五 課外文化・学術活動功労賞
- 六 学生役員活動功労賞
- 七 社会活動功労賞
- 八 平川賞
- 九 努力賞
- 十 精励賞
- 十一 功績賞
- 十二 善行賞

- 2 表彰は、重複して授与することができる。
- 3 第 1 項に掲げる表彰の基準は別表に定める。

(被表彰者の推薦等)

第 3 条 学科長、クラス担任、クラブ顧問教員等（以下「推薦者等」という。）は前条第 1 項に掲げる表彰に該当する学生がいる場合には、別に定める時期までに推薦書（様式第 1）により校長に推薦することができる。ただし、表彰される日前の 1 年間に於いて訓告以上の処分を受けた学生を推薦することはできない。

(被表彰者の選考)

第 4 条 前条の規定により推薦を受けた校長は、学生委員会に審査を委ねるものとする。

- 2 学生委員会委員長は、次に掲げる者で組織する表彰学生選考委員会（以下「委員会」という。）を設置して選考するものとする。
 - 一 学生主事(委員長)
 - 二 教務主事補、学生主事補及び寮務主事補から各 1 名
 - 三 学生課長

(表彰の方法)

第 5 条 表彰は、表彰状を授与して行う。

- 2 前項の表彰状にあわせて、記念品を授与することができる。

(表彰の時期)

第 6 条 表彰の時期は、別表に定める。

(表彰に関する事務)

第 7 条 表彰に関する事務は、学生課が行う。

(雑則)

第 8 条 この内規に定めるもののほか、表彰の実施に必要な事項は別に定める。

附 則

この改正規程は、昭和 5 7 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、昭和 5 9 年 1 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 1 4 年 1 月 2 8 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 1 6 年 4 月 1 日から施行する。

資料 7 - 1 - ⑤ - 9 続き

学生の表彰事例

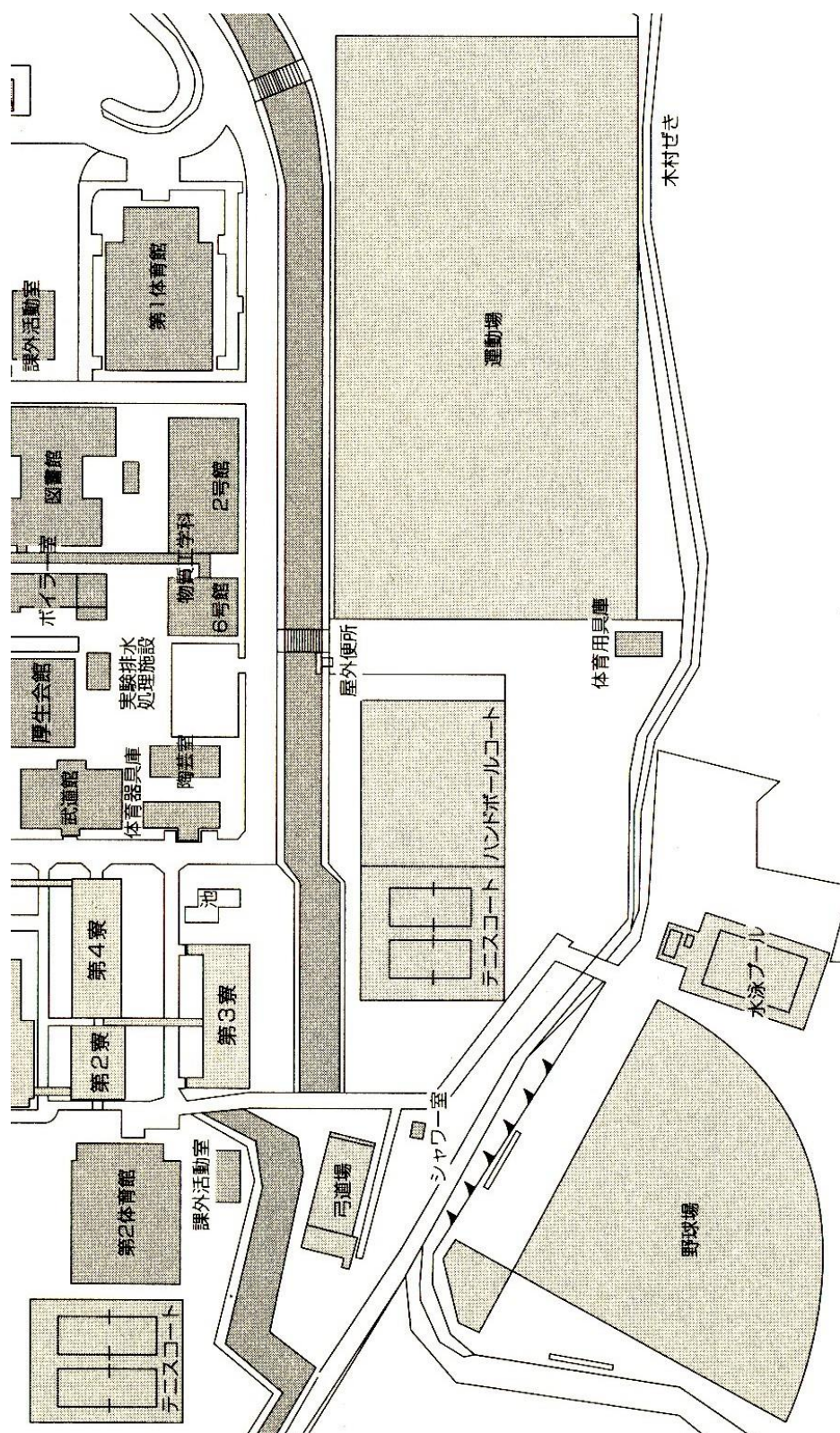
表彰内規による表彰候補者

種 別	クラス	氏 名	受賞内容	表彰年月日	表彰集会名
功績賞	3 B		東北地区高専体育大会 陸上競技 男子円盤投 優勝	2 4 . 9 . 3	始業行事
	5 I		東北地区高専体育大会 陸上競技 女子走高跳・走幅跳 優勝		
	5 B		東北地区高専体育大会 陸上競技 女子1 0 0 mH 優勝		
	3 I		東北地区高専体育大会 陸上競技 女子8 0 0 m 3位		
	4 B		全国高専体育大会 陸上競技 女子砲丸投 2位		
	5 M		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	4 M		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	4 M		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	3 I		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	3 B		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	3 B		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	3 B		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2 E		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2 E		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2 E		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2 E		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2 B		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	2 B		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	1 M		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	1 I		全国高専体育大会 バレーボール競技 3位		
	5 I		全国高専体育大会 水泳競技 女子2 0 0 mリレー 3位		
	4 I		全国高専体育大会 水泳競技 女子2 0 0 mリレー 3位		
	4 I		全国高専体育大会 水泳競技 女子2 0 0 mリレー 3位		
	4 B		全国高専体育大会 水泳競技 女子2 0 0 mリレー 3位		
	5 B		東北地区高専体育大会 バドミントン競技 男子ダブルス 優勝		
	5 B		東北地区高専体育大会 バドミントン競技 男子ダブルス 優勝		
	5 I		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位		
	4 B		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位		
	4 B		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位		
	3 I		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位		
	3 B		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位		
	2 I		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位		
	2 B		東北地区高専体育大会 バレーボール競技 女子 2位		

(出典：学生課資料)

資料 7-1-⑤-10

課外活動に利用される設備等が示された学校配置図



(出典：平成25年度 学生便覧，p. 176)

資料 7 - 1 - ⑤ - 11

課外活動時における主要施設の使用状況

運動場	ラグビーフットボール部, サッカー部, 陸上競技部
ハンドボールコート	ハンドボール部
テニスコート(右)	ソフトテニス部
テニスコート(左)	テニス部
水泳プール	水泳部
野球場	硬式野球部
弓道場	弓道部
第一体育館	卓球部, バドミントン部, 女子バドミントン部, ハンドボール部
第二体育館	バスケットボール部, バレーボール部, 女子バレーボール部
課外活動室(右)	写真部, 学生会
課外活動室(左)	音楽部
武道館	剣道部, 柔道部

(出典：学生課資料)

資料 7-1-⑤-12

救急訓練実施についてのメールアナウンス

題名 救急訓練の実施について
差出人 江口 宇三郎

平成 24 年 6 月 25 日

課外活動顧問教員 各位

学生主事 江口

日頃、課外活動にご尽力いただき有難うございます。

東北地区高専体育大会も近づき、練習指導や引率業務にお忙しいことと存じます。

さて、これからはスポーツには過酷な季節となり、いろいろな怪我や病気になる可能性が高まりますので、怪我や病状が悪化しないように、先生方および学生には応急処

置を知ってもらう必要があります。

このため、鶴岡市消防署から講師を招いて講習会（実地訓練も含む）を下記の通り開催しますので、多くの方のご参集をお願いします。

記

1. 日時：平成 24 年 6 月 27 日（水） 16:00～17:00
2. 場所：厚生会館 2 階の課外活動室
3. 講習内容：救急訓練（AED、心臓蘇生法、事故・怪我発生時の対応）、熱中症対策講習
3. 参加対象者：顧問教員および各部ごとの学生 1～2 名程度
尚、その他参加を希望する教職員も歓迎します。

本メールは全教職員に配信しています。

以上

江口 宇三郎 eguchi@tsuruoka-nct.ac.jp

(出典：学生課資料)

資料 7-1-⑤-13

部活動指導に関わる学生支援センターからのメール

題名 熱中症対策に関する御願い
差出人 白野啓一

(このメールは全教員に配信しています)

運動部等顧問各位

学生支援センター 白野啓一
山田充昭

ご存知のように、先月末、山形中央高校ラグビー部の練習中に、熱中症による死亡事故が発生しました。

熱中症は、気温・湿度や風の状況によって発生しやすくなり（高温・多湿・無風になるほど危険）、プレーヤー個人の体調にも大きく影響されます（睡眠不足・栄養不足・疲労蓄積等は危険）。また、言うまでもありませんが、競技場所が屋内・屋外かを問わず、熱中症への注意は必要となります。

既に、本校では夏休み前半期の合宿中、校内放送によって学生主事による注意喚起がなされております。全国大会に向けての合宿、夏休み後半期の合宿に際しても、顧問の先生方におかれましては、下記注意事項を念頭におかれまして、細心の注意を払われますよう御願いたします。

なお、以前に送信済みのものですが、体育の本間先生が作成された資料「スポーツ場面の応急手当」を再送いたします。こちらも御再読されますよう、重ねて御願いたします。

合宿に際しての注意事項

- 練習・試合を行う際は、必ず顧問教員がその場につく。
- 極端に高温・多湿・無風の時は、練習を行わない。
- 顧問教員は、部員の体調を恒常的に把握し、体調の悪い者はプレーさせない。
- 練習・試合中には、十分な水分補給を行わせる。
- 練習・試合中、部員の体調が悪化した場合、即座に風通しの良い涼しい場所で休息をとらせる。
- 熱中症が疑われる場合は、体を締め付けるもの（ソックス・靴等）を極力はずし、水・氷などで体を冷やす。また、状況によっては救急車を呼ぶ。
- 食事・睡眠をしっかりとり、練習の合間には十分に休息をすることを指導する。
- 部員の体調が悪くなった場合、保護者にその旨を連絡し、状況によっては帰宅させる。

機械工学科 白野啓一
(内線 9038)

————— このメールにはファイルが添付されています —————

スポーツ指導における注意事項資料

6 熱中症について（熱の産生と冷却のメカニズム）

運動を行うと **筋肉** で大量の **熱** が発生する。その熱を逃がすために通常は皮膚の血管を **拡張** して、血液を体表に集めて熱を逃がしている。さらに、体外に **汗** を出してその気化熱で熱を放散している。人の身体はこのように熱のバランスをとることで **体温** を **一定** に保っている。しかし、**気温** や **湿度** が高い環境のもとでは体の熱が放散されずに結果として **体温調節** や **血液循環** がうまくいかなくなり熱中症が発生する。

7 熱中症は一番多く発生する時期は？

7月下旬 から **8月上旬** にかけてである。

8 熱中症の程度について

① 軽度の場合（体で起きていること）

→ **脱水症状**、**脳貧血** など

② 重度の場合（体で起きていること）

→ **体温の異常な上昇**、**中枢神経障害（意識障害）** など

9 熱中症の手当について

① 軽度の場合

涼しい所 に運び、**衣服** をゆるめて体を冷やし、**水分** を補給する。

→ **安静** と **水分補給** と **冷却** が基本。

② 重度の場合

水を **体** にかけて積極的に **扇く** などして体温を下げるようにする。

皮膚 がぬれた状態を保ち、どんどん扇いで水分を **気化** させることによって熱を放散させる。首や **わきの下**、**太股のつけね** などに **アイスパック** を入れてやることも一つの方法である。

10 FIREの原則について（熱中症の対応原則）

F (**Fluid**) → **水分補給（水 + 塩分）** を意味する

I (**Ice**) → **冷却** を意味する

R (**Rest**) → **安静（涼しい場所）** を意味する

E (**Emergency**) → **病院への搬送** を意味する

11 熱中症の予防について

① 事前に気をつけなければならない点

気温 と **湿度** に気をつける。

※ 気温が **35度以上** の場合は原則として運動を中止すべきである。

② 熱中症を予防するために運動中に気をつけなければならない点

休憩 と **水分補給** に気をつける。

※ 水分補給と同時に **塩分** をとることも大切である。

夏場に運動をするときには、① **運動の調節**

② **こまめな水分補給**

③ **休憩**

④ **通気性の良い服装**

⑤ **自分の体調**

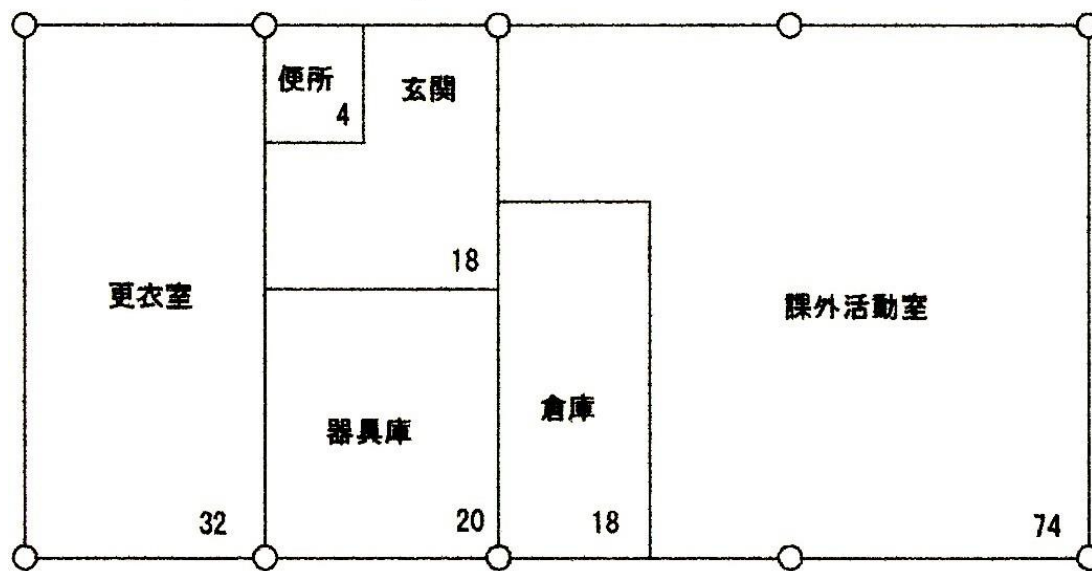
に留意する。

（出典：学生課資料）

資料 7 - 1 - ⑤ - 14

課外活動室(学生控え室)平面図

<本校舎側>



<第一体育館側>

(出典：学生課資料)

学生会担当の学生主事補と学生会役員との打合せの議事録

学生会担当の学生主事補と学生会役員との打合せの議事録

日時：平成 24 年 11 月 7 日(水)

場所：課外活動室（学生控え室）

出席者：会長 (4B), 副会長 (4B), 書記長 (4I), 書記 (3E), 渉外 (2M), (2B), 広報長 (4M), 広報 (3I), (2I), (2I), 会計長 (3B), 会計 (3B), (2E), 庶務 (1E), (1B), 学生会担当
学生主事補 野々村 和晃(准教授)

議題：ハロウィン企画の反省

1. 経緯

他高専では、学生会が主体となり、年間に多くのイベントが行われていた。

鶴岡高専では、学生会の活動内容が在校生にはあまり認識されていなかったため、興味をもってもらうために、学内イベントを企画することになった。

2. 企画の立案

七夕、ハロウィン、クリスマス、バレンタインの四つの企画を学生会内で立案した。

日程を考えると、ハロウィンの時期にハロウィン企画を行うことがなにかとやりやすいと判断。

3. 良かった点、悪かった点

● 良かった点

- ・学生からのリアクションが多くあり、参加した学生が楽しそうな様子が見られた。
- ・昼休みなどを利用して先生のところを訪問する学生が多く、学校の雰囲気が明るくなったように感じられた。
- ・先生方と学生の新たな交流の場を提供することができた。
- ・普段交流のない先生とも関わるができる良い機会となった。
- ・広告などを用いた広報活動により学生会の存在を多くの学生に知ってもらえた。
- ・新企画により学生会の活動を増やし役員それぞれが経験を積むことができた。

● 悪かった点

- ・企画書の提出が遅くなり準備期間が短くなった。
- ・準備期間が遅くなり先生方全員に引換券を渡すことができなかった。また、宣伝の期間が短かったことで学生に企画の趣旨、参加の方法が伝わらないままにイベントが終了してしまった。

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では明確な活動目標を設定し、顧問教員他を適切に配置して支援を行っている。資金面においては、後援会から支援を受け、学生の負担を軽減している。また、学生に対して表彰を行っている。構内に課外活動を行うための設備が揃っている。講習会等で、学生の安全・健康管理を徹底している。学生会は、学生会担当教員の助言、指導の下で活動を行っている。

以上により、課外活動に対する支援体制が整備され機能している。

観点 7-2-①： 学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学校の生活指導の基本方針の下に、主としてクラス担任が個々の学生への生活指導、相談、助言を行っている（資料 7-2-①-1～3）。学生委員会は学生全体への交通指導、巡回指導等の生活指導を毎年実施している。交通安全に関する交通講話及び飲酒や非行防止に関する生活指導講演会を鶴岡警察署の講師により実施している（資料 7-2-①-4～5）。

学生支援センター相談室及び保健室では、学生の精神的、身体的な相談に対処しており、定期的に来校する専門のカウンセラーのカウンセリングも行っている（資料 7-2-①-6～8）。

学生委員会は経済的支援として、授業料の減免及び各種奨学金についての周知、助言を行っており、一定の基準を満たした学生に支援している（資料 7-2-①-9～11）。

資料 7-2-①-1

共通の生活指導の具体方針（抜粋）

H 25 . 4 . 1

取扱注意

学生生活指導の手引き

鶴岡工業高等専門学校

I 生活指導の基本方針

【基本方針】

三つの能力を兼備する創造的、実践的技術者の育成

- ・ 社会の一構成員たる職業技術者としての倫理的判断能力
- ・ いかなる問題に対しても敢然と取り組む行動能力
- ・ 自己の技術的行動を合理的に遂行するための専門知識の獲得能力

【指導目標】

- ・ 倫理的判断能力規範、規律、遵法、責任、協調の精神の涵養
- ・ 行動能力自主、自発、決断、忍耐、精進の精神の涵養
- ・ 知識獲得能力学習意欲の高揚目的意識の確立

II 学生会指導

【指導目標】

- ・ 自主性、自律性、創造性の育成・社会性の養成
- ・ 自治能力、責任能力の涵養

【具体的指導方針】

1. 評議会、役員会について

- ・ 年間行事の立案と実行

学生会総会（5月） 東北地区高専体育大会壮行式（7月） 高専祭（10月） 他

- ・ 予算の適正な執行
- ・ クラス、部単位の意識の高揚

※留意点

・ 自治の概念を無制限に拡大し、学校の運営に関与したり干渉したりすることは許されない。

2. 部について

- ・ 心身の健全な発達に努める。
- ・ 目標（大会、コンテスト）に向けての努力、忍耐力の涵養を図る。
- ・ 地域との交流を図る。
- ・ 規律ある集団生活を通して、連帯感、協調の精神の高揚を図る。
- ・ 集団の中の一人人として、他を思いやる心、包容力、コミュニケーション能力、豊かな感性の涵養を図る。

（出典：学生生活指導の手引き）

クラス担任の役割等

内部組織規程（抜粋）

第 14 条 本校の各学年に、学年主任を置く。

2 本校の各学級に、学級担任を置く。

3 学年主任及び学級担任は、教授、准教授、講師又は助教のうちから校長が任命する。ただし、学年主任は学級担任を兼ねることができる。

4 学年主任及び学級担任の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

（学年主任及び学級担任の職務）

第 15 条 学年主任は、校長の命を受け、主事及び学科長と連絡を密にし、担当する学年の運営に関することを掌理する。

2 学級担任は、校長の命を受け、主事、学科長及び学年主任と連絡を密にして、次の事項を行う。

一 学級の教務に関すること。

二 学級の生活指導等に関すること。

三 学級の特別教育活動に関すること。

四 その他学級運営に関すること。

（出典：規程集）

クラス担任業務（抜粋）

Ⅱ. 主な学級担任業務

主な学級担任業務について、以下にまとめて示す。

1. 日常業務 2. 定例業務 3. 学習支援業務・学習状況の把握
4. 打合せ等 5. 問題行動への対応

1. 日常業務

- (1) 出席状況の把握

始業前に学生の様子を見る。遅刻者・無断早退者に対する指導

- (2) 『出席簿』の管理

- (3) 『学級日誌』の管理

- (4) 教室清掃等の指示・監督

- (5) 放課後、教室の様子を見る。窓の戸締まり・施錠確認

- (6) 服装指導

- (7) 学生への諸連絡

- (8) 保護者への諸連絡

- 26 -

- (9) 座席表の作成・席替えの実施

- (10) 公欠等の手続き

①認められた大会等への参加②就職試験等③大学等受験④交通機関の遮断

⑤忌引き⑥法定伝染病等による登校禁止⑦その他、申し合わせに該当する事項

2. 定例業務

- (1) 特別活動（1～3学年；週1回）にて、クラス全体に諸注意・激励等

- (2) 学校行事等、学生が集会を行うときの整列指示・出席確認等

- (3) 合同観劇（1～3学年；年1回）の指導

- (4) 体育大会（年1回）のメンバーの選出、大会当日の応援

- (5) 保護者との学級別個別懇談会にての面談（年1回）

- (6) 高専祭（学校祭）の準備・実施への助言及び支援

- (7) 指導寮生との懇談（1学年・2学年担任；年1回程度）

- (8) 指導要録記載（年1回）

- (9) 工場実習業務（4学年）

3. 学習支援業務・学習状況の把握

- (1) 教科担当者との情報交換

- (2) 定期試験結果による学生指導（前期中間・前期末・後期中間；年3回）

- (3) 成績不振学生への個別指導

- (4) 保護者あて成績通知票へのコメント記載（前期末・学年末；年2回）

（出典：学生生活指導の手引き）

学生委員会の役割

学生委員会規程（抜粋）

鶴岡工業高等専門学校学生委員会規程

制 定 平成 1 5 年 3 月 3 1 日

（全部改正）

最終改正 平成 2 4 年 2 月 2 9 日

鶴岡工業高等専門学校厚生補導委員会規程（昭和 4 4 年 4 月 1 日制定）の全部を改正する。

（趣旨）

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 1 9 条第 3 項の規定に基づき、学生委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 学生指導に関する事項
- 二 学生の身分に関する事項
- 三 課外教育に関する事項
- 四 奨学金に関する事項
- 五 厚生福祉に関する事項
- 六 学生の表彰・懲戒に関する事項
- 七 その他学生の生活指導に関し必要な事項

（組織）

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 学生主事
- 二 寮務主事
- 三 学生主事補
- 四 教員のうちから校長が指名した者
- 五 学生課長

（出典：規程集）

学生委員会による生活指導（抜粋）

平成 2 5 年度 第 1 回学生委員会議事

日 時 : 平成 2 5 年 4 月 4 日 (木) 1 0 : 0 0 ~

場 所 : 大会議室

議題

1. 平成 2 5 年度学生指導方針について 資料 1

2. 前期校内等巡回指導について 資料 2

3. 通学指導計画について 資料 3

4. 自転車の車体検査について 資料 4

5. バイクの車体検査について 資料 5

6. 通学用スクールバスについて 資料 6

7. その他

平成 25 年度学生指導方針等について

平成 25 年 4 月 1 日

学生主事

1. 指導方針等

1) 指導方針

次の三つの能力を兼備する創造的、実践的な技術者の育成を目指す。

- ・ 社会の一構成員たる職業技術者としての倫理的判断能力
- ・ いかなる問題に対しても敢然と取り組む行動能力
- ・ 自己の技術的行動を合理的に遂行するための専門知識獲得能力
 - * 倫理的判断能力：規範、規律、遵法、責任、協調の精神の涵養
 - * 行動能力：自主、自発、決断、忍耐、精進の精神の涵養
 - * 知識獲得能力：学習意欲の高揚、目的意識の確立

2) 指導目標

次の三つの目標を定める。

- ・ 基本的習慣の育成
- ・ 規範精神の高揚
- ・ 遵法精神の育成および実践
 - * 年齢幅の大きい学生および学生集団の生活指導に当たっては、慎重に対応する。
 - * 指導体制および体制の確立（「学生生活指導の手引き」適用）
 - a) 学校—学生—保護者—地域 連携
 - b) 学校の中での連携：担任、担任会、学生支援センター、学寮他
 - c) 問題行為の予防・事前指導の徹底、問題発生後の対応、いじめ、万引き・盗み、暴力行為、不純異性交遊、飲酒、喫煙、交通事故、交通違反、盗難防止のため貴重品の管理徹底。
 - d) マナーアップ指導（挨拶、服装・身だしなみ、携帯電話使用、自転車運転）

3) 「学生生活指導の手引き」（平成 24 年 4 月 1 日 改正）

学生用および保護者用「学生生活の手引き」について

本校学生が心身ともに健全で充実した学生生活を送る上で、「銘記し守るべき心得」をまとめたもの。指導措置の概要も記し、保護者・学生・教員が本校の学生指導について共通理解をして対処することで、一人一人の学生の健全育成を目指す。

2. 学生主事補の役割分担

- ・大会・行事関係：保科 紳一郎 ・生活指導：渡部 誠二
- ・交通安全指導：小野寺 良二 ・学生会指導：野々村 和晃

3. 学内行事および巡回指導等

1) 主な学生指導関係行事

- (a) 交通講話 4 / 17 日 (水) (b) 学生会総会 5 / 8 日 (水)
- (c) 生活指導講演会 7 / 24 日 (水) (d) 4年進路指導 9 / 11 日 (水)、
12 / 5 日 (木)
- (e) 鶴峰祭 10 / 26 (土) ~ 27 日 (日) (f) 学生指導研修会

2) 校内および校外巡回

- (a) 4月~5月：前期校内および集会所近辺の巡回指導
- (b) 10月~11月：後期校内および集会所近辺の巡回指導

3) 通学・交通安全指導

年間 5 ~ 6 回程度 (鶴岡警察署交通安全課、塔和会町内会と合同の機会もある)

4月：通学指導 4 / 8 (月) ~ 9 (火)

校内指導 (自転車車体検査) 4 / 22 (月) ~ 25 (木) 昼休み等

校内指導 (バイク車体検査) 4 / 30 (火) 12 : 20 ~ 12 : 55

6月：街頭指導 7月：許可バイク・自転車の通学指導

9月：街頭指導 10月：街頭指導 11月：学校周辺巡回指導

1月：自動車通学に対する校内指導

4. 課外活動大会

(1) 高専大会

- (a) 東北地区高専大会：7 / 5 (金) ~ 7 日 (日) A大会：仙台大専広瀬主管
B大会：鶴岡高専主管
- (b) 全国高専体育大会：8 / 中旬~下旬 東北地区主管
全国高専体育大会剣道競技：8 / 17 (土) ~ 18 (日) 鶴岡高専担当
- (c) 東北地区高専ラグビー大会：10 / 18 (金) ~ 22 日 (火) 仙台大専広瀬主管
- (d) ロボコン東北地区大会：10 / 13 (日) 一関高専主管
- (e) プログラミングコンテスト：10 / 13 (日) ~ 14 日 (月) 旭川高専主管
- (f) ロボコン全国大会：11 / 24 (日) 両国国技館
- (g) ラグビー全国大会：1 / 4 (土) ~ 9 日 (木) 神戸高専主管

(2) 高等学校大会

- (a) 田川地区春季高校野球地区予選：4 / 27 (土) ~ 5 / 6 (月)
- (b) 田川地区高校総体春季大会：5 / 11 (土) ~ 12 日 (日)
- (c) 春季高校野球山形県大会：5 / 17 (金) ~ 26 (日)

資料 7 - 2 - ① - 5 続き

- (d) 山形県高校総体：6 / 7 (金) ~ 9 日 (日)
- (e) 高校野球選手権大会山形大会：7 / 12 (金) ~ 25 (木)
- (f) 秋季高校野球庄内地区大会：8 / 下旬 ~ 9 / 上旬
- (g) 田川地区高校総体秋季大会：9 / 14 (土) ~ 15 日 (日)
- (h) 山形県高校新人体育大会：10 / 12 (土) ~ 13 日 (日)、11 / 2 (土) ~ 3 (日)

5. 地域連携指導

- (1) 田川地区高等学校生徒指導連絡協議会 総会 2 回、例会 5 回程度
- (2) 田川地区中学・高等学校生徒指導連絡協議会 2 回
- (3) 庄内地区高等学校生徒指導連絡協議会 1 回
- (4) 鶴岡警察署管内学校警察連絡協議会 1 回
- (5) 中学校・高等学校生徒指導主事と青少年育成推進員の懇談会 1 回

6. 地区保護者懇談会

- (1) 新庄最上地区 2) 酒田飽海地区 3) 鶴岡田川地区
- (4) 山形村山地区 5) 米沢置賜地区

以上

(出典：学生委員会資料)

相談室・保健室の業務等

学生支援センター相談室及び保健室規程（抜粋）

鶴岡工業高等専門学校学生支援センター相談室規程

制 定 平成 2 4 年 2 月 2 9 日

（趣旨）

第 1 条 この規程は発達障害者支援法（平成 1 6 年法律第 1 6 7 号）及び鶴岡工業高等専門学校学生支援センター規程第 4 条第 2 項に基づき、相談室の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

（目的）

第 2 条 相談室は、学生の修学に関する総合的な支援並びに学生及び教職員に対する健康等の相談業務を通じて、本校における学生及び教職員の心身の健康維持・増進に資すること、並びに発達障害の学生その他学校生活上支援を要する者に対し適切な支援を行うことを目的とする。

2 前項の発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現する言語の障害、協調運動の障害、心理的発達の障害並びに行動及び情緒の障害をいう。

（業務）

第 3 条 相談室においては、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 学生の修学相談及び修学支援に関すること。
- 二 学生のメンタルヘルス及び学生生活全般に関する相談業務。
- 三 学生及び教職員のハラスメントに関する相談業務。
- 四 発達障害の学生その他学校生活上支援を要する学生の特別教育支援に関すること。
- 五 その他第 2 条に掲げる目的を達成するために必要な業務。

資料 7-2-①-6 続き

鶴岡工業高等専門学校学生支援センター保健室規程

制 定 平成 24 年 2 月 29 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は鶴岡工業高等専門学校学生支援センター規程第 4 条第 2 項に基づき、保健室の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(目的)

第 2 条 保健室は、学生及び教職員の健康管理に関し総合的な支援を行うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 保健室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 学校保健計画に関すること。
- 二 学生及び教職員の健康診断の実施に関すること。
- 三 学生及び教職員の不測の疾病及び傷害への対応に関すること。
- 四 環境衛生等に関すること。
- 五 その他健康管理に関すること。

(出典：規程集)

資料 7-2-①-7

学生相談室の案内（教室掲示用）

相談室ってどんなところ？
[12.5年4月発行 学生支援センター 相談室]

一人ひとりが充実した学生生活を送るためにサポートするところです。

- ◎ どんな話でも聞いてくれます。
- ◎ 専門のカウンセラーと相談員がいます。
- ◎ 一人で悩んでいないで、いつでも相談に来てください。
- ◎ もちろん、話の内容については秘密を守ります。

たとえばこんな事…話しておませんか？

- ◎ 学習のこと（授業・成績など）
- ◎ 進路のこと（就職・進学など将来のこと）
- ◎ 学校生活のこと（友人関係・部活動のこと）
- ◎ 精神衛生上のこと（やる気がわからないなど）
- ◎ セクシャルハラスメント・アカデミーハラスメント
- ◎ その他、個人的な問題 などなど・・・

いつ、どこに行けばいいの？

………相談室は保健室の隣です………

- ◎ 相談員との相談は、随時それぞれの教員室・事務室へ
- ◎ 看護師との相談は、随時保健室へ
- ◎ スクールカウンセラーとの相談は、学生相談室へ（予約が必要です）
- ◎ 誰に相談すればいいかわかったときは、保健室で確認してください。

相談の申込、予約は保健室まで。電話、メールでもOKです。

電話 (0235) 25-9030 (保健室) 平日 8:30～17:00
メール soudan@tsuruoka-nct.ac.jp

私たちが相談室員です！

スクールカウンセラー
(池田心穂先生)
加藤 早苗
毎週水曜日 15:30～17:30

相談室長
電気電子工学科
江口 宇三郎
eguchi@tsuruoka-nct.ac.jp

相談室長
総合科学科
山田 光昭
yamada@tsuruoka-nct.ac.jp

相談員
総合科学科
大西 宏昌
hoenhi@tsuruoka-nct.ac.jp

相談員
機械工学科
五十嵐 幸徳
yika@tsuruoka-nct.ac.jp

相談員
電気電子工学科
保科 紳一郎
hoehine@tsuruoka-nct.ac.jp

相談員
新幹線工学科
渡部 誠二
watanabe@tsuruoka-nct.ac.jp

相談員
物質工学科
戸嶋 茂郎
shigeru@tsuruoka-nct.ac.jp

相談員
養護
八幡 喜代志
yamate@tsuruoka-nct.ac.jp

相談窓口
看護部
村山 智子
mureyama@tsuruoka-nct.ac.jp

(出典：学生課資料)

資料 7 - 2 - ① - 8

平成24年度の保健室、相談室への来室者数等

1. 平成 24 年度 学生相談について

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
カウンセラー 面接	6	4	5	3	0	1	3	1	2	1	4		30
相 談 指 導	10	5	8	5	1	6	6	9	6	7	7		70
合 計	16	9	13	8	1	7	9	10	8	8	11		100

2. 平成 24 年度 相談内容について(看護師及びカウンセラー対応のみ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
健康・体調	5	3	3	2	0	3	4	2	3	3	4		32
精神状態・うつ等	4	2	7	3	0	0	1	0	0	0	2		19
学業・成績・進路	4	1	0	2	0	1	0	0	1	1	4		14
人間関係	0	0	0	0	0	1	3	5	3	1	0		13
その他	3	3	3	1	1	2	1	3	1	3	1		22
合 計	16	9	13	8	1	7	9	10	8	8	11		100

3. 保健室来室者数(2012/4/1～2013/3/6 まで)

・ケガの処置: 254件

・体調不良 : 476件

(出典: 学生支援センター資料)

授業料免除の説明

授業料免除制度について

1 . 授業料免除の対象者

【本科 1 ～ 3 年生】

本科 1 ～ 3 年生については、国の「高等学校等就学支援金」により就学支援が行われます。ただし、以下に定める特別な事由のある場合は授業料免除の対象となります。

(1) 高等学校就学支援金制度の対象となる 1 年生から 3 年生までのうち、授業料の全額が支援されない者で、授業料の各期の納付期限前 6 月以内において、当該学生の学資負担者が死亡した場合又は学資負担者が風水害等の災害を受けた場合。

(2) 高等学校就学支援金制度の 3 6 月の支給上限期間を超える等、当該制度では、就学支援がされない学科 3 年生以下の者であり、かつ、学業優秀と認められる者

(3) 授業料の各期の納付期限前 6 月以内において、学資負担者の失職等により著しい家計の急変があった場合

【本科 4 ・ 5 年生、および専攻科生】

(1) 経済的理由によって納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者。

(2) 本人もしくは本人の学資を主として負担している者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる者。

(3) (2) に準ずる場合であって、学校長が相当と認める事由のある者。

2 . 申請書類

(1) 授業料免除申請書

(2) 家庭調書

(3) 前年分の所得証明書

(4) その他の証明書類

3 . 申請の時期

免除は、年度を前期及び後期の 2 期に分けて実施します。前期分（または、前期および後期）については、申請書を 4 月 30 日まで、申請書以外の証明書類を本校が指定する期間に提出して下さい。後期分のための申請については、申請書及び証明書類を 10 月 15 日まで学生課学生係に申請書類を提出して下さい。

4 . 免除額について

免除には、全額免除と半額免除があります。本科 4，5 年及び専攻科生が授業料免除制度の対象となっている今年度の免除率は全体の授業料収入予定額の 6.8% となっています。平成 23 年度の免除状況は、前期分では全額免除者 26 名、半額免除者 13 名でした。

5 . 学力について

(1) 前期分

ア) 第 4 学年に編入学した者

資料 7 - 2 - ① - 9 続き

高等学校最終学年の学業成績の評定を全履修科目について平均した値が 3.5 以上の者

イ) 本科第 4 学年以上に在学する者

前年度の学年末の学業成績がクラスの上位 2/3 以内であり、かつ、必要単位を満たしている者

ウ) 専攻科第 1 学年に在学する者

高等専門学校最終学年の学業成績が出身クラスの上位 2/3 以内（端数切り捨て）の者

エ) 専攻科第 2 学年に在学する者

前年度の後期末の学業成績が各専攻・学年の在籍者の上位 2/3 以内（端数切り捨て）の者

(2) 後期分

ア) 本科 4・5 年生

当該年度の前期末の学業成績がクラスの上位 2/3 以内の者

イ) 専攻科生

当該年度の前期末の学業成績が各専攻・学年の在籍者の上位 2/3 以内（端数切り捨て）の者

※ ただし、次に該当する場合は学力基準を緩和して免除することがあります。

① 主たる就学支持者を失った者

② 申込前 1 年以内において火災、風水害等の災害によって著しい被害を受けた者及び著しい被害を受けた家庭の者

③ 生活保護法による被保護世帯及びこれに準ずると認められる世帯に属する者

④ 障がいのある者（本人）

⑤ その他同等と認められた者

6. 収入額について

(1) 授業料免除の対象となる者は、その者の属する世帯の 1 年間の総所得金額が、文部科学省の定める収入基準額以下であること。

(2) 総所得金額には、本人が受けている奨学金、アルバイト等の収入についても算入します。ただし、本人等の収入が当該年度において皆無であることが明らかな場合は、前年において収入がある場合であっても総所得金額に算入しない場合があります。

7. その他

特別控除として就学者控除、障がい者及び長期療養者控除、単身赴任控除等があるので、詳しいことは学生課学生係にお問い合わせ下さい。――

(出典：学生課資料)

各種奨学金の説明

奨学金制度について

1. 日本学生支援機構（旧日本育英会）

◎対象学生

①高等専門学校に在学する者（専攻科生も可）で、人物・学業ともに優れ、経済的理由により著しく就学困難な者であること。

② 学力・家計ともに日本学生支援機構の定める基準を満たしていること。

◎奨学生の募集

①奨学生の募集は4月に行われます。

②奨学金の貸与を希望する学生は、学生係で出願書類を受け取り必要事項を記入のうえ、所定の期日までに提出してください。

◎貸与月額

第一種（無利子）

学年	自宅生	自宅外生
1～3年生	21,000円 または10,000円 (希望する方を選択)	22,500円 または10,000円 (希望する方を選択)
4・5年生 専攻科生	45,000円 または30,000円 (希望する方を選択)	51,000円 または30,000円 (希望する方を選択)

第二種（有利子）

※対象は4・5年生、専攻科生のみで、以下の月額から選択できます。

3万円、5万円、8万円、10万円、12万円

※ 第一種と併せて貸与を受けることも可能です。

2. 山形オリエンタルモーター奨学財団（返還不要）

①対象学生は鶴岡・酒田地域に所在する高等学校、高等専門学校の在学学生
専攻科生は対象外となります。

②募集時期 4月

③推薦人数 学内で10名程度（給付期間は1年間）

④給付月額 1～3年生：10,000円 4・5年生：15,000円

資料 7 - 2 - ① - 10 続き

3. 真知社育英会（返還不要）

①対象学生は本籍地・住所の両方が、鶴岡市または東田川郡にある学生

専攻科は対象外となります。

②募集時期 2 月

③推薦人数 1 名（給付期間は卒業まで）

④ 給付月額 1～3 年生：5, 0 0 0 円 4・5 年生：1 5, 0 0 0 円

4. その他、あしなが育英会、交通遺児育英会、各地方公共団体で募集している奨学会等があります。

5. 日本学生支援機構の予約奨学生（中学校で奨学金の予約をした方）で、まだ進学届・振込口座届を提出していない方は、4 月 2 0 日（金）までに学生課学生係に必ずご提出ください。

教員 各位

（C C：学生係）

学生係です。

標題についてメール致します。

この度、奨学金の募集の連絡をします。

学生への周知にご協力をお願い致します。

また、電光掲示板、学生係掲示板でも周知をして参ります。

1. あしなが育英会

種別：貸与型（無利息）奨学金

対象：本科生で保護者が病気や災害（交通事故を除く）もしくは死亡したりして家計が苦しい学生

2. 関育英奨学会

種別：貸与型奨学金

対象：本科 2 年生から 1 名

申請書類は、学生係で配付を致します。

詳細は、添付ファイルや学生係掲示板で周知致します。

ご参照頂くようお願い致します。

（出典：学生課資料）

資料7-2-①-11

平成24年度の授業料免除者数・奨学生数

授業料免除者 平成24年度

【前期】

(全額免除者)

区分	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科		合計
人数(人)	1	0	1	12	9	4		27

(半額免除者)

区分	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科		合計
人数(人)	0	0	0	11	7	8		26

【後期】

(全額免除者)

区分	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科		合計
人数(人)	0	0	0	11	9	5		25

(半額免除者)

区分	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科		合計
人数(人)	0	0	0	10	9	7		26

資料 7 - 2 - ① - 11 続き

奨学金受領者 平成24年度

日本学生支援機構奨学生数

区分	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科		合計
人数(人)	17	25	20	24	25	18		129

公益財団法人オリエントモーター奨学財団奨学生数

区分	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科		合計
人数(人)	4	2	1	2	1	0		10

真知社育英会奨学生数

区分	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科		合計
人数(人)	0	0	0	0	1	0		1

あしなが育英会奨学生数

区分	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科		合計
人数(人)	1	1	1	0	0	0		3

山形県育英会奨学生数

区分	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科		合計
人数(人)	0	0	1	0	0	0		1

東ソー奨学会奨学生数

区分	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科		合計
人数(人)	0	1	0	0	0	0		1

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

共通の生活指導方針があり、クラス担任が個々の学生に対してきめ細かな指導を行っている。学生全体への生活指導は、学生委員会が行っている。鶴岡警察署の講師により、交通講話及び生活指導講演会を開催し学生の理解を深めている。学生支援センター相談室及び保健室は、生活相談を中心とした身体的・精神的な相談を行っている。一定の基準を満たした学生には、奨学金の周知・助言や授業料の減免を行い、経済的に支援している。

以上により、学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

観点 7-2-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

(観点に係る状況)

国際交流支援室は外国人留学生への生活支援を実施している(資料 7-2-②-1～3)。不慣れな日本での生活を支援するため、3～4年生の留学生にチューターを置いている(資料 7-2-②-4～5)。留学生は全員学寮に入っており、寮内に談話室を兼ねた留学生自炊室を設け、生活の便宜を図っている(資料 7-2-②-6)。

障がいのある学生や怪我をした学生のために、エレベーター、車いす用のスロープや手摺り付トイレを数カ所設置している(資料 7-2-②-7～9)。

資料 7-2-②-1

国際交流支援室の役割(抜粋)

鶴岡工業高等専門学校国際交流支援室規程

制 定 平成 21 年 12 月 2 日

最終改正 平成 24 年 2 月 29 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 7 条第 2 項及び第 8 条第 4 項の規定に基づき、鶴岡工業高等専門学校国際交流支援室(以下「支援室」という。)の業務及び組織等について必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 支援室は、学生及び教職員の国際交流の推進に関する具体的な業務を行うことを目的とする。

(支援室の業務)

第 3 条 支援室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 学生及び教職員の国際交流の推進に関すること。
- 二 海外の大学等の国際交流協定に関すること。
- 三 学生及び教職員の海外の協定校への派遣に関すること。
- 四 学生及び教職員の海外の協定校からの受入れに関すること。
- 五 外国人留学生(以下「留学生」という。)の教育指導に関すること。
- 六 留学生の生活指導等に関すること。
- 七 外国人研究員の受け入れに関すること。
- 八 その他国際交流の推進に関すること。

(出典：規程集)

資料 7-2-②-2

外国人留学生支援体制および役割分担について

国際交流支援室

1. 支援体制

本校外国人留学生の「学習」および「生活」における支援については

(1) 担任教員および指導教員

(2) 国際交流支援室(下記4名)

支援室長, 留学生担当教務主事補(以下, 教務主事補), 留学生担当寮務主事補(以下, 寮務主事補), コーデネーター

(3) チューター学生

が中心となっておこない, 必要に応じて留学生所属学科教職員, 教務係および学寮関係者(寮監・寮務係)が補佐するものとする。

2. 役割分担

2-1. 新規留学生来校時(3月下旬～4月上旬)

項 目	担 当	備 考
外国人登録・銀行口座開設等 各種手続きの引率・付き添い	担任教員. 必要に応じて教務主事補および留学生担当教務係員が支援する.	公共交通機関を利用できない場合は公用車を使用
学校案内, 学科紹介 および カリキュラム説明等	担任教員. 必要に応じて所属学科の学科長または教職員が支援する.	
日常生活の準備	担任教員. 必要に応じて教務主事補, 寮務主事補および学寮関係者が支援する.	入寮しない場合は学寮関係者に代わり教務係が支援する.

2-2. 日常支援および関連業務

項 目	担 当	備 考
学習支援・日常生活サポート	担任教員, 指導教員およびチューター 必要に応じて教務主事補, 寮務主事補, 所属学科教職員および学寮関係者が支援する.	入寮しない場合は学寮関係者に代わり教務係が支援する.
各種手続きの引率・付き添い (必要な場合)	担任教員, 指導教員およびチューター 必要に応じて教務主事補, 寮務主事補および留学生担当教務係員が支援する.	公共交通機関を利用できない場合は公用車を使用
留学生交流会・留学生 校外研修	教務主事補 必要に応じて寮務主事補および留学生担当教務係員が支援する.	
東北地区高専留学生交流会引率	教務主事補または寮務主事補 必要に応じて支援室長または留学生担当教務係員が代行する.	開催時期未定 複数回／年の場合あり
次年度編入学国費留学生との面会 (於:東京日本語教育センター)	教務主事補または寮務主事補 必要に応じて担任予定者または支援室長が代行する.	1月末～2月上旬

資料 7-2-②-2 続き

留学生担当教職員等を対象とした研修会および交流会等	時期・内容によって支援室長が参加の有無および参加者を決定する.	
チューターのオリエンテーション	教務主事補および寮務主事補 必要に応じて留学生担当教務係員が支援する.	チューター任命式後実施
上記各項目の連絡・調整・窓口	留学生担当教務係員 必要に応じて他の教務係員が代行する.	

(出典：国際交流支援室資料)

資料 7-2-②-3

平成24年度国際交流支援室の留学生に対する支援実績について

1. 短期留学生に対して
 - * 受け入れ書類の作製
 - * 入寮の指導
 - * 生活指導
 - * 日本文化体験（書道、そば打ち、茶道、映画村など）
 - * 被災地ボランティア案内
 - * ウェルカム・パーティー、送別会などの企画・運営
 - * 他高校との交流 他
2. 長期留学生に対して
 - * やさしい日本語講座の受講（留学生へ伝えるための日本語）
 - * 日本語教材の購入 他
3. その他
 - * 招聘教員の受け入れ業務（書類作成、アパートの手配など）
 - * リパブリック・ポリテク、テマセク・ポリテクなどの学生の受け入れ（一週間程度）
 - * 海外訪問学生に対する留学指導（アメリカ、シンガポール）
 - * 国際会議等の企画・運営（秋のセミナー、春のミーティング）

(出典：国際交流支援室資料)

資料 7 - 2 - ② - 4

平成 25 年度 チューターリスト

平成 25 年度 外国人留学生名簿

平成25年4月1日現在

学年	所属学科・担任等	留 学 生 氏 名	呼び名	性別	生年月日	国 籍	チューター氏名
5年	機械工学科 担任教員 矢 吹 益 久			男	1990.4.25	マレーシア	
				男	1991.8.31	マレーシア	
				男	1991.5.7	マレーシア	
	電気電子工学科 担任教員 森 谷 克 彦			男	1991.2.25	マレーシア	
	制御情報工学科 担任教員 安 齋 弘 樹			男	1990.4.28	モンゴル	
	物質工学科 担任教員 瀬 川 透	男	1992.7.28	インドネシア			
4年	機械工学科 担任教員 五十嵐 幸 徳	男	1992.1.3	マレーシア			
	電気電子工学科 担任教員 内 山 深	男	1992.3.30	モンゴル			
3年	機械工学科 担任教員 田 中 浩	男	1993.12.29	マレーシア			
	物質工学科 担任教員 佐 藤 司	男	1993.10.13	マレーシア			
		女	1992.5.6	ラオス			

* 国 費 留 学 生 : 4名 (男子3名、女子1名)

【 モンゴル(2)、インドネシア(1)、ラオス(1) 】

* 留 学 生 住 所 :

〒997-8511 山形県鶴岡市井岡字沢田104 鶴鳴寮

* マレーシア政府派遣留学生 : 7名 (男子7名)

* 在 留 資 格 : 留 学

(出典 : 学生課資料)

資料 7－2－②－5

チューターの報告書

別紙様式第3号

業務実施確認表

24 年 12 月				協力者氏名								
日	実施時間	時間数	業務内容	協力者印 (チューター)	確認者印 (留学生)	日	実施時間	時間数	業務内容	協力者印 (チューター)	確認者印 (留学生)	
1	～					18	21:00～21:10	1	日本語のレクチャー			
2	～					19	～					
3	～					20	～					
4	21:00～21:05	1	日本語のレクチャー			21	～					
5	～					22	～					
6	21:05～21:10	2	テスト勉強			23	～					
7	～					24	～					
8	21:05～22:05	1	レポート			25	～					
9	～					26	～					
10	～					27	～					
11	21:05～21:09	3	テスト勉強			28	～					
12	～					29	～					
13	～					30	～					
14	～					31	～					
15	～					合計時間数		12	時間			
16	21:00～21:05	4	テスト勉強			時間単価		800 円				
17						支払額		9,600 円				
上記の内容について、相違ないことを確認しました。											実施完了チェック	
25 年 1 月 7 日 (実施責任者) 所属・署名・氏名 国際交流支援室長 内 山 遼												

(注1) 必要があるときは、各欄の配置を著しく変更することなく所要の変更を加えることその他所要の調整を加えることができる。
(注2) 業務実施確認表は事務印において管理すること。また、実施完了チェックは、実施責任者が所属する半科・課以外の教職員が確認し押印又は署名すること。

(出典：学生課資料)

資料 7 - 2 - ② - 6

留学生用自炊室



(出典：学生課資料)

資料 7 - 2 - ② - 7

エレベーター



(出典：総務課資料)

資料 7-2-②-8

障がい者用スロープ



(出典：総務課資料)

資料 7-2-②-9

手摺り付トイレ



(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

留学生への生活支援の組織があり、留学生用自炊室を設置し、チューターを置いているなど生活全般に渡って支援している。怪我人や障がい者に対しては、エレベーターやスロープ及び手摺り付トイレを設けて移動などの便宜を図っている。

以上により、特別な支援を行うことが必要と考えられる者への生活支援等を適切に行い、必要に応じて生活支援等が行われている。

観点 7－2－③： 学寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の間として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

教育寮としての学寮があり、439名の学生が生活している（資料 7－2－③－1～2）。寮務委員会は学寮の運営や寮生の指導法について話し合う（資料 7－2－③－3～4）。学寮の日常活動は学校の指導によるほか、1～2年生の寮生に対し指導寮生を置き、日常生活の指導に当たっている（資料 7－2－③－5）。また、学寮の生活規律を保持し、寮生相互の連絡を密にするため、寮生組織として寮生会及び連絡協議会がある（資料 7－2－③－6～8）。

日課表に従って寮生活を送り、20：00から23：00までは学習時間帯に指定されている（資料 7－2－③－9）。学寮には勉学の便宜を図るため、自習室を設置している（資料 7－2－③－10）。教職員他は宿直・日直に当たり指導を行っている（資料 7－2－③－11）。

学寮には生活に必要な施設が整っており、近年耐震工事やトイレ、居室などが改修され、寮生活がより快適になっている（資料 7－2－③－12～13）。

資料 7-2-③-1

学寮規程（抜粋）

鶴岡工業高等専門学校学寮規程

制 定 昭和 43 年 4 月 1 日

最終改正 平成 24 年 2 月 22 日

（趣旨）

第 1 条 鶴岡工業高等専門学校（以下「本校」という。）学則第 48 条第 3 項の規定に基づいて、本校における学寮の管理運営に必要な事項を定め、その円滑かつ適正な運用を図るものとする。

（目的）

第 2 条 学寮は本校の課外教育施設であって、学生に規律ある共同生活を体験させ、これを通じて人間形成の成長を促し、本校の教育目標達成に資することを目的とする。

（施設の名称）

第 3 条 本校の学寮は、鶴鳴寮と称する。

（学寮生活の基本）

第 4 条 学寮に入寮する学生（以下「寮生」という。）は、この規程及びこの規程に基づいて定められた諸規則を守り、相互に敬愛、啓発して自己及び共同生活の向上充実に努めなければならない。

（出典：規程集）

資料 7-2-③-2

入寮者数

（平成 25 年 4 月）

学 年	男子入寮者数	女子入寮者数	合 計
1 年	9 3	1 2	1 0 5
2 年	8 9	9	9 8
3 年	7 8 ②	1 1 ①	8 9 ③
4 年	7 0 ②	5	7 5 ②
5 年	7 2 ⑥	0	7 2 ⑥
計	4 0 2 ⑩	3 7 ①	4 3 9 ⑪

注）○内の数は、留学生数（内数）を示す。

上記以外に短期留学生 {男子：3 人、女子：1 人} 在寮。

（出典：平成 25 年度寮生活のしおり，p. 19）

資料 7 - 2 - ③ - 3

寮務委員会規程（抜粋）

鶴岡工業高等専門学校寮務委員会規程

制 定 平成 1 5 年 3 月 3 1 日
(全部改正)
最終改正 平成 2 4 年 2 月 2 9 日

鶴岡工業高等専門学校寮務委員会規程（昭和 4 4 年 4 月 1 日制定）の全部を改正する。

（設置）

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校内部組織規程第 1 9 条第 3 項の規定に基づき、寮務委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

（審議事項）

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 寮生の教育及び生活指導に関する事項
- 二 寮生会等、寮生の組織に関する事項
- 三 寮生の入寮及び退寮に関する事項
- 四 寮生の栄養及び健康管理に関する事項
- 五 寮生の福利厚生に関する事項
- 六 寮生の負担となる経費に関する事項
- 七 その他、学寮の運営に関する事項

（出典：規程集）

資料 7 - 2 - ③ - 4

第 1 回寮務委員会議事録（抜粋）

平成 24 年度第 1 回寮務委員会議事概要

日 時 平成 24 年 4 月 18 日（水） 15:50～16:30

場 所 大会議室

出席者 佐藤(委員長), 田邊, 佐々木, 宝賀, 西山, 比留間, 江口, 阿部(秀), 安齋,
戸嶋, 阿部(達), 田阪, 学生課長の各委員

欠席者 佐藤(淳), 茨木, 主濱, 事務部長の各委員

議 事

1. 寮に宿日直体制について

佐藤委員長から、機構本部から昨年 12 月教職員の業務軽減について考慮するよう依頼があり、寮の宿日直と課外活動を外部委託とか退職教員に依頼等で対応するようにとのことで、5 月頃まで機構本部に報告する必要がある旨説明があった。

次いで、佐藤委員長から、寮務主事・主事補会議で原案（事務は外部委託、教員 1 人は週 5 日外部委託、日直 1 人は外部委託、教員日直は現状のとおり）を作成し各学科から意見を出して貰ったのが資料 1 である旨述べられ、資料 1 について説明があった。

さらに、佐藤委員長から、事務は外部委託にして教員が 1 人になった場合回数が減っても教員の負担が増えるとの各学科の意見が多いことと、また、保護者の合意を得られるか等の問題もあり教員は現状のとおりにしたい旨提案があった。

この件について、事務の負担軽減になるが教員の負担軽減にならない等の意見があり、審議の結果、宿直の事務は外部委託で教員は現状のとおり、日直は 1 人外部委託ともう 1 人は事務で行うことができないかとの意見があり、検討することになった。

2. その他

(1) 平成 24 年度前期学生寮防災避難訓練について

佐藤委員長から、資料 2 に基づき、学生寮防災避難訓練について 5 月 9 日（水）7 時から火災発生したとの想定で昇降口まで避難する訓練を行う旨説明があった。

また、佐藤委員長から、寮務委員会委員は 6 時 50 分までラウンジに集合し打ち合わせを行い、次に資料 2 の裏面のとおり査察を行い、何か問題があれば最後の講評の時報告して欲しい旨述べられた。

(2) 寮の巡回について

佐藤委員長から、5 月下旬に寮の巡回があり、その実施要項をメールで送信するので、それに従って実施して欲しい旨述べられた。

(出典：寮務委員会資料)

鶴岡工業高等専門学校学寮規程（抜粋）

（趣旨）

第 1 条 鶴岡工業高等専門学校（以下本校という。）学則第条第項の規定に基づいて、本校における学寮の管理運営に必要な事項を定め、その円滑かつ適正な運用を図るものとする。

（目的）

第 2 条 学寮は本校の課外教育施設であって、学生に規律ある共同生活を体験させ、これを通じて人間形成の成長を促し、本校の教育目標達成に資することを目的とする。

（中略）

（指導寮生等）

第13条 第学年及び第学年の寮生の生活を指導するために、指導寮生を置く。

2 指導寮生は、原則として、第学年以上の寮生のなかから、寮務主事が選考し、校長が任命する。

3 学寮の生活規律を保持し、寮生相互の連絡を密にするため、寮生組織を置く。寮生組織については、寮生心得で定める。

（出典：規程集）

寮生会会則（抜粋）

鶴岡工業高等専門学校寮生会会則

（総則）

第1条 本会は、鶴岡工業高等専門学校寮生会と称する。

2 組織図は当分の間別表1のとおりとする。

第2条 本会は、寮生各自の向上と相互の親睦をはかり、併せて自治精神の発揚により明朗なる寮生活をおくることを目的とする。

第3条 本会は、鶴岡工業高等専門学校寮生全員をもって組織する。

（機関）

第4条 本会の目的達成のため次の機関をおく。

- 一 寮生総会
- 二 役員会
- 三 委員会

第5条 寮生総会は、少なくとも年2回開催することを原則とする。

第6条 役員会は、会長、副会長および委員長をもって構成し、必要に応じて開催することができる。

2 役員会は、寮務主事の指導のもとに寮生会の指導にあたるものとする。

第7条 委員会は、委員長ならびに委員をもって構成し、必要に応じて開催することができる。

第8条 寮生総会ならびに役員会は、会長が招集し、委員会は委員長が招集する。

（役員）

第9条 本会に次の役員をおきそれぞれ次の職務を行うものとする。

- 一 会長1名 会務の統理
- 二 副会長1名 会長の補佐
- 三 総務委員長1名 総務に関すること
総務副委員長2名 委員長の補佐
- 四 文化委員長1名 文化行事ならびに文化用具の管理に関すること
〃 副委員長2名 委員長の補佐

（出典：平成25年度 学生便覧，p. 151）

学寮連絡協議会及び寮生会

8. 連絡協議会・寮生会の概要

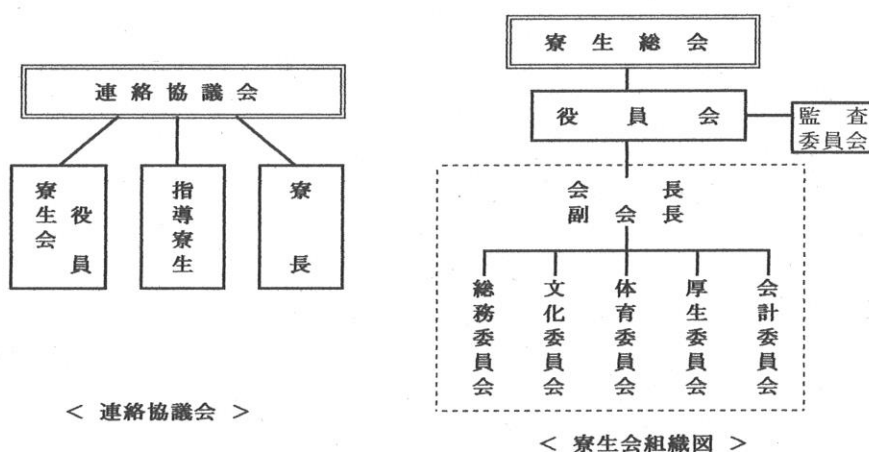
学寮の様々な行事や日常活動は、学校の指導によるほか、寮生会役員や指導寮生のリーダーシップのもとに運営されている。

[1] 連絡協議会

- 1) 指導寮生・寮長・寮生会役員とで構成し、毎月1回開催する。
- 2) 寮生活全般にわたる情報交換を行う。決議機関ではない。

[2] 各役職の役割

役 職	役 割
指 導 寮 生	1. 担当寮生の生活指導、生活相談。 2. 週番長・週番の指導。 3. 朝の体操の立案と点呼指導。 4. 災害時の対応。
寮 長	1. 各寮棟の総括。 2. 災害時の対応。 3. 寮監・宿日直教員との情報交換の連絡
階 長	1. 各階の総括。 2. 災害時の対応。 3. 各階の清掃指導と静粛の確保。 4. 起床を促す。
室 長	1. 各居室の総括と親睦を図る。 2. 施錠・清掃の徹底。 3. 階長・指導寮生との連絡。 4. 起床を促す。
週 番 長	1. 点呼・朝の体操の指導。 2. 点呼簿記載
週 番	1. 起床・就寝の指導。 2. 清掃の点検。 3. 当番の引継ぎ
寮生会会長	寮生会を総括し、代表する。(副会長は会長を補佐する。)
委 員 長	各委員会の仕事を総括する。(副委員長は委員長を補佐する。)



資料 7-2-③-7 の続き

[3] 寮生会の組織

組 織	仕 事 の 内 容
総 会	1. 定期総会（4月・2月）、臨時総会 2. 寮生会の規約、事業、予算決算、役員選出等の決議機関
役 員 会	1. 寮生会正副会長と各委員会委員長で構成し、寮生会活動の企画立案にあたる。
総務委員会	1. 寮生会活動全般を総括し、行事の立案にあたる。
文化委員会	1. 寮生会刊行「鶴苑」の発行（原稿募集・編集） 2. 寮内の文化用具・新聞の管理
体育委員会	1. 寮生会体育行事の立案・実施準備にあたる。
厚生委員会	1. 学寮棟内外の環境美化および保健活動にあたる。 2. 食事についての要望等を栄養士に伝える。（各寮長も加わる）
会計委員会	1. 寮生会の経理にあたる。
監 査	1. 経理の監査にあたる。

9. 寮 生 会 役 員 名 簿

役 職	科・年	氏 名	出身中学	役 職	科・年	氏 名	出身中学		
会 長	制御 4		八 幡	副会長	制御 3		陵 東		
委員会	委 員 長			副 委 員 長					
	科・年	氏 名	出身中	科・年	氏 名	出身中	科・年	氏 名	出身中
総 務	機械 4		小 国	機械 3		藤 島	機械 2		蔵 王 一
文 化	物質 4		尾花沢	制御 3		八 幡	物質 2		酒田四
体 育	物質 4		酒田四	電気 3		酒田三	制御 2		山形八
厚 生	電気 4		八 幡	物質 3		陵 南	電気 2		酒田四
会 計	制御 4		立 川	機械 3		真室川	電気 2		八 幡
監 査	物質 4		福 原	制御 4		松 山			

- 17 -

(出典：平成25年度寮生活のしおり，pp. 16～17)

資料 7-2-③-8

学寮行事

12. 主な学寮行事

月	日(曜日)	行 事	備 考
4	5(金) 7(日) 18(木) 21(日)	入 寮 式 開 寮 行 事 寮 生 会 総 会 春季クリーン作戦	開寮日 寮生会役員・予算案等の承認 地域協力活動の一環として、高専周辺の道路清掃 (地元町内会・塔和会と一緒に活動)
5 7	8(月) 25(木)	寮 生 避 難 訓 練 閉 寮 行 事	火災を想定した早朝の訓練、役割分担の確認 27(土)閉寮日
9 10 12	1(日) 13(金) 27(金) 4(金) 中旬 上旬 19(木)	開 寮 行 事 寮 祭 居 室 移 動 寮 生 避 難 訓 練 お楽しみフェア 寮 生 体 育 大 会 閉 寮 行 事	開寮日 模擬店・催し物等あり、寮生会最大の行事 肉・デザートなど食べ放題、食べ過ぎに注意！ 学年オープンのチーム編成、軽スポーツ大会 21(土)閉寮日
1 2 3	5(日) 27(月) 中旬 中旬 28(金) 1(土) 3(月) ～4(火)	開 寮 行 事 寮 生 会 総 会 寮 生 役 員 引 継 会 お楽しみフェア 閉 寮 行 事 居 室 移 動 リーダーシップ セミナー	開寮日 決算報告・次年度寮生会役員予定者の紹介等 2回目、食べ過ぎに注意！ 2(日)閉寮日 新年度の指導寮生と寮生会役員および寮関係教員の合宿研修会
○ 毎月1回連絡協議会（指導寮生・寮生会役員と寮関係教員との情報交換）を行う			

寮生の日課

一日の暮らし

[1] 日課表

○印のついている時刻に、チャイムが鳴ります

事 項	時 間・時 刻	備 考
起 床	○ 7 : 0 0	・ 体調が悪いときは、随時、早めに、寮監室か学寮事務室に申し出てください。
朝 点 呼	○ 7 : 1 0	・ 1 年生は、月曜日から金曜日までは、所定の場所で、点呼のあとに連絡会を兼ねて全員で体操を行ないます。 (女子は、女子寮玄関ホールで点呼)
洗面・清掃	7 : 1 5 ~ 8 : 0 0	・ 点呼や体操の終了後、この時間帯で行なってください。
朝 食	7 : 3 0 ~ 8 : 2 0	
登 校	○ 8 : 2 0	・ 居室のドア・窓の施錠は忘れずに。 ・ 1 校時目が休講でも、8 時 3 0 分までには登校して下さい。 ・ 1 3 時 0 0 分までは、居室に入ることできません。 ・ 忘れ物などで居室に行かなければならないときは、学級担任などを通して学寮事務室に申し出てください。
昼 食	1 1 : 5 0 ~ 1 2 : 4 5	
夕 食	1 7 : 2 0 ~ 1 8 : 4 0	・ 部屋に誰もいなくなるときは、忘れず居室のドアの施錠をしてください。
入 浴	1 7 : 0 0 ~ 2 1 : 3 0	・ 1 年～2 年生は第 1 浴場を、3 年生以上は第 2 浴場を使用。(女子は女子寮) ・ 土曜日・日曜日・祝祭日は、シャワーを使用してください。
門 限	2 0 : 2 0	・ この時間までに帰寮してください。 ・ この時間までに帰寮できないときや、この時間を過ぎて外出するときは、「自由時間外外出許可願」を提出して、許可を受けてください。 ・ 予定外の出来事で、この時間までに帰寮できなくなったときは、寮監室 (0235-25-9032) に電話連絡してください。
夕 点 呼	○ 2 0 : 3 0	・ 寮棟玄関を施錠してください。

資料 7-2-③-9 の続き

	時 間・時 刻	備 考
自 習 時 間	20:00～21:30	・ 他人に迷惑をかけないように留意し 静かに集中して勉強する時間です。 ・ 入浴するものは、早めに静かに。
静粛自習時間	21:30～23:00	・ 学習に専念するための時間帯です。 静粛にし、他の部屋への訪問などは 極力ひかえて勉強に専念しましょう。
夜 点 呼	22:30	・ 女子寮生のみ行います。
就 寝	23:30	・ 翌日の授業や活動に支障がないよ うに、早めに寝ましょう。
消 灯	24:00	・ 消灯後も学習するときは、自習室 で行ってください。 ・ 自習室の消灯時間は午前 2 時です。

[2] 食 事 要 領

- (1) 食事は、人間活動の源である。学習や課外活動を意欲的に行うためにも、
また、健康維持のためにも、朝、昼、晩の三度の食事を欠かさずにとる
こと。
- (2) 食事は、セルフサービスで行う。
- (3) 食堂の出入り口について
 - ① 朝食および夕食時の出入り口は、第 2 浴場側とする。
 - ② 登校日の昼食の場合は、2 寮側東口だけとする。
- (4) 食事前の手洗いを励行する。
- (5) 食事後の後片付けについて
 - ① テーブルの上を布巾で拭き、食器を片付ける。
 - ② 包装材および箸等は、指定の容器に入れる。
 - ③ 残菜は、シャワーシンク内にシャワーで洗い落とす。
 - ④ 種類別に水槽に入れる。
- (6) 体調が悪くお粥が食べたいときは、学寮事務室で「特別食カード」に
記入して申し込むこと。

学寮自習室



(出典：学生課資料)

鶴岡工業高等専門学校における職員宿日直勤務要領（抜粋）

制定昭和 5 5 年 5 月 1 日
最終改正平成 2 4 年 9 月 2 5 日

1 鶴岡工業高等専門学校における職員の学寮における宿日直勤務については、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員の労働時間、休暇等に関する規則、独立行政法人国立高等専門学校機構職員宿日直規則及び職員宿日直勤務規程に定めるもののほか、この要領の定めるところによる。

2 学寮宿日直者は、次の業務を行う。

一 火災、盗難その他の災害が発生した場合、その処置については、状況を冷静に判断し行動すること。なお、常に火災報知機の操作方法及び消火栓、消火器の所在箇所等の必要事項を熟知しておくこと。

ア 火災の処置

（１）火災報知機のベルが鳴ったら「位置表示灯」等により現場に急行し火災確認のうえ、ただちに消防署に火災発生の通報をすること。

（２）消防署への通報後に別に定める学寮防火体制連絡網に従い火災発生の連絡をすること。

（３）火災の状況（火勢、風向、周囲の状況等）を十分判断のうえ、屋内消火栓又は消火器等により消火につとめ、火災の拡大の防止に対処すること。

（４）消火活動が開始された後は自衛消防組織下に入ること。

（５）巡回中に火災が発生した場合も、（１）から（４）と同様に処置すること。

イ 盗難の処置

現場の保存につとめ、ただちに別に定める緊急連絡表に従って通報し、その措置について指示を受けること。

ウ その他の災害の処置状況によりア及びイを準用すること。

二 ガス、電気、暖房、給排水、火災報知、放送、電話、時報、空調設備等及び建物、工作物等に異状を認めた時は、応急処置により障害の拡大及び防止につとめること。なお、応急処置が効果がないとき及び応急処置後において必要なときは施設係長（施設係長不在のときは総務課長）に連絡しその指示を受けること。

三 学寮における監視等については、おおむね 1 0 時、1 4 時、2 3 時、翌日の 7 時その他必要と認められる時巡視を行うこと。玄関及び各出入口は 2 3 時に閉じ、翌日 7 時に開くこと。

四 学寮における書留、小荷物等の寮生への配付については適確に行い、確実に次番者又は寮務係へ引継ぐこと。

五 その他、職務遂行のために必要な事項__

資料 7 - 2 - ③ - 11 続き

学寮の宿日直割当表（抜粋）

学寮宿日直割当表						
【 2013年6月 】						
日付		教員			職員	
		宿直者			日直者	宿直者
		(南寮)	(北寮)	(女子寮)		
1	土	比留間 浩介	竹 村 学		窪 田 眞 治	
2	日	矢 吹 益 久	田 中 浩		澤 祥	
3	月	大 西 宏 昌	宝 賀 剛			佐 藤 大 輔
4	火	伊 藤 滋 啓	渡 部 誠 二			木 村 英 人
5	水	徳永 慎太郎	山 田 充 昭			阿 部 強 士
6	木	安 齋 弘 樹	佐 藤 淳			矢 作 友 弘
7	金	當 摩 栄 路	吉 木 宏 之			
8	土	佐 藤 貴 哉	田 邊 英 一 郎		江 口 宇 三 郎	
9	日	南 淳	佐 藤 司		佐 藤 義 重	
10	月	上 松 和 弘	内 海 哲 史			鈴 木 大 介
11	火	野々村 和晃	阿 部 秀 樹			石 川 良 樹
12	水	増 山 知 也	木 村 太 郎			成 田 敦 史
13	木	瀬 川 透	森 谷 克 彦			千 葉 隆 弘
14	金	佐々木 裕之	武 市 義 弘			
15	土	加田 謙一郎	戸 嶋 茂 郎		大 河 内 邦 子	
16	日	保科 紳一郎	宝 賀 剛		清 野 恵 一	
17	月	今 野 健 一	主 濱 祐 二	平 尾 彰 子		千 葉 隆 弘
18	火	徳永 慎太郎	神 田 和 也			米 澤 文 吾
19	水	金 帝 演	内 山 潔			井 澤 純 平
20	木	安 齋 弘 樹	上 條 利 夫			川 上 豊
21	金	安 田 新	本 橋 元			
22	土	田 阪 文 規	佐 藤 淳		末 永 文 厚	
23	日	阿 部 達 雄	五十嵐 幸徳		佐 藤 秀 昭	
24	月	佐 藤 貴 哉	竹 村 学			白 滝 佳 博
25	火	比留間 浩介	吉 木 宏 之			齋 藤 順 一
26	水	伊 藤 滋 啓	小 野 寺 良 二			赤 平 稔
27	木	瀬 川 透	西 山 勝 彦			青 野 康 雄
28	金	大 西 宏 昌	渡 部 誠 二			
29	土	當 摩 栄 路	田 中 浩		吉 住 圭 市	
30	日	茨 木 貴 徳	阿 部 秀 樹		飯 島 政 雄	

(出典：総務課資料)

資料 7 - 2 - ③ - 12

学寮の概要

--- [3] 学寮の主な施設・設備 ---

- (1) 食堂 (2) ラウンジ(管理棟) (3) 女子寮ラウンジ
 (4) 浴場(第1・第2・女子) (5) シャワー室 (6) 医務室
 (7) 第1談話室 (8) 寮生会室 (9) 自習室・談話室
 (10) 補食室(8室、ガスコンロ 24台) (11) 娯楽室 (12) 洗濯機・乾燥機
 (13) 個人電話(各居室) (14) フリーボックス(50扉×2台)

(出典：平成 25 年度寮生活のしおり，p. 4)

室数

	1寮	2寮	3寮	4寮	5寮	6寮	7寮
自習室	0	0	0	1	1	0	0
談話室	1	0	0	1	0	0	1
自習室兼 談話室	0	1	2	0	0	0	0
机の数	10	10	10+10	10+4	4	0	8

面積(m²)

	1寮	2寮	3寮	4寮	5寮	6寮	7寮
自習室	0	0	0	24	24	0	0
談話室	17	0	0	24	0	0	18
自習室兼 談話室	0	24	72	0	0	0	0

(出典：総務課資料)

学寮の改修工事

表 2 . 施設・設備等の新設・更新状況

年度	施設・設備等	備考	
2003(H15)	5寮(女子寮)内部改修 管理棟トイレ改修 トイレ照明センサー設置		
2004(H16)	5寮(女子寮)内部改修 受水槽給水ポンプ更新		
2005(H17)	食堂網戸設置		
2006(H18)	4寮屋上防水改修 5寮電気錠設置 駐輪場改修		
2007(H19)	2寮耐震・屋上防水・外壁改修 5寮耐震・屋上防水・外壁改修 緊急地震速報設備設置 1・3寮玄関風除室設置		
2008(H20)	2寮トイレ改修 2寮耐震・屋上防水・外壁改修 3寮居室塗装改修 3寮照明器具更新 4寮耐震・屋上防水・外壁改修 5寮照明器具更新 管理棟厨房グリストラップ改修 管理棟シャワー室浴槽設置		
2009(H21)	1寮留学生居室改修 1寮玄関ドア交換 5寮玄関ドア交換 1寮トイレ改修 4寮トイレ改修 管理棟2階談話室エアコン設置 5寮1階保養室エアコン設置		
2010(H22)	1寮耐震・屋上防水・外壁改修 防災設備更新(火災報知設備・非常放送) 6寮屋上防水改修 食堂エアコン設置 渡り廊下塗装改修(2,3寮間) シャワー室シャワー設備更新 和室畳張替・交換 渡り廊下段差解消		
2011(H23)	3寮トイレ改修 3寮避難器具更新 5寮1階留学生居室改修		

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

適切な学寮運営のための組織及び寮生の自治，親睦のための組織がある。学寮行事には，親睦だけでなく教育に資するものも含まれている。寮生は日課表に従って生活し，毎日一定の時間を学習に費やしている。学寮は，寮生が生活するのに必要な設備が整っており，耐震・トイレ改修工事などにより，寮生活がより快適となっている。

以上により，学寮は学生の生活及び勉学の間として有効に機能している。

観点 7－2－④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

学生支援センターキャリア支援室では就職，進学対策について支援している（資料 7－2－④－1）。準学士課程 1～3 年生の進路指導は，特別活動の時間にキャリアガイダンスにより行っている（資料 7－1－①－2 参照）。準学士課程 4 年生を対象に学校行事として進路指導，専攻科課程 1 年生には，専攻科新入生履修ガイダンスで進路指導を行っている（資料 7－2－④－2～3）。さらに学外の講師によるインターシップ講演会や就職ガイダンスの実施及び山形県主催の企業説明会にも参加させている（資料 7－2－④－4～6）。準学士課程 3～4 年生及び専攻科課程 1 年生に対し CO-OP 教育及び企業訪問研修会を実施している（資料 7－2－④－7～10）。

就職資料室では，求人及び進学情報を閲覧できる（資料 7－2－④－11）。また，専門学科教員は，企業より求人情報を得るために，企業面談・訪問を行っている（資料 7－2－④－12～13）。進学先の関係者とは，学校説明会などを通じて情報交換を行っている（資料 7－2－④－14）。

上記の体制を活用することにより，平成 24 年度の就職と進学とも 100% とほぼ学生の志望通り決定している（資料 7－2－④－15）。

学生支援センターキャリア支援室規程（抜粋）

鶴岡工業高等専門学校学生支援センターキャリア支援室規程

制 定 平成 24 年 2 月 29 日

（趣旨）

第 1 条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校学生支援センター規程第 4 条第 2 項に基づき、キャリア支援室（以下「支援室」という）の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

（目的）

第 2 条 支援室は、低学年から高学年、専攻科まで一貫した総合的なキャリア教育（学生が将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現することができるよう、それぞれの発達の段階に応じて行う教育活動をいう。以下同じ。）を行うことにより、学生の進路選択等の支援体制の一層の充実を図ることを目的とする。

（業務）

第 3 条 支援室においては、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 学生のキャリア教育に関する調整及び実施に関すること。
- 二 学生の進路相談に関すること。
- 三 学生の就職活動の支援に関すること。
- 四 前各号に掲げるものの他、学生の進路選択等に資する業務

（出典：規程集）

資料 7 - 2 - ④ - 2

平成25年度準学士課程学校行事予定表

平成25年度 学校行事の出席簿上の取り扱いについて

平成25年4月1日作成

月 日(曜日)	行 事 名	取扱い上の科目名	学 年 別 時 間 数					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
4月8日(月)	始業行事	学校行事	3	3	3	3	3	1～3校時授業
	1年標準テスト	"	3					国、数、英 各1h
4月17日(水)	交通講話	"				1	1	7校時、1～3年は特別活動
4月中予定	5年生進路指導	"					2	卒業研究の時間
5月 8日(水)	学生会定期総会	"				1	1	7校時、1～3年は特別活動
5月 9日(木)	新入生校外研修	"	6					1日
5月22日(水)	校内体育大会	"	6	6	6	6	6	1日
6月 5日(水)	4年生進路指導	学校行事				2		7・8校時
6月12日(水)	合同観劇	"	3	3	3			1～3校時授業、4校時～
7月 3日(水)	選手壮行式	"				1	1	7校時、1～3年は特別活動
7月17日(水)	性に関する講演会(1年)	"	1					7校時、特別活動
7月24日(水)	生活指導講演会	"						7校時、1～3年は特別活動
7月26日(金)	特別清掃	"	1	1	1	1	1	6校時
9月 4日(水)	防災訓練	"				1	1	7校時、1～3年は特別活動
9月20日(金) ～27日(金)	前期末試験	"	15	15	15	15	15	3h×5日
9月27日(金)	終業行事	"	1	1	1	1	1	3校時
10月25日(金)	鶴峰祭準備半日(午前)	"	4	4	4	4	4	
10月26日(土)	鶴峰祭	"	6	6	6	6	6	
10月27日(日)	鶴峰祭	"	6	6	6	6	6	
11月 5日(火) ～8日(金)	4年工場見学	(ゼミ科目)				(24)		6h×4日
12月 4日(木)	4年、専1年企業説明会	学校行事				2		5・6校時
12月中予定	4年生進路指導	"				2		7・8校時
1月14日(火)	3年学習到達度試験	"			4			数学、物理 各2h
1月中予定	4年TOEIC試験	"				2		
2月 4日(火) ～7日(金)	4年卒研発表会聴講	(ゼミ科目)				(12)		6h×2日
	5年卒研発表会	(卒業研究)					(12)	6h×2日
2月13日(木) ～19日(水)	卒業試験	学校行事					12	3h×4日
2月20日(木) ～26日(水)	学年末試験	"	15	15	15	15		3h×5日
2月28日(木)	終業行事	"	1	1	1	1		2校時
学 校 行 事 時 数 の 合 計			71	61	65	70	60	
注 意	○ 1～3年工場見学(各科の予定による):1日行程の場合は6時間、半日行程の場合は3時間とする。ただし、授業として取り扱った場合は、学校行事としない。 ○ 大学による出前授業:振り替えた授業科目の時数とする。 ○ インターンシップ講演会:振り替えた授業科目または特別活動(学科の判断)の時数とする。							

(出典：学生課資料)

平成 25 年度専攻科進路指導ガイダンス（抜粋）

平成 2 5 年度
専攻科新入生履修ガイダンス

鶴岡工業高等専門学校

専攻科

1. 専攻科の概要 (JABEE 教育プログラムの理念)

本校専攻科は、本科 5 年間の技術者基礎教育の上に立ち、さらに 2 年間、大学と同等レベルの専門知識と国際水準の技術者教育を行う教育課程である。地域社会や産業に貢献でき、国際的にも活躍できる実践的で創造的な開発技術者の養成を目的として平成 15 年 4 月に設置された。

平成 17 年 4 月より、本校の専攻科は教育内容と質が評価され、日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定プログラムになっている。専攻科修了生は、大学評価・学位授与機構による審査に合格すると学士の学位が与えられさらに大学院に進学することが可能である。また、学習・教育目標をすべて達成した学生には JABEE 修了証が与えられ、技術士資格の 1 次試験が免除される特典が与えられる。(技術士会に申請すれば、技術士補(応用理学)の資格が得られる。)

7. 大学院修士課程への進学について

近年では、大学院修士課程を修了しないと大手企業では開発技術者にはなれない。大学卒は、現場の製造ライン担当技術者になるのが一般的になっている。向学心、研究心が少しでもある学生は、大学院を目指すことを薦める。大学院では、奨学金も充実しており経済的な負担はそれほど大きくはない。本校の修了生のこれまでの実績を以下に示す。

東工大大学院、京大大学院、東北大大学院、筑波大大学院、山形大学大学院、長岡技科大大学院、豊橋技科大学、新潟大大学院、慶応大大学院

本校の進学率はまだ低いですが、他高専では、50%程度の学生が大学院に進学している。

8. 就職活動について

専攻科では、本科と同様に学校推薦で就職活動を行なう場合と各人が自由に応募する就職活動の両方の選択肢がある。いずれの場合も専攻科学生用の「就職活動届け」に記入して研究指導教員に提出すること。学校推薦を希望する場合は、並行して自由応募の活動をすることはできない。

資料 7-2-④-3 続き

H 2 5 年 3 月 1 4 日

専攻科修了に向けてのガイダンス

専攻科長 宮崎孝雄

1. 専攻科修了要件の再確認

専攻科単位取得要件（62 単位以上の取得および必修科目の取得）についてシラバスをよく確認して科目履修を行うこと。

2. J A B E E 修了要件の再確認（専攻科修了要件＋下記の要件など）

- ・学士（工学）学位の取得
- ・学習教育達成目標をすべて達成する

専攻科研究（項目毎に 60 点以上）

発表 60 点以上，遂行能力 60 点以上，論文評価 60 点以上，

専攻科英文要旨 60 点以上

- ・融合複合科目の修得（データ解析，経営工学および実践電気電子工学か材料科学）

に注意する。また，制御情報工学科出身の学生で，機械工学で学位を取得する場合は，機械系の科目を受講するように科目履修を行うこと。必要に応じて科目履修届の変更を行う。

3. 専攻科優秀賞について（各専攻 1 名）

- ・専攻科研究で優秀な成績を修めたもの
- ・専門以外に幅広く学び（融合複合）優秀な成績をおさめたもの

を選考方針とする。具体的には，合格した科目の評価点に科目の単位数を掛けた値を 62 で割った IGS スコア（Integrated Grade Score）が最も高得点の学生を各専攻の専攻科優秀賞する。

$$IGS = \left(\frac{1}{62} \right) \sum_i (\text{成績}) \times (\text{単位数})$$

- ・電子情報通信学会東北支部長賞

ME 専攻の大学院進学内定者で成績優秀なものを推薦する。（学会員になることが条件）

4. 就職活動について（「専攻科生就職活動届け」学生課で用意）

3 月から応募締切の有力会社があるので早めの対応をする。学校推薦で斡旋を希望する場合は専攻科生用の就職活動届けにその旨の記載をして指導教員に提出する。また，学校推薦で応募した場合は，結果が判明するまでは自由応募はできない。

自由応募の場合は，すでに就職活動は始まっているので各個人で対応をする。自由応募の場合も自由応募をした旨の就職活動届けを指導教員に提出する。

企業によっては，学士の学位が取得できなかった場合は，採用取り消しになる場合があるので留意する。

5. 大学院修士課程への進学への勧め

大手企業の技術者は大学院修士課程修了者が主流である（90%以上）。意欲ある学生には、大学院進学を勧める。

H 2 1 年度 ME 専攻 4 名（東工大院，山形大院 2 名，長岡技科大院），C B 専攻なし

H 2 2 年度 ME 専攻 2 名（東工大院，豊橋技科大院），C B 専攻 1 名（京大院）

H 2 3 年度 ME 専攻 3 名（東北大院，山形大院，長岡技科大院），C B 専攻 なし

H 2 4 年度 ME 専攻 2 名（山形大院，北陸先端大院），C B 専攻 2 名（京大院，慶應大院）

6. 履修届けの見直しと教科書の入手

履修届けは 3 月末までに教務に提出する。提出後も授業開始後 3 週間以内であれば履修届けの変更ができる。教科書はシラバスを参照して各自書店で入手する。

7. 校内体育大会に専攻科学生 1 ～ 2 年合同チームで参加する。

当日（5 / 2 3）は休講とするが希望者参加とする。参加の形態は教職員チームと同様オープン参加とする。1，2 年生合同チームの代表を話し合いで決めて教務係に報告し参加手続き等を自主的に進める。

8. その他の資料

- ・ H 2 5 年度行事予定表
- ・ H 2 5 年度シラバスのコピーおよび専攻科の教育

（出典：学生課資料）

学外講師による就職ガイダンス

インターンシップ講演会

クラス	日 時	講 師
3M	平成24年11月14日	株式会社テクモ設計グループ主任
3E	平成25年1月18日	株式会社山形ケンウッド
3I	平成24年12月14日	株式会社NTTぷらら 技術本部ネットワーク管理部
3B	平成24年12月10日	AGCディスプレイガラス米沢株式会社 品質保証室

就職ガイダンス

【就職ガイダンス(9月12日(水)7・8校時開催)について】学...

Subject: 【就職ガイダンス(9月12日(水)7・8校時開催)について】学生係の千葉です。
 From: 千葉 隆弘 <t-chiba@tsuruoka-nct.ac.jp>
 Date: 2012/09/05 9:07
 To: 矢吹 益久 <yabuki@tsuruoka-nct.ac.jp>, 森谷 克彦 <moriya@tsuruoka-nct.ac.jp>, 安齋 弘樹 <anzai@tsuruoka-nct.ac.jp>, 瀬川 透 <segawa@tsuruoka-nct.ac.jp>
 CC: 中島 直樹 <nakajima@tsuruoka-nct.ac.jp>

四年生 担任 各位
 (CC: 中島 係長)

おはようございます。
 標題の件について連絡致します。

本科4年生を対象の進路指導就職ガイダンスを実施致します。

日時: 9月12(水)7・8校時(14:50分から16時30分)
 場所: 視聴覚室
 講師: 東北大学高等教育開発推進センター
 キャリア支援センター 講師 千葉 政典 先生
 演題: 「就職活動を迎えるにあたって」

当日は、PCでのプレゼンで、学生への配布資料はありません。
 就職戦線の実情、4年生に必要な準備、就職活動の基本。
 これらの3点を中心にしてお話をさせて頂きます。

当日の進行は以下のようになっております。

司会: 瀬川キャリア支援室長

- | | |
|-----------------|-------|
| (1) 講師紹介・注意点の説明 | 2分程度 |
| (2) 講演 | 80分程度 |
| (3) 質疑応答 | 10分程度 |

以上で予定しております。
 電光掲示板で周知も致しますが、学生への周知をお願い致します。

また、諸注意がございます。
 例年、講演に関して、筆記用具を持参しない学生が見受けられます。
 貴重な就職講演ですので、メモ等を準備するよう学生にお伝え下さい。
 そして、就職活動への疑問や不安に関する質問も受け付けて頂きます。
 そちらも学生にお伝え頂ければ幸いです。
 よろしくお願い致します。

企業説明会（抜粋）

合同企業説明会〔実施要項〕**1. 目 的**

- 1) 本校学生の山形県内企業（山形県新企業懇話会会員企業）への理解を深め、就職対象企業としての関心を喚起する。
- 2) 本校学生の職業観を育成し、円滑な就職活動を促進するため、学生に企業の採用担当者の生の声を聞ける場を提供する。

2. 主催等

- ・主催 山形県新企業懇話会
- ・協力 鶴岡工業高等専門学校

3. 日時・会場

平成 24 年 12 月 5 日（水） 13：30～15：50

内 容	時 間	場 所
全体説明会	13：30～14：30	マリカ市民ホール
個別企業説明会	14：30～15：50	マリカ市民ホール

4. 参加対象者

- 1) 本校学生
 - 本科 4 年生全員
 - 専攻科 1 年生の希望者
- 2) 本校担当
 - キャリア支援室長、学生課長、学生係
- 3) 企業（未定）

（出典：学生課資料）

地域共同テクノセンターCO-OP教育推進室規程(抜粋)

制 定 平成24年2月29日

(趣旨)

第1条 この規程は、鶴岡工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程第6条第2項に基づき、地域共同テクノセンターCO-OP教育推進室(以下、「推進室」という。)の組織及び運営等に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 推進室は、産業界と連携し、本校における産学共同教育の推進を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 推進室は、室長1名及び室員3名で構成する。

2 室長は、副センター長のうち、センター長が指名した者をもって充て、推進室を統括する。

3 室員は、センター員をもって充てる。

(業務)

第4条 推進室は、第2条に掲げる目的を達成するため、次の業務を行う。

- 一 地域企業等との連携による共同教育の推進に関すること。
- 二 企業技術者の教育力の強化に関すること。
- 三 その他CO-OP教育の推進に関すること。

(出典：規程集)

CO-OP教育の活動

CO-OP(コーオブ)教育推進室の活動

地域に密着したグローバルエンジニア育成のために

CO-OP教育推進室 神田 和也



1. CO-OP(コーオブ)教育の概要

CO-OP 教育とは、北欧米で 100 年以上の歴史を持つ、教育プログラムで、学生が講義と就業を繰り返すことで、コミュニケーション能力の育成、基礎技術の習得、問題解決能力の向上を図る、就業体験学習のことです。

CO-OP 教育には、企業、学生、教育機関の 3 者で様々なメリットがあると言われています。

企業側のメリットとして、必要な基礎能力を身につけた優秀な人材を獲得することができ、また技術シーズとのマッチングによる共同研究により、技術課題の解決を図ることができます。

学生側のメリットとして、専門知識・技術の習得や運用・実践力、就業基盤能力が身につく。また就職希望企業へのチャンネルを獲得することもできます。

教育機関側のメリットとして、学生の目的意識やキャリア意識の強化、またカリキュラムへのフィードバックを図ることができます。

本プログラムは、以上のように長い歴史と実績のある CO-OP 教育を、幅広い技術やノウハウの伝承を目的とする企業技術者活用プログラムを活かし、鶴岡高専としての構築を目指しています。

日本では大学・高専といった高等教育機関の約 50%が 2 週間程度の体験的なインターンシップを実施しており、本校にても創立当初から第 4 学年の学生が約 1 週間、企業での工場実習を実施しています。このインターンシップにおける成果をさらに大きなものとするため、本事業は 5 年間一貫教育という高専の独自性を生かし、高専 3 年生から実際に長期休暇を利用し、専門関連企業における仕事をステップアップしながら、5 年生まで就業することによって、上記の成果に加え、コミュニケーション能力・基礎技術・問題解決能力・エンジニアリングデザイン能力の養成を図るものです。

このような取り組みにより、鶴岡高専生が現場を知った上で新たな技術開発（イノベーション）

就業能力の向上

On-campus教育
(講座・問題解決)

卒業生の講話(3年)
外部者による講演・授業
客員教授による特別講義実施
専攻科社会人入学生の聴講
退職技術者の雇用

学学教育
(単位互換・共同研究)

単位互換等
(コンソーシアム山形)
鹿児島大学・リテライトラボ創設
学外教員による講義
共同研究・公費研究・依頼研究

現場体験教育
(就業体験・共同研究)

工場見学(1年~4年)
インターンシップ(4年、専攻科)
共同研究・公費研究・依頼研究
長期休暇を利用する企業との共同教育
企業訪問研修会

のできる立派な技術者になってほしいとの思い、また本プログラムを通じて企業へ優秀な人材を供給でき、企業の生産技術をはじめとする生産活動の活性化が行えるとの確信から、本プログラムを開始したものです。

2. 本校の取組み

(1) 企業訪問研修

平成24年11月下旬～12月中旬、地元企業5社【(株)高砂電子機器製作所、(株)シンクロン、オリエンタルモーター(株)、東北エプソン(株)、水澤化学工業(株)】のを本科3年生、4年生、専攻科1年生、実参加人数：26名、延べ参加人数：53名が訪問し研修を実施しました。

本校卒業生が技術者として活躍している地元企業に、地元企業への就職を考えている学生(本科3・4年生、専攻科1年生)を引率し、現役の企業技術者と懇談する機会を設け、実社会での企業人としての心構えなどを研修させるものです。

るものです。

懇談会では、初めは緊張した面持ちで質問をしていた学生も、OB・OGの方々の企業人としての様々な体験談、時にユーモアを交えた話に、終盤ではこんなことを質問して良いのか?と思うような質問も出され、OB・OGの方々からはそのような率直な質問にも笑顔で真摯に答えていただくことができました。

参加学生はこの研修により、企業で生き生きと働く先輩方の姿を間近で感じ、また企業人となるために自分に今足りないものに気づくことができ、今後の学校生活を有意義なものへと変える意識を強く持つことができました。

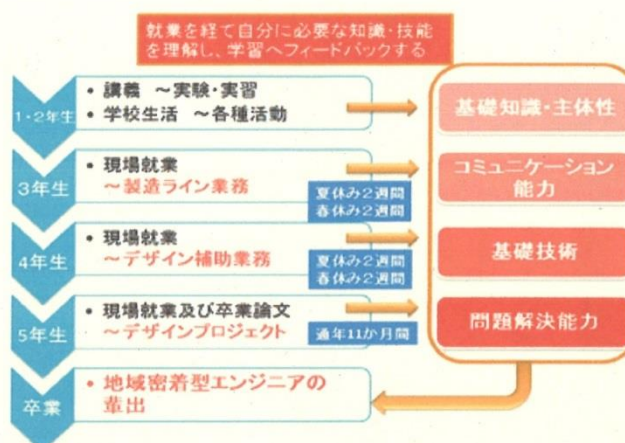
(2) 長期休暇を利用する終業体験学習

12月よりWebサイトを開設し、企業からの参加申請を可能にしました。1月下旬には、学生向けの説明会を開催しました。

3月の春季休業を利用した就業体験学習を開始しました。

今後は、低学年のキャリア教育を連動させながら参加学生を募ると共に、参加企業の拡大につとめていきたいと思います。

皆様のご理解・ご協力宜しくお願い申し上げます。



企業訪問研修の様子

(出典：地域共同テクノセンターリポート第13号，pp.60-61)

CO-OP教育の実施例

CO-OP 教育参加申込書

平成 25 年 2 月 21 日

鶴岡工業高等専門学校長 殿

学 科 名 電気電子 工学科
学 年 3 年
学籍番号
氏 名

下記企業において CO-OP 教育に参加をしたいので申込みます。

記

1 希望する企業名

ティービーアール株式会社

2 添付書類

履歴書 1 通

CO-OP(コーオプ)教育 採用票

地域企業で
『モノ造りの現場』を学ぶ！



募集企業	ティービーアール株式会社
就業体験 学習目標	生産工学(IE)、品質管理(QC)手法を学ぶ コミュニケーションスキルの向上
就業内容	技術スタッフ補佐(ブレーキ関係鋳物製造ライン)
応募資格	本科3, 4年生 専攻科1年生
募集人数	1名
就業期間	H25年3月18日(月)～3月29日(金) 【2週間】
就業時間	8:15～17:10(日勤)
就業場所	鶴岡市宝田一丁目11-16
待遇	時給750円

参加希望する学生は学生課教務係へ

募集期限
H25.2.22(金)

(出典：学生課資料)

資料 7 - 2 - ④ - 10

企業訪問研修会

平成24年度企業訪問研修先一覧

企業名	訪問日	参加申込者数(延べ人数)			計	参加者数 (延べ人数)
		本科3年生	本科4年生	専攻科1年生		
株式会社高砂電子機器製作所	11/29(木)		9		9	9
株式会社シンクロン	12/6(木)		4	2	6	6
オリエンタルモーター株式会社	12/11(火)	1	15	2	18	18
東北エプソン株式会社	12/12(水)	1	12	2	15	12
水澤化学工業株式会社	12/19(水)		4	1	5	3
		2	44	7	53	48

資料 7 - 2 - ④ - 10 続き

平成 24 年 11 月 26 日

高砂電子機器製作所 訪問学生 各位

地域企業訪問研修会連絡事項

地域共同テクノセンター長

訪問先：高砂電子機器製作所

日 程：平成 24 年 11 月 29 日(木)

15:40 学生昇降口前集合
15:45 スクールバスで出発
16:00 企業着

16:00～17:00 懇談
①学校側あいさつ、趣旨説明、学生紹介
②企業側あいさつ
③企業技術者会社概要プレゼン
④工場見学
⑤質疑応答
⑥ディスカッション *学生、社員のみ

17:00 企業出発
17:30 学校到着（予定）

【持ち物、注意事項】

- ・筆記用具、上履き、事前に配布された会社案内を持参すること。
- ・清潔感のある服装で参加すること。（スラックス・襟付シャツ・ジャケット等）
- ・体調不良等で欠席する場合には必ず教務係へ申し出ること。

（出典：学生課資料）

資料 7 - 2 - ④ - 11

就職資料室



(出典：学生課資料)

資料 7 - 2 - ④ - 12

企業面談表 (抜粋)

No.	企 業 名	来 校 日	E	面談対応教員
1	富士通(株)	2012/4/2	○	保科紳一郎
2	(株)シンクロン	2012/4/6	○	佐藤 秀昭
3	京セラ(株)	2012/4/9	○	保科紳一郎
4	(株)ヤクルト本社福島工場	2012/4/9	○	佐藤 淳
5	(株)登米村田製作所	2012/4/11	○	森谷 克彦
6	(株)アトマックス	2012/4/13	○	神田 和也
7	鶴岡ガス(株)	2012/4/18	○	佐藤 秀昭
8	東芝電機サービス(株)	2012/4/20	○	佐藤 秀昭
9	レンゴー(株)新潟工場	2012/4/20	○	佐藤 淳
10	(株)日ピス福島製造所	2012/4/24	○	内山 潔
11	(株)YCC情報システム	2012/4/25	○	内山 潔
12	日立アプライアンス(株)	2012/5/8	○	神田 和也
13	(株)フォーラムエンジニアリング	2012/5/9	○	宝賀 剛
14	(株)高砂電子機器製作所	2012/5/10	○	保科紳一郎
15	テコム(株)	2012/5/11	○	佐藤 秀昭
16	伊藤電子工業(株)	2012/5/15	○	佐藤 淳
17	十川産業(株)	2012/5/15	○	江口宇三郎
18	森永乳業(株)盛岡工場	2012/5/16	○	佐藤 秀昭
19	(株)ヒロエンジニアリング	2012/5/17	○	佐藤 秀昭
20	富士電子(株)	2012/5/31	○	佐藤 秀昭
21	(株)スタンレー鶴岡製作所	2012/6/4	○	森谷 克彦
22	日本鉄塔工業(株)	2012/6/6	○	佐藤 秀昭
23	地熱エンジニアリング(株)	2012/6/8	○	佐藤 秀昭
24	富士エンジニアリング(株)	2012/6/14	○	内山 潔
25	(株)フォーラムエンジニアリング	2012/6/19	○	佐藤 淳
26	(株)日立エレクトリックシステムズ	2012/6/19	○	保科紳一郎
27	理想科学工業(株)	2012/6/27	○	保科紳一郎
28	十川産業(株)	2012/7/4	○	佐藤 秀昭
29	(株)明治坂戸工場	2012/7/13	○	神田 和也
30	山形クリエイティブ(株)	2012/7/13	○	佐藤 秀昭
31	(株)山形新聞社	2012/8/3	○	佐藤 秀昭
32	TDK庄内(株)	2012/8/31	○	吉木 宏之
33	東和薬品(株)	2012/9/6	○	保科紳一郎
34	東芝ディーエムエス(株)	2012/9/6	○	佐藤 秀昭
35	タカラスタンダード(株)	2012/9/12	○	佐藤 秀昭
36	(株)フォーラムエンジニアリング	2012/9/14	○	佐藤 秀昭
37	キヤノン(株)	2012/10/17	○	佐藤 秀昭
38	吉野石膏(株)	2012/10/26	○	佐藤 秀昭
39	東京地下鉄(株)	2012/11/1	○	佐藤 秀昭
40	富士通(株)	2012/11/12	○	武市 義弘
41	伊藤電子工業(株)	2012/11/15	○	佐藤 秀昭
42	東京電力(株)	2012/11/15	○	佐藤 秀昭
43	鋼鉄工業(株)	2012/11/20	○	吉木 宏之
44	日本リーテック(株)	2012/12/3	○	武市 義弘
45	(株)IHI	2012/12/4	○	保科紳一郎
46	山崎製パン(株)	2012/12/6	○	佐藤 秀昭
47	(株)日ピス福島製造所	2012/12/7	○	森谷 克彦
48	(株)NHKメディアテクノロジー東北支社	2012/12/10	○	佐藤 秀昭
49	(株)アトマックス	2012/12/14	○	宝賀 剛
50	(株)三興	2012/12/14	○	佐藤 秀昭
51	(株)NTTぷらら	2012/12/14	○	吉木 宏之
52	東レ(株)	2012/12/17	○	佐藤 秀昭
53	財団法人東北電気保安協会	2012/12/19	○	吉木 宏之
54	(株)NTTファシリティーズ東北	2012/12/19	○	佐藤 秀昭
55	(株)ブルボン	2012/12/20	○	内山 潔
56	(株)エヌ・ティ・ティーエムイー	2012/12/21	○	保科紳一郎
57	東日本高速道路(株)	2013/1/7	○	佐藤 秀昭
58	ダイキン工業(株)	2013/1/11	○	佐藤 秀昭
59	理研ビタミン(株)	2013/1/17	○	佐藤 秀昭

(出典：学生課資料)

資料 7 - 2 - ④ - 13

企業訪問担当表

平成25年度 企業訪問一覧

2013年6月17日

機械工学科

訪問なさる先生	訪問先	一覧提出日	訪問日	訪問時間	担当者	連絡先	郵便番号	住所
本橋先生 (県外)	コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社	1月16日	1月22日				103-0023	東京都中央区日本橋本町1-5-4
	日本工営株式会社		3月23日				962-8508	福島県須賀川市森宿字道久1-22
	株式会社JALエンジニアリング	1月29日	3月21日	10:00				
	株式会社東芝		3月21日					
	大日精化工業	2月1日	3月22日					
	出光エンジニアリング株式会社		3月22日					
	山崎製パン株式会社	2月6日	3月22日					
	株式会社キッツ		3月22日					
	株式会社前川製作所	2月21日	3月21日					
	株式会社丸東製作所	2月27日	3月23日					東京都江東区白河2-15-4
矢吹先生	株式会社明治東北工場	1月21日	3月11日	9:00				宮城県黒川郡大和町松坂平3-1
	山形クリエイティブ株式会社		3月8日	10:00				山形県天童市大字山口字大仏1655
	日新製薬株式会社	2月19日	3月8日	13:00				山形県天童市清池東2丁目3-1
	株式会社ヤクルト本社福島工場	2月20日	3月11日	9:00				福島県福島市星岩字遠沖10-1
	株式会社いそのポデー		3月12日	10:00				山形県山形市西越25
	TPR工業株式会社	2月22日	3月12日	13:00				山形県寒河江市中央工業団地1

電気電子工学科

訪問なさる先生	訪問先	提出日	訪問日	訪問時間	担当者	連絡先	郵便番号	住所
佐藤秀昭先生 (県外)	株式会社京都製作所		11月5日	9:00			613-0916	京都府京都市伏見区淀美豆町377-1
	中部電力株式会社		11月5日	13:30			461-8680	愛知県名古屋市中区東新町1
	雪印メグミルク株式会社	10月19日	11月6日	9:15			160-8575	東京都新宿区本郷町13
	株式会社KDDIエンジニアリング		11月6日	11:00			160-0023	東京都新宿区西新宿4-33-4 住友不動産西新宿ビル4号館4階
	株式会社システナ		11月6日	13:30			105-0022	東京都港区海岸1-2-20 汐留ビルディング14階
吉木先生 (県外)	株式会社ニコン							
	株式会社Mテック		3月15日	10:00			279-8504	千葉県浦安市舞浜1-1
	ジャパンマリンユナイテッド	1月29日	3月15日	14:00			235-8501	神奈川県横浜市磯子区新杉田町12番
	日本信号株式会社		3月13日	13:00			100-6513	東京都千代田区丸の内1-5-1
	東京エレクトロンFE株式会社		3月14日	10:00			183-8705	東京都府中市住吉町2-30-7
	キャノン株式会社	2月28日	3月14日	13:30			146-8501	東京都大田区下丸子3-30-2
加藤先生 (県内)	鶴岡ガス		3月7日					
	東北エプソン							
	ヤマテック株式会社							
	山形東亜DKK株式会社	3月1日	3月21日					
	株式会社トプコン山形		3月22日					
	スタンレー鶴岡製作所		3月28日					

制御情報工学科

訪問なさる先生	訪問先	提出日	訪問日	訪問時間	担当者	連絡先	郵便番号	住所
渡部先生 (県外)	NTTコムテクノロジー株式会社		1/21				101-8347	東京都千代田区猿樂町1-5-15 猿樂町SSビル
	株式会社沖電気カスタマドテック						135-0042	東京都江東区木場2-7-23 第一びる
	株式会社富士通ディフェンスシステムエンジニアリング	1月11日	~				102-0083	東京都千代田区麹町5-1 弘済会館5階
	株式会社メイテックフィルダーズ		1/23				107-0052	東京都港区赤坂6-5-26 赤坂DSビル
	イーテック/株式会社						231-0013	神奈川県横浜市中区住吉町1-14 第一総業ビル7階B室
安齋先生 (県内)	山形スリーエム							
	三和油脂		3月21日					
	アイジー工業							
	東北ネクスコ	2月22日						
	NTTファシリティーズ		3月22日					
	東北バイオニア							

物質工学科

訪問なさる先生	訪問先	提出日	訪問日	訪問時間	担当者	連絡先	郵便番号	住所
瀬川先生 (県外)	沢井製薬株式会社	2月18日	3月11日					
	大阪有機化学工業株式会社		3/10~3/13					
	東和薬品株式会社本社	2月19日						
栗野先生 (県内)	伊藤電子工業株式会社			10:00			991-0061	寒河江市中央工業団地185-15
	株式会社ヤガイ		3月25日	13:30			990-2345	山形市富神台8
	アリオテック株式会社	1月31日		15:00			990-2473	山形市松栄1-1-58
	京セラクリスタルデバイス山形株式会社			9:30			999-3701	東根市東根甲5850
	日東ベスト株式会社		3月26日	13:00			994-0011	天童市北久野本1-6-50

(出典：学生課資料)

進学先の学校説明会

豊技大教育第 15 号
平成 24 年 11 月 28 日

鶴岡工業高等専門学校長 殿

豊橋技術科学大学長
榊 佳 之【公印省略】

学校訪問について（依頼）

平素は、本学の教育・研究に対し御高配を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、このたび貴校を下記のとおり訪問させて頂きたく、御多用中恐縮ですが、よろしくお取り計らい願います。

記

- 1 目 的 本科生及び専攻科生を対象に、本学の教育・研究の内容、第 3 年次編入学制度及び博士前期課程入学制度の概要を紹介するとともに、貴校教務主事又は進路指導担当教員と面談し、情報交換を行う。
- 2 日 時 平成 24 年 12 月 6 日（木）説明会：15 時 50 分～
面 談：説明会後
- 3 訪問者 所 属 機械工学系
職 名 教授
氏 名 飯田 明由（いいだ あきよし）

本件照会先

豊橋技術科学大学教務課教育支援係
（高専連携室事務担当）

電話：0532-44-6543 e-mail：kousen@office.tut.ac.jp

平成 24 年 11 月 6 日

長岡技術科学大学 出前講義・大学説明会のご案内

長岡技科大の出前講義・大学説明会を下記の通り実施致します。高専において直接大学の先生から説明を聞くことは少ないため、大変貴重な機会となります。進学希望にかかわらず就職を考えている学生も一つの知見を広げるためにも積極的に参加してみてください。

記

来校者： 長岡技術科学大学

経営情報系 山田耕一先生

日 時： 平成 24 年 11 月 29 日（木） 8 校時目

場 所： 4 I の教室（7 号館 3 階、7 3 1 号室）

対象者： M・E・I・B 科の 4 年生

以上

（出典：学生課資料）

資料 7 - 2 - ④ - 15

平成24年度就職・進学状況（抜粋）

就職内定先一覧

平成 2 5 年 3 月 3 1 日現在

学 科 名 会 社 名	機 械 工 学 科	電 気 電 子 工 学 科	制 御 情 報 工 学 科	物 質 工 学 科	専 攻 科	合 計	学 科 名 会 社 名	機 械 工 学 科	電 気 電 子 工 学 科	制 御 情 報 工 学 科	物 質 工 学 科	専 攻 科	合 計
【建設業】							【一般機械器具】						
出光エンジニアリング(株)	1					1	(株) I H I	2					2
三和メイテック(株)	1					1	(株) M テック		1				1
大和ハウス工業(株)		1				1	(株) 京都製作所		1				1
東北電化工業(株)			1			1	倉敷機械(株)					1	1
(株) 日立ビルシステム	2					2	(株) 島精機製作所			1			1
(株) 横河ブリッジホールディングス	1					1	(株) シンクロン	1		1		1	3
							(株) 太陽機械製作所			1			1
【食料品】							(株) 前川製作所					1	1
帯谷食品(株)				1		1	山形航空電子(株)	1					1
月島食品工業(株)	1					1							
(株) ブルボン		1				1	【電気機械器具】						
(株) 明治関西工場・関西アイスクリーム工場	1					1	G E ヘルスケア・ジャパン(株)	1					1
森永製菓(株)	1					1	(株) ウエノ			1			1
森永乳業(株) 利根工場				1		1	オリエンタルモーター(株) 鶴岡事業所			1			1
(株) ヤクルト本社福島工場			1			1	キャノン・コンポーネンツ(株)	1					1
山崎製パン(株)	1					1	(株) スタンレー鶴岡製作所					2	2
雪印メグミルク(株)		2		1		3	(株) 高砂電子機器製作所		1				1
理研ビタミン(株)	1					1	日本リーテック(株)		1				1
							ミツミ電機(株) 山形事業所					1	1
【繊維工業】							(株) 山形共和電業					1	1
旭化成(株)				1		1							

資料 7 - 2 - ④ - 15 続き

(株)クラレ新潟事務所	1					1	【輸送用機械器具】						
日清紡ホールディングス (株)土気出張所				1		1	T P R 工業(株)				1	1	2
							曙ブレーキ工業(株)				1		1
【出版】							(株)いそのポデー	1					1
東北オフセット(株)			1			1	(株)グローバルマシーン	1					1
							本田技研工業(株)	1					1
【化学工業】							マーレエンジンコンポ ーネンツジャパン(株)					1	1
D I C (株)					2	2							
(株)エースジャパン				1		1	【精密機械製造】						
大阪有機化学工業(株)				2		2	(株)アライドテック		1	1			2
三洋化学工業(株)		1				1	キヤノン(株)		1				1
第一三共ケミカルファーマ(株)				1		1	東北エプソン(株)					1	1
ディップソール(株)					1	1	(株)トプコン山形					1	1
東和薬品(株)		1		2	1	4	(株)ニコン		1				1
日弘ビックス(株)				1		1							
水澤化学工業(株)	1			1	1	3	【その他】						
三菱ガス化学(株)新潟工場		1				1	アリオンテック(株)	1					1
ライオン(株)				1		1	(株)キッツ	1					1
							(株)高研				1		1
【石油・石炭製品】							吉野石膏(株)		1				1
極東石油工業(株)	1					1	レンゴー(株)新潟工場		1				1
出光興産(株)	1					1	レンゴー(株)八潮工場			1			1
【金属製品】							【卸・小売業】						
東新工業(株)横浜工場		1				1	ナブコシステム(株)	1					1

資料 7 - 2 - ④ - 15 続き

大学等への編入学状況一覧表

平成 25年 3月 11日現在

年度・学科 大学等名		25年度 (25年3月卒業)				
		M	E	I	B	計
鶴岡工業高等専門学校(専攻科)		5 (4)	8 (4)	8 (4)	8 (4)	29 (16)
長岡技術科学大学					9 (3)	9 (3)
豊橋技術科学大学	工学部	3 (2)	2 (1)	1 (1)		6 (4)
岩手大学	工学部	1 (1)				1 (1)
千葉大学	工学部	1 (1)				1 (1)
電気通信大学	情報理工学部	1 (1)				1 (1)
筑波大学	情報学類			2 (0)		2 (0)
新潟大学	工学部	2 (1)		2 (2)		4 (3)
金沢大学	理工学域			1 (0)		1 (0)
神戸大学	工学部			1 (0)		1 (0)
都留文科大学			1 (0)			1 (0)
室蘭工業大学			1 (0)			1 (0)
合 計		13 (10)	12 (5)	15 (7)	17 (7)	57 (29)

※()内は推薦による入学で内数

資料 7 - 2 - ④ - 15 続き

専攻科生の大学院等への進学状況一覧表

平成 25年 3月 11日現在

年度・専攻 大学院等名		25年度 (25年3月卒業)		
		ME	CB	計
長岡技術科学大学			1	1
大学院				
京都大学大学院			1	1
北陸先端科学技術		1(1)		1
大学院大学				
慶応義塾大学大学			1	1
院				
山形大学大学院		1		1
合 計		2(1)	3	5(1)

※()内は推薦による入学で内数

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

就職対策について推進する組織があり，就職資料室も設置している。準学士課程 1～4 年生及び専攻科課程 1 年生に対して進路指導を実施し，教員が企業面談・訪問を行っており，また進学先と情報交換を行っている。就職率・進学率ともに100%である。

以上により，就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され，機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

準学士課程、専攻科課程とも、全ての学生を対象として、適切な形で学習ガイダンスを実施している。学習上の相談、助言を行うためにオフィスアワーが設けられており、学生のニーズに応じて指導を行っている。

リフレッシュルームは、学生のコミュニケーションスペースとしての役割を果たしている。留学生スペースは、留学生のコミュニケーションの場として利用されている。

3年生以上の学生に対し、授業の中でTOEIC対策への支援を十分に行っている。その他の資格試験についても、授業の中で対策支援を行っている。

国際交流支援室が中心となって留学生への学習支援を企画、実施している。また、留学生のための日本語、日本事情の授業を開講し、チューターをそれぞれの留学生に配置して、日常生活や学習等に対するサポート体制をとっている。

障がいのある学生に対しては学生支援センターが中心となり、支援する体制が整備され、機能している。

課外活動では、後援会から支援を受け、学生の経費負担を軽減している。講習会等で、学生の安全・健康管理を徹底している。キャリア支援室による就職・進学サポート体制が充実している。

(改善を要する点)

特になし

(3) 基準7の自己評価の概要

準学士課程、専攻科課程とも、全ての学生を対象として、適切な形で学習ガイダンスを実施している。学習上の相談、助言を行うためにオフィスアワーが設けられており、学生のニーズに応じて指導を行っている。以上のことから、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

図書メディアセンターは蔵書の数、種類ともに豊富であり、多くの学生が利用している。総合情報センター、製図室は授業時間外でも利用可能であり、学生の自主的学習への配慮がなされている。また、学寮自習室は多くの寮生が有効に活用している。リフレッシュルームは、学生のコミュニケーションスペースとしての役割を果たしている。留学生スペースは、留学生のコミュニケーションの場として利用されている。キャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されている。

学生からのニーズは、教育改善アンケート結果、授業アンケートの自由記述欄、将来構想・戦略会議委員と学生の意見交換会、本校ウェブページの意見箱で確認できる。

授業の中でTOEIC対策への支援を十分に行っている。その他の資格試験についても、授業の中で対策を行っている。国際交流支援室が中心となり学生の国際交流を奨励している。学生のニーズを適切に把握し、それを支援する体制が整備され、機能している。

国際交流支援室が中心となって留学生への学習支援を行っている。また、留学生のための授業を開講し、チューターを配置して、日常生活や学習等に対するサポート体制をとっている。編入学生に対しては、入学前、入学後に学習支援を行っている。障がいのある学生に対しては学生支援センターが支援を行っている。特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援体制が整備されている。

本校では明確な活動目標を設定し、顧問教員他を適切に配置して支援を行っている。資金面においては、後援会から支援を受け、学生の負担を軽減している。また、学生に対して表彰を行っている。構内に課外活動を行うための設備が揃っている。講習会等で、学生の安全・健康管理を徹底している。学生会は、学生会担当教員の助言、指導の下で活動を行っている。課外活動に対する支援体制が整備され機能している。

共通の生活指導方針があり、クラス担任が個々の学生に対してきめ細かな指導を行っている。学生全体への生活指導は、学生委員会が行っている。鶴岡警察署の講師により、交通講話及び生活指導講演会を開催し学生の理解を深めている。学生支援センター相談室及び保健室は、生活相談を中心とした身体的・精神的な相談を行っている。一定の基準を満たした学生には、奨学金の周知・助言や授業料の減免を行い、経済的に支援している。学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

適切な学寮運営のための組織及び寮生の自治、親睦のための組織がある。学寮行事には、親睦だけでなく教育に資するものも含まれている。寮生は日課表に従って生活し、毎日一定の時間を学習に費やしている。学寮は、寮生が生活するのに必要な設備が整っており、耐震・トイレ改修工事などにより、寮生活がより快適となっている。学寮は学生の生活及び勉学の間として有効に機能している。

就職対策について推進する組織があり、就職資料室も設置している。準学士課程 1～4 年生及び専攻科課程 1 年生に対して進路指導を実施し、教員が企業面談・訪問を行っており、また進学先と情報交換を行っている。就職率・進学率ともに 100% である。就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能している。